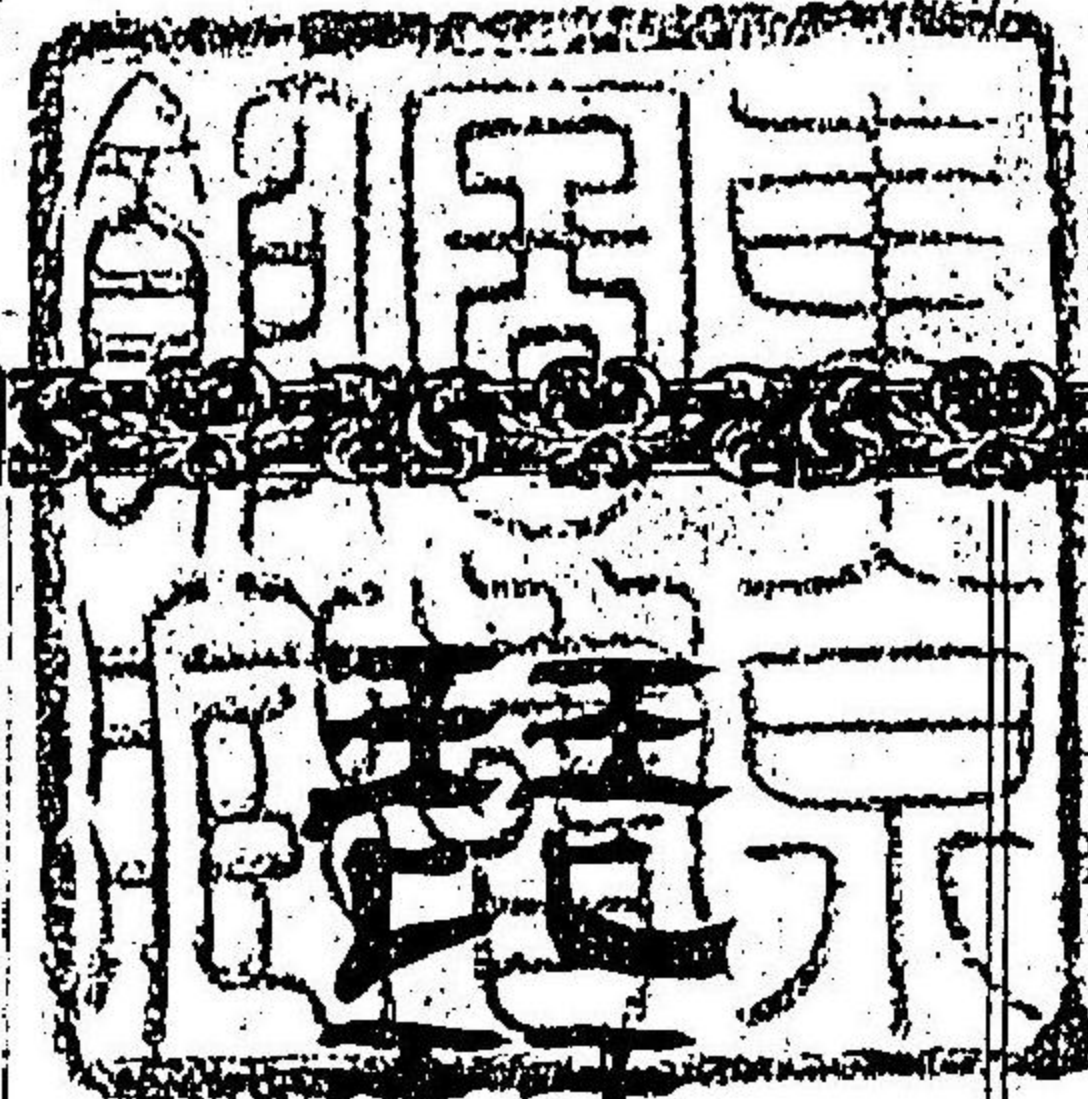


ZF14

27-55



明治廿八年六月刊行

京都府立憲要誌附録

京都市參事會



琵琶湖疏水要誌附録

目次

一 摘要

本編ハ最初ヨリ終局ニ至ル來歴甚々錯雜セルヲ以テ特ニ本章ヲ設ケ其大要ヲ摘載シ以テ看讀ノ便ニ供ス

一 市會

本章ハ市會ニ於テ明治二十二年度ヨリ同二十七年度ニ至ル工費ヲ議定セシ顛末ヲ記述スルモノトス

一 起工特許

本章ハ工事起工ノ請願ヨリ政府ノ特許ヲ得タル始末ヲ記述スルモノトス

一 水路事務所

本章ハ明治二十三年一月十八日府廳内ニ新運河事務分

擔ヲ定メ同二十五年八月十九日紀伊郡深艸村大字福稻
ニ水路事務所ヲ設ケ同二十七年十月三十日之ヲ廢セシ
迄其沿革及施行順序並ニ内規等ヲ記載スルモノトス

一 土地

本章ハ起工以來各官衙へ照會往復セシ事件中殊ニ其効
力ヲ永遠ニ存スルモノヲ記載スルモノトス

一 工費精算

本章ハ明治二十三年一月以來同二十八年三月ニ至ル迄
各年度支出セシ工費ノ細目ヲ記載スルモノトス

一 工事

本章ハ測量、用地、開門、運河、傾斜鐵道、橋梁、船
溜、放水場、水越場、暗溝等各工事ノ詳細ヲ記載スル
モノトス

一 疏通式 附宴會

本章ハ明治二十七年九月二十五日疏通式ヲ舉行セシ顛
末ヲ記載スルモノトス

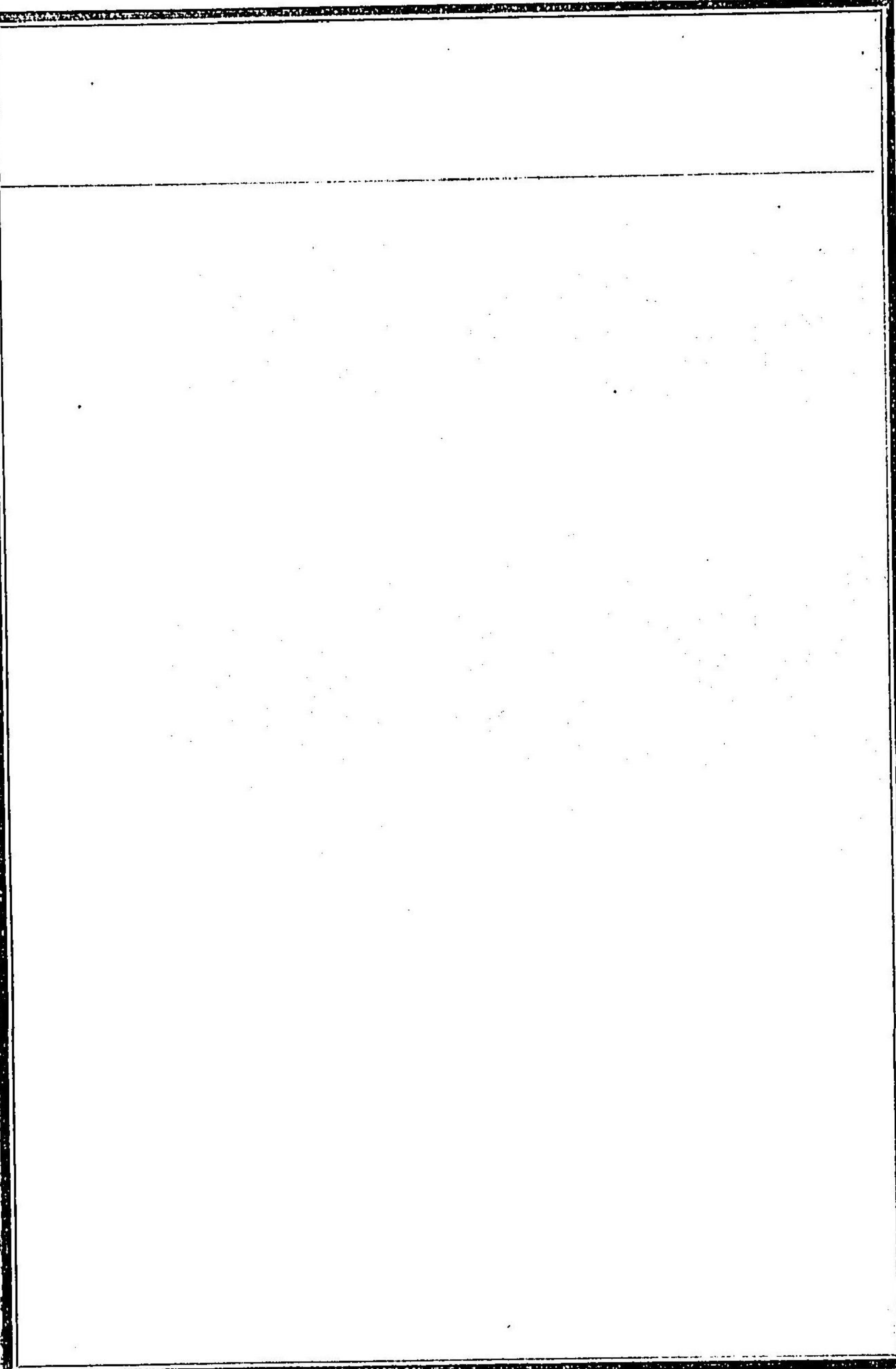
一 附記

本章ハ事務所員、議員、臨時土木委員等本工事ニ從事
セシ諸員ノ人名ヲ記載スルモノトス

一 水量觀測

本章ハ琵琶湖、勢田川、淀川水面及堀川水面ノ増減ヲ
量定セシモノヲ記載スルモノトス

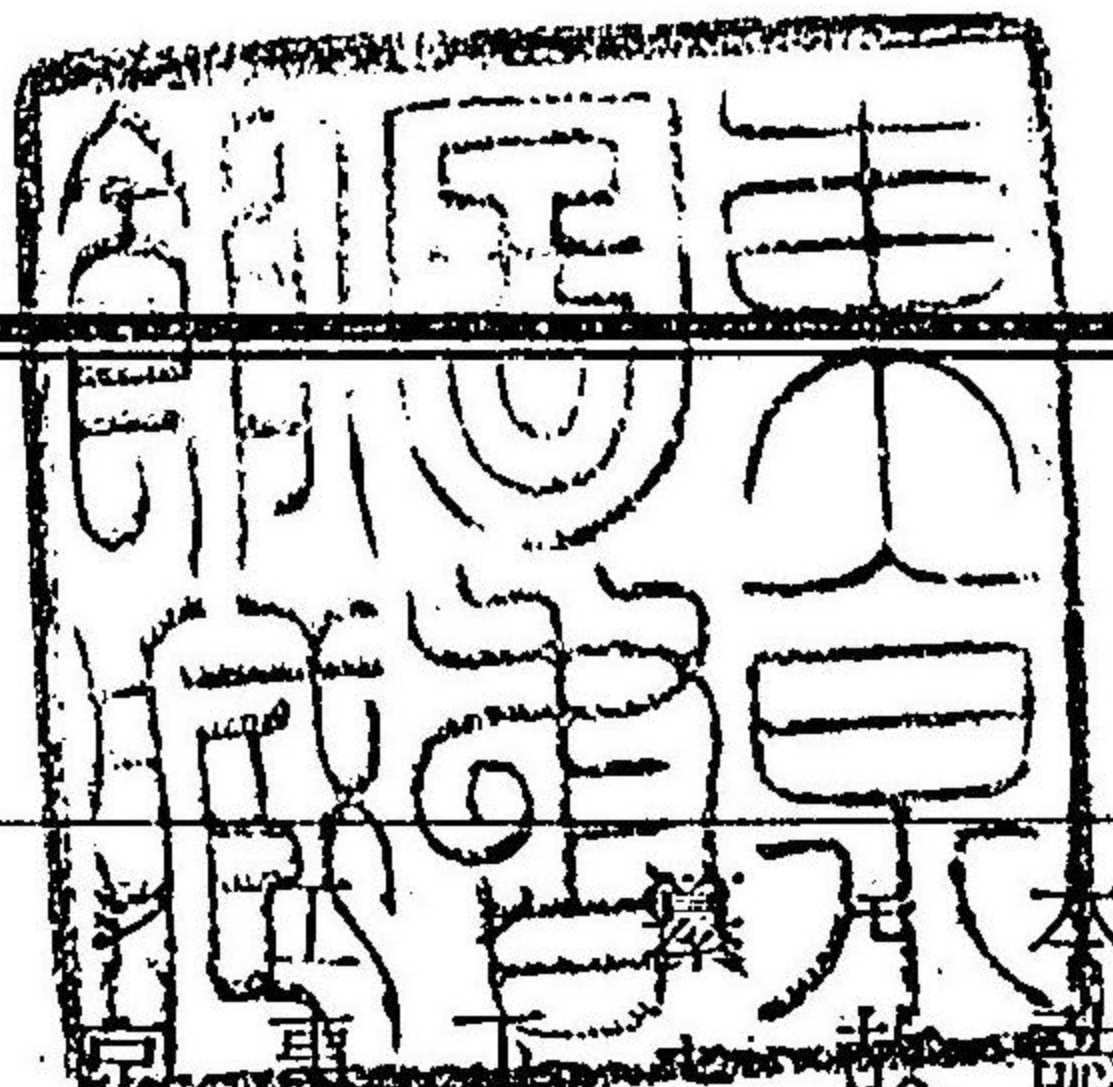
一 雜記



琵琶湖疏水要誌附録

京都府屬 木村與三郎編纂

摘要



本誌ハ琵琶湖疏水要誌全三冊中ニ合纂スヘキ豫定ナリシ
 故アリテ之ヲ果サ、リシヲ以テ今回更ニ附録トシテ編
 ルモノハ鴨川新運河工事ノ顛末ヲ記載シ全局ヲ一讀
 ニ判然タラシメン爲メ左ニ工事ノ大體ヲ畧記ス
 ノ大意 鴨川筋新運河工事ハ琵琶湖疏水工事ニ關聯
 都市上京區東川端通夷川疏水落合点ヨリ鴨川ノ東岸
 ヲ沿ヒ七條ノ南紀伊郡宇柳原町地内ニ於テ鴨川ヲ離レ堤
 防ヲ東ニ横斷シテ田圃ニ入り同郡伏見町宇堀詰ニ達スル
 延長二里十町餘ノ本流ニシテ是ヨリ先キノ舊壕ハ古來ヨ
 リ舟楫ヲ通スルモノニシテ僅々十餘町ヲ經テ淀川ニ達ス

ルモノナリ
此計畫ハ明治廿二年以來實地ノ測量工事ノ計畫費金ノ收
支ヲ熟慮細考シ同年十二月之レカ負擔ヲ市會ニ附議シタ
ルニ審議ノ末調査スルコトトナリ同二十三年一月ノ市會
ニ於テ原案ノ通り確定シタルヲ以テ北垣府知事ハ同年二
月ヲ以テ東上シ起工ノ義ヲ其筋へ伺出ラレ同年六月特許
ヲ得テ起工ニ着手中同二十四年二月市會ノ決議ヲ以テ一
旦工事ヲ中止シ同二十五年八月ノ市會ニ於テ多少前設計
ヲ補修シ更ニ起工スルコトトナリ同二十七年九月ヲ以テ
疏通式ヲ舉行スルニ至レリ今起工ヨリ疏通式ニ到ル年月
ヲ數フレハ年ヲ經ルコト五ヶ年月ヲ閱スルコト五十二ヶ
月ノ多キニ涉リ非常ノ歲月ヲ經過シタルカ如クナルモ此
間中止中等ノ歲月ヲ扣除セハ實際ハ二年十一ヶ月ニテ竣

功セリ然レトモ最初一ヶ年ノ豫定ニ比セハ猶長日月ヲ要
シタリ然ル所以ハ必竟中止等ノ障害ニヨリ無用ノ日數ヲ
空消シタルニ外ナラス故ニ其沿革ノ大要ヲ左ニ記載スヘ
シ

沿革 明治二十二年十二月此計畫ノ收支豫算ヲ市會ニ
附議スルヤ紛議百出停止スル所ヲ知ラス終ニ調査委員
ニ議案ヲ托ス同二十三年一月ノ市會ニ於テ委員ノ報告
セシ要旨ニヨレハ目下市ノ負擔輕カラサルヲ以テ不日
經濟ヲ整理シ餘裕ヲ生スル時ヲ俟ツテ徐ロニ起工スル
モ遅カラス故ニ當分延期スヘシトアリシニ茲ニ一ノ新
說ヲ提出スルアリテ鴨川疏水落合ヨリ竹屋町ト夷川ト
ノ間ヲ堀川迄横斷シ其末流ヲ天神川ニ連絡シ淀川ニ合
スル計畫ニ變更セントセシモ審議ノ末終ニ消滅シ原案

ニ確定ス同年六月特許ヲ得テ起工ニ着手中同年十一月ノ市會ニ於テハ計畫中不完全ナル個所アリト稱シ再調査スルコトトナリ又委員ニ托ス同二十四年二月ノ市會ニ於テ委員ヨリ報告セシ要旨ハ設計ニ不完全ナル廉アルヲ以テ費金ヲ増加セサルヘカラスト審議ノ末再議スルコトニ決シ其結果ハ二十五年年度ニ於テ起工スルコトトナリ一旦工事ヲ中止ス其後此工事中止ヲ機トシテ決議ヲ廢棄セント市會ニ建議ヲ提出スル有志輩アリ同二十五年三月ノ市會ニ於テモ亦此議ヲ提出スル議員アリ審議ノ末一旦廢棄ニ決セリ然ルニ又同月次ノ市會ニ於テハ又一ノ新説ヲ提出スル議員アリテ此計畫ニヨレハ鳴川疏水落合ヨリ東高瀬川ニ連絡セハ費用モ僅少ニシテ且便ナリト茲ニ於テ又調査委員ヲ設ケテ之レニ托ス

同年四月ノ市會ニ於テ委員ノ報告セシ要旨ハ前議ヲ採ラサルノミナラス曩ニ廢棄セシ起工ニ付諸般ノ手續ヲモ合セテ取消サント終ニ委員報告ノ如ク決ス然ルニ市民中此決議ヲ不當トシ斷行セント圖ル者陸續アレハ又之ニ反スル有志者モ有リテ共ニ市會ニ建議セリ同年五月ノ市會ニ於テ前會ニ決議セシ起工諸般ノ手續取消中政府ニ關スル事柄及市長ノ執行ノミ延期ヲ上申スルトニ決シ同年七月ノ市會ニ於テハ本工事ノ前設計ヲ多少補修シテ再ヒ起工スルコトニ確定セリ畢竟本工事カスノ如ク紛雜ヲ來セシモノハ大ニ原因ノアルアリ第一ハ疏水工事中議員ノ交迭ト多少計畫ヲ變更セントセシニモ據ルヘケレトモ元來疏水工事當初ノ計畫ニヨレハ高野川以西下鴨村ヨリ加茂川ノ西岸ニ達シ一ハ加茂川

ニ沿ヒ東高瀬川ニ通シ一ハ鞍馬口村小山村ヲ經テ小川頭ヨリ堀川ニ通シ及東高瀬川小川堀川ヲ改修シ以テ通船ノ便ヲ計ラントセリ然ルニ其後此計畫ヲ一變シテ鴨川ヲ改修シ運河ヲ開鑿セント希望スル者アルヨリ之レカ調査モ共ニ着手アリシヲ聞傳ヘ忽チ之ニ反對ヲ試ントセシニ又一方ニハ大ニ此計畫ヲ賛成シ北垣府知事ニ斷行ヲ希望スル者アルニ至リ市民ハ恰モ五里霧中ニ彷徨セル有様ナルヨリ舊上下京區會議員ハ默スルニ忍ヒストテ京都疏水工事解説書ナルモノヲ發表シ漸ク市民ノ迷夢ヲ攪破スル等事態甚々穩當ナラサルヲ以テ市參事會ハ輿論ヲ斟酌シ鴨川改修ヲ斷念シ單ニ鴨川筋新運河工事ノミヲ起工スルコトニ決シ之ヲ市會ニ附議セルニ至レリ

工事ノ目的 本工事ノ目的タル主トシテ運輸ノ便ヲ計ルニ在リト雖モ天然ノ地形勾配ニヨリ伏見舊桃山城元塚ニ至リ落差四十餘尺ノ傾斜鐵道ヲ設ケ他日此高低ヲ利用シテ水力ヲ起シ諸製造機械ノ原動力ニ供ス而シテ本工事成功ノ上ハ北ハ敦賀港ヨリ鐵道ニ藉リテ運送セシ貨物ハ滋賀縣長濱ヨリ琵琶湖ヲ經テ沿湖ノ貨物ト共ニ疏水ノ首線ナル大津ヨリ京都ニ至リ此水路ニヨリ直ニ淀川ヲ經テ大阪ニ達スルモノニシテ茲ニ於テ始メテ琵琶湖疏水工事當初ノ目的ヲ大成スヘケンハ直接ニシテハ運輸上ノ便利ハ勿論間接ニシテハ物貨集散上著シキ影響ヲ顯セハ隨テ價格ノ低下スルモ亦鮮少ニアラサルナリ

工事ノ計畫 水路ノ距離ハ四千九百二十間トナシ本線ハ鴨川疏水落合ニ起リ紀伊郡伏見地方ヲ經テ舊桃山城元塚

即ち堀内村字丹下ニ至リ四十八尺九寸ノ高低アルヲ以テ
船ハ長百六十間分ノ配十ノ傾斜鐵道ニヨリ直ニ深艸村小字
紺屋ノ本線ニ下リ水ハ上船溜脇ヨリ百二十個ノ水力發電
ノ用ヲ爲シ以テ再度下層ニ出テ本流ノ水量トナリ掘詰ニ
合スルモノナリ

水力發電水路ハ上船溜ニ於テ百二十個ノ水ヲ請ケ高低
四十八尺九寸ノ間ハ徑三呎ノ鐵管二個ニテ直下シ水利
工場ニ當ツヘキ場所ニ至リ他日電氣ヲ發シ使用後ハ本
流ニ注キ以テ同一ノ水量トナルモノナリ而シテ此四十
八尺九寸ヲ下降シタル百二十個即チ六百六十馬力ノ水
ハ電力ヲ發シ導線ニテ各製造場ニ送電シ以テ機械ノ運
用ニ供スルモノナリ

工事ノ方法 鴨川中ニ於テ本川ト水路トヲ區畫スルニ西

側ハ幅六尺ノ堤防ヲ築キ東側ハ在來ノ鴨川石垣護岸ヲ其
儘使用シ而シテ水路ハ鴨川ト本川トハ其速力ヲ同ブスル
能ハサルヲ以テ閘門八個所ヲ設ケ其流勢ヲ緩ニス鴨川ヲ
離レ田圃ニ入リシ後ハ土地ノ形狀ニ從ヒ或ハ土堤ヲ築キ
又ハ堀割ヲ爲シ平均速力ヲ四千分ノ一トス開展水路即チ
堀鑿及埋立ノ部分中其埋立ニ屬スルモノハ最低三十尺最
高三尺多クハ杭ト板ヲ以テ堤防ヲ築キ川中ノ砂石ヲ以テ
之ヲ助ケ川底及堤防心ハ總テ厚二尺乃至三尺ノ粘土ヲ入
レ漏水ヲ防キ緊要ナル部分ハ石垣ヲ築キ上部ハ張石ヲ一
面ニ布設シ堀割ノ部分ハ其儘船曳道ニ供シ總テ緩勾配ニ
ナセリ

水路ハ閘門ヲ出レハ水勢激動スルヲ以テ河底長五間乃至
六間ノ敷石ヲ用ヒ其他ハ堀割ノ儘使用セリ

水路中鴨川落合ヨリ傾斜鐵道ヲ經テ伏見堀詰ニ達スル間ニシテ目下人家稠密ナル場所及將來見込アル個所ニハ川幅ヲ九間乃至二十間水勾配ハトナシ船溜三個所ヲ設ケ以テ船舶ノ回轉及碇繫ノ用ニ供セリ

工事成蹟

線路四千九百二十間

閘門 在鴨川仁王門

高 八 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高二尺二寸 三 尺

幅 二 尺 二尺五寸

閘門 在鴨川孫橋

高 八 尺 幅 八 尺

閘門 八間

分水堰 二個所

高二尺四寸 三 尺

幅 二 尺 二尺五寸

閘門 在鴨川三條

高 十 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高 二 尺 二尺五寸

幅 二尺二寸 三 尺

閘門 在鴨川四條

高 十 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高 二 尺 二尺六寸

幅 二尺五寸 三尺四寸

閘門 在鴨川松原

高 十 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高一尺六寸 二 尺

幅 二尺五寸 三尺一寸

閘門 在鴨川五條

高 十 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高二尺三寸 三 尺

幅 二尺七寸 三尺一寸

閘門 在鴨川正面

高 十 一 尺 幅 八 尺

閘室 八間

分水堰 二個所

高二尺二寸 二尺八寸

幅二尺八寸 三 尺 閘門 在鴨川七條 高八尺二寸 幅八尺 閘室 八間 分水堰 二個所 高二尺二寸 二 尺 幅二尺七寸 二尺四寸 開展水路 長四千七百六十間 河幅 二十尺 傾斜鐵道 長 百六十間 幅 五間	鐵軌 四線 水理經畫 水量一秒時間百二十個 九〇四 速力同 一尺七寸二分 七厘 水面 船溜最廣 二百四十尺 同 最狹 七十二尺 水深 開展水路 三尺五寸 勾配 自夷川落合至伏見傾斜
---	--

十二

傾斜鐵道上千分の一 傾斜鐵道十分の一	自傾斜鐵道 下至堀詰 水平
工費 一金貳千百拾壹圓貳拾七錢七厘 一金參萬六千貳百四拾九圓拾六錢六厘 一金拾萬貳千百拾六圓參拾參錢五厘 一金四千五百壹圓五拾七錢七厘 一金參千貳百貳拾八圓八拾壹錢九厘 合計金拾四萬八千貳百七圓拾七錢四厘	測量費 土地收用費 工事費 雜給 雜費

二十二年第一回市會

市會 第一回

明治二十二年十二月十六日市參事會ヨリ左ノ議案廻付ニ
 ヨリ議長中村榮助ハ來ル二十日開會ノ旨各議員へ告知ス

別紙議案調製ニ付及御回送候也

明治二十二年十二月十六日

京都市參事會

市會議長中村榮助殿

第三十七號議案

本案中鴨川新運河ニ關スル經費及之レニ對スル
歳入額ヲ算出シ茲ニ掲ケ他ハ之レヲ畧ス

京都府京都市明治二十二年歳入出追加豫算

歳入

一金拾萬圓

歳入豫算高

歳出

一金拾萬圓

臨時費豫算高

京都府京都市明治二十二年歳入出追加豫算表

歳入

科	目	本年度豫算高	附	記
第二款	雜收入	六、二六三		

歳出

臨時費

五	市公債募集 益金	六、二六三	募集價格百圓ヲ百圓以上ニ應募ノ爲生 スル益金
第四款	市公債	九、九三六、七三七	
計		一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	

科	目	本年度豫算高	附	記
第三款	鴨川筋新運河 工費	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇		
一	測量費	一、〇〇〇、〇〇〇		
二	土地買上費	一〇、九六〇、〇〇〇		
三	工事費	六四、一三八、九六〇		
四	雜費	四、〇〇〇、〇〇〇		
五	準備費	一、九三〇、一〇〇〇		

但第三款ハ土地收用法ニ依リ其筋へ稟申スルモノト
ス

鴨川筋新運河築造費參考書

一金千圓也

測量費

一金壹萬九百六拾圓也

土地買上費

丙

金七千八百四拾圓也

金千百貳拾圓也

金貳千圓也

一金六萬四千百參拾八圓九拾六錢也

工專費

丙

金千四百七拾六圓也

金千六百四拾圓也

七條以南伏見堀詰迄延長三千二百間平均七間此面坪二萬二千四百坪買上代一坪ニ付參拾五錢ツ、同上立毛代同上二萬二千四百坪ニ對シ一坪ニ付金五錢ツ、同上海屋移轉料五箇所一箇所ニ付平均四百圓ツ、

七條以北堀鑿長千六百四十間ノ所一間口ニ付三立坪ツ、此坪數四千九百二十六坪一坪ニ付參拾錢ツ、七條以北延長三千二百八十間ノ所粘土築入一間口ニ付深六尺巾一尺此立積一間ニ付一合六勺六才一立坪參圓ノ割ニテ一間口ニ付金五拾錢ツ、

金壹萬參千四百四拾圓也

金六千六百參拾貳圓拾六錢也

金壹萬貳千九百四拾圓八拾錢也

金壹萬圓也

金壹萬圓也

金千貳百圓也

金六百參拾圓也

金千圓也

金百八拾圓也

金千圓也

金四千圓也

七條以南堀鑿長三千二百間ノ所一間口ニ付六立坪ツ、此坪數一萬九千二百立坪一坪ニ付七拾錢ツ、七條以北延長三千二百八十間ノ所護岸木柵工費一間口ニ付貳圓貳錢貳厘ツ、七條以南延長六千四百間ノ所護岸木柵工費一間口ニ付貳圓貳錢貳厘ツ、七條以北開門五箇所一箇所ニ付金貳千圓ツ、

七條以南以下同上

七條以南伏見市街大橋六箇所一箇所ニ付金貳百圓ツ、

同小橋九箇所一箇所ニ付金七拾圓ツ、

同大暗溝五箇所一箇所ニ付金貳百圓ツ、

同小暗溝三箇所一箇所ニ付金六拾圓ツ、

七條鐵道橋脇始末一切

鴨川凌疏費

一金四千圓也
 雜費
 一金壹萬九千九百壹圓四錢也
 準備費
 合計金拾萬圓也

新運河築造計畫書

一新運河ハ鴨川ノ東岸夷川通りヲ上ル疏水線路ノ末點ニ起リ伏見市街ヲ中斷スル堀詰ノ上流ニ終ルモノニシテ長凡ソ四千八百四十間ノ内夷川通以南七條通ニ至ルノ間其距離千六百四十間ハ鴨川ノ一部分ヲ利用スルモノニシテ七條通以南伏見堀詰ニ至ル残り三千二百間ハ新ニ田畑ヲ掘鑿埋立シテ運河ヲ作ラントスルモノナリ一夷川通以南七條通ニ至ル迄ノ間ハ運河水面幅ヲ凡ソ二十尺但馬堀堤防敷等水深ヲ凡ソ四尺ト定ムレトモ塲所ノ都合ニ依リ廣隘ヲナサシムルノ已ムヲ得サル事ア

ルヘシ現在鴨川ノ東岸ニハ夷川通以南七條通ニ至ル迄ノ内三條通以南ノ一部ト五條通以北ノ一部トヲ除クノ外ハ既ニ水車用水ノ爲メニ築カレタル堰手アリテ殆ント相連續セサル數條ノ運河アルニ異ナラス而シテ此新運河ハ取モ直サス此數條ノ堰手ヲ少シク改築シテ其相互ノ接續スルニ開門ヲ以テスルニ異ナラス此數條ノ堰手ノ中ニハ大洪水ノトキニハ少シク破ラル、ユトアルモノアリ故ニ新運河ノ東岸ハ可成丈ク在來ノ鴨川石垣護岸ヲ其儘ニナシ西岸即チ運河ノ西堤防ハ在來ノ堰手ノ位置ニ位スルモノニシテ杭ト竹トヲ以テ柵ヲナシ川中ノ石ヲ以テ之ヲ助ケ水ノ流出ノ患アル所ハ粘土ヲ入レテ漏水ヲ防クモノナリ依テ此西堤防ノ部分ニ於テハ鴨川大洪水ノトキニハ或ハ水面以上トナル所モアルヘ

シト雖モ破堤ノ患少ナキハ其位置ハ高クシテ鴨川流向ニ並行スルノ故ニシテ在來ノ薄弱ナル堰手ノ維持スルニ依テモ知ラルヘシ右ニ述タル如クナルカ故ニ新運河ハ鴨川ノ一部ヲ利用スルモノニシテ假令萬一大洪水ノトキハ破堤スルコトアルモ爲メニ延テ水害ヲ被リ或ハ水害ヲ醸ス患ハアラサルナリ

一夷川以南七條ニ至ルノ間高抵四十八尺アリテ此中ニ凡ソ五箇所ノ閘門ヲ必要トナス然レトモ實施ノトキニ臨ミ猶詳細取調測量ノ上水車ノ堰手ノ利用工合ニヨリテハ此閘門ノ數ヲ増加シテ各閘門ノ水面高低ヲ減却スルノ利益ヲ認ムルコトアルヘシト信ス閘門ハ木製ニシテ各幅八尺閘室長四十二尺ニシテ舟一艘ツ、ナ上下セシムルノ目的ナリ此運河ハ通船ヲ目的トシテ水力ハ目的

トセサル死水運河ナレトモ後日閘門近傍ヲ少シク改ムレハ水力ヲモ併セ得ラルヘシ是故ニ當今ノ疏水々量ハ唯通船ヲナスニ必要ナルモノト在來ノ水車ニ分水セサルヲ得サル場合トナリタルトキニ要スル少許ノ水量ヲ流過シ得ルニ止ルカ故ニ死水運河ノ經畫ニシテ差支ナキナリ而シテ疏水ヨリ來レル流水ハ主ニ新運河ノ起点ニ於テ鴨川ニ流入セシムルモノトス

一右ノ經畫ノ如ク在來堰手ニ相異ナキヲ目的トスルカ故ニ京都市中ニ於テ鴨川東岸ニ接スル家屋ノ飲料水ト惡水トニハ關係ヲ生スルコト割合ニ少ナキモノナリト信スルナリ

一七條以南ニ於テハ新運河ハ鴨川ヲ離レテ東ノ田地ニ入り鐵道橋下ヲ通過シテ復田畑ヲ堀割埋立スルモノナリ

運河ハ七條以北ノ如ク幅凡ソ二十尺但馬踏堤防敷等ヲ合セテ幅七間ト見積ル深凡ソ四尺ニシテ其兩岸ハ柵ヲ以テ護岸トナス七條以南伏見堀詰ニ至ル距離三千間餘ニシテ高低ノ差ハ淀川ノ平均水面迄凡ソ四十八尺アルカ故ニ水面高低各凡ソ八尺乃至十二尺ノ開門五ヶ所ヲ要ス開門ノ構造ハ七條通以北ト同一ナリ線路ノ置位ハ伏見街道ト高瀬川トノ間ニ於テ尤モ高低平面共ニ都合ヨキヲ目的トシテ撰定スルノ目的ナリ其伏見堀詰ニ接スル所ノ開門ハ宇治川ニ連接スルカ故ニ整水開門ナリ堀詰トハ宇治川ニ連續シ伏見ヲ南北ニ通過スル一個ノ堀割ナリ

一工事ノ全躰右ニ述タルカ如クナルカ故ニ別段ニ困難ヲ感スルノ所ハアラサルヘク物料モ集ムルニ困却スルモ少ナキカ故ニ着手以後凡ソ一箇年ヲ以テ落成セシム

ルヲ得ルモノナリ

一爰ニ添フル所ノ圖面(畧ス)ト實地トニ依リ可成工費ヲ節減シテ設計シタルモノニテ未タ充分ナル中心線ヲ打入レテ測定シタルモノニ非サルカ故ニ實施スル所ノモノハ爰ニ記載スルモノト幾分ノ差ナキ能ハサレトモ工事ノ大躰經費ノ大略ハ相異ヲ生スル事アラサルナリ

柵工費

科	目	員	數	單價	金額	備	考
松	杭	二萬五千六百二本	112	307.24	34,400.00	末口五寸長一間半	
松	材	六千四百本	100	640.00	64,000.00	末口五寸長七尺 二ツ割ニシテ留杭ニ用	
ポ	ールト	六千四百本	640	511.000	327,200.00	徑半時長一尺三寸	
竹		六萬四千本	600	31,100.000	18,660,000.00	徑二寸長二間 柵用	
栗	石	千四百廿坪八合	1,000	21,416.00	21,416,000.00	柵裏詰ニ用	

砂	利	千六十五坪六合	1,000	1,055,600	厚五寸河底ニ引均ス
大	工	千五百五十人	300	455,000	木組拵
人	夫	三千二百人	200	576,000	柵枕打兩側ニテ八本一間ニ付一人
同		千五十六人	200	190,000	柵裏詰一間ニ付三分三厘
同		千五十六人	200	190,000	砂利引均シ人夫三間ニ付一人
同		千五十六人	200	190,000	大工手傳
合	計		1,292,200		

此金壹萬貳千九百四拾貳圓六拾八錢
 延長六千四百間ニ割付ルトキハ
 壹間口ニ付金貳圓零貳錢貳厘餘ニ當ル
 新運河木製門豫算

種	目	使	用	形	員	數	割	合	金	額	合	計
松	丸	太	留	枕及	枕用	3380	0.11	455,600				
松	挽	木	シ	ト	パ	イル用	0.13	55,510				

松	板	同	上	270	0.60	171,100						
ボ	ル	ト	シ	ト	パ	イル及	留	枕	2100	0.35	735,600	
大	工	シ	ト	パ	イル用	115	0.20	23,000				
手	傳	同	上	115	1.00	115,000						
枕	打	人	夫	63	1.00	116,000						
小	計					271,200						
檜	板	兩	側及	底用	4838	0.40	358,660					
檜	挽	木	兩	側柱	及	下	棧用	781	0.70	547,330		
樺	凹	隅	用	136	1.00	224,100						
ボ	ル	ト	四	尺五	寸每	ニ	縱	横	9130	0.35	319,550	
大	工	取	付	及	凹	隅	取	付	390	1.20	109,100	
手	傳								390	1.00	24,000	
粘	土	附	門	水	留				5	5500	17,500	
手	傳	粘	土	練	搗	メ	手	傳	25	100	5,000	

釘	長五寸	八九六八	三三〇	二一、五二〇
小計	附屬物一切夷川附門 其儘	七、四九五		一四、二六三、五
下部門扉	附屬物切一夷川附門 其儘	一七、四九三、六		
小計				二四、六三九、一
雜費			五六〇六八	五、六〇六、八
合計				三〇、二四六、九

市會議員

- 一 番 上京區姊小路通神泉苑町東入姉西町 矢野長兵衛
- 二 番 同 區寺町通竹屋町上ル下御靈町 大澤善助
- 三 番 下京區三條通室町西入衣棚町 西村治兵衛
- 四 番 上京區小川通一條下ル小川町 西堀徳二郎
- 五 番 同 區元誓願寺通油小路西入中之町 野原新造

- 六 番 同 區油小路通中立賣下ル甲斐守町 西村七三郎
- 七 番 同 區武者小路通室町西入武者小路町 吉村寛十郎
- 八 番 同 區新町通榎木町下ル春帶町 濱岡光哲
- 九 番 下京區三條通高倉西入菱屋町 川島甚兵衛
- 十 番 上京區大宮通寺ノ内下ル西入伊佐町 富田半兵衛
- 十一 番 同 區五辻通千本東入西五辻東町 田中善右衛門
- 十二 番 下京區新門前通大和大路東入二丁目 西村義民
- 十三 番 同 區佛光寺通烏丸東入上柳町 東枝吉兵衛
- 十四 番 同 區三條通高倉東入榎屋町 河村清七
- 十五 番 同 區油小路通花屋町上ル西若松町 高橋正意
- 十六 番 同 區室町通六角下ル鯉山町 荒木重兵衛
- 十七 番 上京區堺町通二條上ル龜屋町 中安信三郎
- 十八 番 同 區室町通御池下ル圓福寺町 野橋作兵衛

- 十九番 同 區中筋通大宮西入横大宮町 岡本治助
- 二十番 同 缺員
- 廿一番 下京區鳥丸通四條下ル水銀屋町 雨森菊太郎
- 廿二番 上京區元誓願寺通智恵光院西入元中之町 渡邊伊之助
- 廿三番 同 區御池通東洞院西入仲保利町 山田長左衛門
- 廿四番 下京區土手町正面下ル紺屋町 下間庄右衛門
- 廿五番 上京區元誓願寺通大宮西入元妙蓮寺町 中孫三郎
- 廿六番 下京區四條通寺町東入御旅町 熊谷市兵衛
- 廿七番 同 區寺町通五條上ル西橋詰町 川島岸太郎
- 廿八番 同 區鳥丸通三條下ル鰻頭屋町 上野守八
- 廿九番 同 區魚棚通室町東入魚屋町 膳仁三郎
- 三十番 同 區鳥丸通六角下ル七觀音町 山田定兵衛
- 三十一番 上京區聖護院町 辻重行

- 三十二番 下京區室町新町ノ間松原下ル徳萬町 高木文平
 - 三十三番 上京區姉小路通堀川西入樽屋町 中川長平
 - 三十四番 同 區押小路通柳馬場東入橋町 内貴甚三郎
 - 三十五番 下京區三條通河原町西入石橋町 古川吉兵衛
 - 三十六番 同 區大宮通八條上ル大黒町 提彌兵衛
 - 三十七番 同 區五條通五條橋東二丁目 中村榮助
 - 三十八番 同 區本町通本町十六丁目 穴戸龜三郎
 - 三十九番 上京區室町通中立賣下ル華立町 朝尾春直
 - 四十番 下京區不明門通五條下ル上平野町 辻信次郎
 - 四十一番 上京區中立賣通堀川西入役人町 岸田九兵衛
 - 四十二番 下京區東洞院通六角下ル御射山町 中村半兵衛
- 十二月二十日開會出席議員三十三名缺席議員八名缺員一名議長中村榮助ハ本案ノ一次會ヲ開ク旨陳告ス

十七番中安信三郎二番大澤善助四番西堀徳二郎六番西村七三郎等ノ間ニ質疑應答アリテ休憩シ午後前議ヲ繼續ス六番西村七三郎三十二番高木文平廿一番雨森菊太郎等ノ應答アリ

十七番中安信三郎曰本案ハ隨分重大ナル議件ナレハ輕クニ議了スルヲ得ス故ニ委員ヲ撰シテ調査ヲ托シ其報告ヲ待テ審議スヘシト論シタルニ三十五番古川吉兵衛廿一番雨森菊太郎四番西堀徳二郎二番大澤善助等之レヲ賛成シ議題トナル依テ議長中村榮助ハ十七番ノ建議則チ本案ヲ委員ニ托シテ調査セシメントスル説ニ同意者ヲ起立セシメタルニ過半数ニヨリ調査スルユトニ決シタルハ更ニ委員撰出ノ順序ヲ諮リタルニ十七番中安信三郎ハ五名ヲ可トシ廿一番雨森菊太郎ハ七名ヲ撰出スヘシトシタルニ三

十五番古川吉兵衛及十九番岡本治助ハ二十一番説ヲ賛成シタルハ之レニ決シ直ニ投票セシム開票ノ結果雨森菊太郎中安信三郎西堀徳二郎古川吉兵衛下間庄右衛門富田半兵衛西村七三郎ノ七氏ヲ當選シテ散會ス

市會 第二回

二十三年第二回市會

一月十四日開會出席議員三十二名缺席議員九名缺員一名議員膳仁三郎平兵衛ト改名ノ外番席ニモ異同ナキヲ以テ一々姓名ヲ記載スルヲ省略ス以下皆之ニ倣フ議長中村榮助ハ昨年委員ニ托セシ第三十七號議案ノ調査完了セシヲ以テ報告アル旨ヲ陳告ス

六番西村七三郎曰委員ニ於テ調査シタル結果ヲ報告セン鳴川筋新運河工費ハ目下市ノ負擔スル所頗ル重クシテ支出ニ困苦スル狀況ナレハ經濟ニ餘裕ヲ生スルニ至ル迄暫ク本議ヲ中止スルユトニ決セリト報告シ次ニ四番西堀徳

二郎ハ鴨川新運河ヲ中止スルトキハ工費拾萬圓ハ不用ニ
屬セハ尤モ市公債ハ募集セスト報告セリ
三十三番中川長平十二番西村義民六番西村七三郎三十五
番古川吉兵衛十七番中安信三郎等ノ間ニ應答アリ休憩後
更ニ開會ス

二十四番下間庄右衛門日本員ハ此新運河線路ヲ變更シテ
竹屋町ト夷川トノ間ヲ横斷シテ堀川ニ通シ其末流ヲ天神
川ニ連絡ナサシメテ淀川ニ達セハ大ニ水運ノ便ナルノミ
ナラス近來京都ノ現況ヲ察スルニ水陸共其便ハ多ク東ニ
ノミ傾キ居レハ旁々以テ本議ヲ提出スル所以ナリ然レト
モ未タ調査ヲ了セサレハ第三款ヲ加茂川以西新運河調査
費トシテ金五百圓ヲ置クヘント新說ヲ提出セシニ三十六
番堤彌兵衛十五番高橋正意十七番中安信三郎四番西堀德

二郎ノ賛成アリテ議題トナル
六番西村七三郎曰二十四番說ハ議題トナリタルモ元來是
等ノ事ハ重大ノ件ナレハ輕々論斷スヘキニアラサレハ此
可否ハ次會迄延期シ暫時中止スヘント論シタルモ賛成者
ナク消滅ス三十五番古川吉兵衛二十一番雨森菊太郎二番
大澤善助三十二番高木文平等ハ原案ヲ賛成セリ
番外一番北垣府知事ハ二十四番十七番等ニ對シ本案ヲ發
セシ理由ヲ纒々演說アリ
議長中村榮助ハ論旨既ニ盡キタリト認メ二十四番ノ修正
則第三款ニ金五百圓加茂川以西新運河調査費ヲ措カント
スル說ニ同意者ヲ起立セシメタルニ少數ニテ消滅ス依テ
原案ニ起立セシメタルニ過半数ニテ可決ス

二十三年第
三回市會

市會 第三回

同月十六日開會出席議員廿八名缺席議員十三名缺員一名
 議長中村榮助ハ前會ヲ繼續シ二次會ヲ開キタルニ異議ナ
 シ原案ニ可決セシヲ以テ續テ三次會ヲ開ク
 二十四番下間庄右衛門曰二次會ニ於テ提出セシ鴨西運河
 線調査費トシテ金五百圓ニ修正スルノ説ハ不幸ニシテ消
 滅セリ依テ茲ニ再ヒ提出スヘシト發議シタルニ十七番中
 安信三郎三十八番穴戸龜三郎十九番岡本治助四番西堀德
 二郎十番富田半兵衛ノ賛成アリテ議題トナリシモ決ヲ採
 ルニ至リ少數ニテ消滅シ十四番河村清七ハ第三款鴨川筋
 新運河工費ハ悉皆削除スヘシト論シタルモ賛成者ヲ得ス
 シテ是又消滅ス
 六番西村七三郎二番大澤善助三十八番穴戸龜三郎二十一
 番雨森菊太郎三十二番高木文平十七番中安信三郎等ト番

外一番尾越書記官トノ間ニ種々質疑應答アリ
 議長中村榮助ハ論旨既ニ盡キタリト認メ原案ニ起立セシ
 メタルニ少數ニテ消滅セシニ三十五番古川吉兵衛ハ本案
 ノ消滅セシハ遺憾ナレハ再議センコトヲ建議シ續々賛成
 者アリテ終ニ再議スルコトニ決ス

二十三年第
 四回市會

市會 第四回

同月十七日開會出席議員三十一名缺席議員十名缺員一名
 議長中村榮助ハ昨日三十五番ノ建議ニ係ル鴨川筋新運河
 工費ヲ審議スルニ先テ本案ハ三次會ヲ省畧シ二次會ヲ以
 テ確定議トスルコトヲ諮リシニ異議ナク之レニ決ス
 二十四番下間庄右衛門ハ數度提出消滅セシ鴨西運河調査
 費トシテ金五百圓ニ修正セント論シタルニ三十八番穴戸
 龜三郎ノ賛成アリテ議題トナリタルモ可否決ヲ取ルニ至

リ少數ニテ消滅シ十四番河村清七モ本案ヲ削除セントス
 ル自説ヲ再演セシモ賛成者ナクシテ消滅シ二番大澤善助
 六番西村七三郎三十五番古川吉兵衛十番富田半兵衛等ノ
 間ニ應答アリ
 議長中村榮助ハ論旨既ニ盡キタルヲ認メ原案ニ起立セシ
 メタルニ過半数ニテ確定セリ
 依テ議長中村榮助ハ三十七號議案既ニ確定セシヲ以テ第
 三十八號議案市公債募集及償還方法本案ハ他ノ費用ト混
 スナ議セシメタルニ異議ナク一次會ハ原案ニ可決シ直チ
 ニ二次會ニ移ル三十三番中川長平ノ修正説アリタルモ贊
 成者ナク消滅シ十五番高橋正意二番大澤善助トノ間ニ應
 答アリシノミニテ原案ニ決シ三次會ヲ省畧シテ確定セシ
 ナ以テ左ノ通市參事會へ報告ス

報告書

- 一 第三十七號議案
 - 一 第三十八號議案
- 右別紙原案ノ通ナ之通議定致候ニ付議事録相添へ此段
 報告致候也

明治二十三年一月十八日

市會議長 中村 榮助

京都市參事會

京都府知事北垣國道殿

右報告ニ接シ同月二十五日市參事會ハ左ノ通公告セリ

京都市公告第二號

京都市明治二十二年度歲入出追加豫算市會ノ議決ヲ取
 リ左ノ通原案ノ通ナ相定ム

京都市參事會

起工特許

明治二十三年一月二十五日

京都府知事北垣國道

起工特許

同月二十四日市參事會ニ於テハ左ノ通府知事へ出願シタルニ即日認可ヲ得タレハ翌二十五日ヲ以テ測量ニ着手シタリ

鳴川運河開鑿起工ニ付實地立入等認可願

琵琶湖疏水運河ノ義鳴川夷川通り以南伏見迄ノ運河ハ鳴川東岸ニ沿ヒ七條邊ニ到リ夫ヨリ紀伊郡柳原町内字柳原莊深草村内字深草字福稻及ヒ竹田村ヲ經伏見町字堀留迄ヲ運河線トシ堀鑿起工ノ見込ヲ以テ既ニ市會ニ於テ議決致候條計畫準備ノ爲メ測量又ハ檢査トシテ本月二十七日ヨリ其土地ニ立入及ヒ標杭建設ノ義關係市町村へ告示相成度此段相願候也

京都市參事會

明治二十三年一月二十四日

京都府知事北垣國道

京都府知事北垣國道殿

書面願ノ趣認可候事

明治二十三年一月二十四日

京都府知事北垣國道

同日府知事ハ左ノ通告示セラレタリ

告示第五號

京都市ニ於テ京都市鳴川夷川通以南伏見町字堀留マテ疏水運河開鑿起工ニ付計畫準備ノ爲本月二十七日ヨリ其土地ニ立入測量又ハ檢査ヲ爲スコトヲ認可ス
右紀伊並京都市上下京區へ告示ス

明治二十三年一月二十四日

京都府知事北垣國道

同月二十八日市參事會ハ左ノ通内務大藏兩大臣へ稟請ス

市庶第一號

市公債ノ義ニ付稟請

本市會ニ於テ市制第百六條ニ依リ市公債募集及償還方法別紙^{原案}ナレハ^案通リ議決候ニ付許可ヲ請フ

京都市參事會

明治二十三年一月二十八日

京都府知事北垣國道

内務大臣山縣有朋殿

大藏大臣松方正義殿

同年三月二十八日右稟請ニ對シ左ノ通許可セラレタリ

内務省許丁第六四號

明治二十三年一月二十八日稟請市庶第一號京都府京都市々會議決公債募集ニ關スル件右市制第百二十二條ニ依リ之ヲ許可ス

明治二十三年三月二十八日

内務大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

同年七月十九日市參事會ハ左ノ通公告ス

京都市公告第三十五號

京都府京都市公債募集及償還方法制第百二十二條ニヨリ内務大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ左ノ通^{原案}ナレハ^案通リ相定ム

京都市參事會

明治二十三年七月十九日

京都府知事北垣國道

同年二月四日市參事會ハ左ノ通府知事ニ出願セリ

琵琶湖疏水運河新設ニ付願

琵琶湖疏水線路之義ハ京都鴨川筋夷川通迄殆ント工事成功ニ至リ候付テハ別紙圖面^{大圖}之通右鴨川筋夷川通

以南京都市七條通り迄千六百四十間ハ鴨川ノ東岸ニ沿
 七幅七間ノ運河ヲ設ケ新設トモ七條以南紀伊郡伏見町
 字堀留迄三千二百間ハ幅七間ノ運河堀鑿之議議決候付
 テハ最前琵琶湖疏通之御許可ト共ニ差許サレ候如ク該
 水利ヲ京都市ノ共用トシ官有ノ川床堤敷付屬地等ハ無
 借地料貸渡サレ新川床堤敷等ノ土地ハ國稅ヲ免除セラ
 レ候様致度又川床等遺地之義ハ實測之上上申可致ニ付
 工事着手ノ月ヨリ免租相成度此段相願候尤右工事之義
 ハ土地收用法ニヨリ施行致度義ニ候得共同法ニ係ル御
 認定之義ハ別段可願出候也

京都市參事會

明治二十三年二月四日

京都府知事北垣國道

京都府知事北垣國道殿

同月十日府知事ハ右ノ書面ヲ領シ左ノ通第四土木監督署
 へ照會セラレタルニ同月十二日回答アリ

庶第一四四號

琵琶湖疏水流末鴨川夷川以南伏見町堀詰ニ至ル新運河
 開鑿之義ハ豫テ及御協議置候處今般京都市長ヨリ別紙
 圖面大圖赤線ノ位置へ起工ノ義願出候ニ付主務省へ稟
 請可致積ニ就キ貴署ニ於テ御差障ノ廉無之哉及御協議
 候條何分ノ御回答相成度此段及御照會候也

明治二十三年二月十日

京都府

第四區土木監督區御中

乙第二二號

庶第一四四號ヲ以テ疏水流末以南伏見ニ至ル新運河開
 鑿之義ニ付御照會之趣了承右ハ當署ニ於テ支障之廉無

之候此段及御回答候也

明治二十三年二月十二日

第四土木監督署

京都府御中

同月十四日日本府知事ハ左ノ通内務省へ伺書ヲ呈ス

庶第九三號

新運河起工
伺

琵琶湖疏水線路之義ニ付伺

爰ニ特許ヲ得テ施行致候琵琶湖疏水工事之義目下殆ソト成功ノ場合ニ到リ候處抑該工事起創ノ目的タル琵琶湖岸ヨリ起シテ伏見ニ到リ其間田地ニ灌溉シ下水ヲ疏滌シ又併セテ舟楫ノ便ヲ開キ水力ヲ使用シテ工作業ヲ振起スル等ニ外ナラス候處有限ノ民力一頓ニ全線路ノ工事ヲ舉行スルニ堪ヘス先第一着トシテ琵琶湖ト京都間ノ工事ヲ施行スルコト、シ右御許下ヲ得テ當府ニテ

之ヲ執行シ爾後市制發布ニ及ビ之ヲ市參事會ニ引繼ギ今ヤ將ニ其成功ヲ見ントスルニ到リ候ヲ以テ進ンテ京都伏見間ノ工事ヲ起シ當初ノ目的ヲ完成致シ度旨ヲ以テ市會ニ於テ決議シ別紙圖面器ノ通右鴨川筋夷川通以テ南紀伊郡伏見町字七間ノ水路ヲ築成シ新設土手七條以南紀伊郡伏見町字堀詰迄三千二百間ハ幅七間ノ水路掘鑿ノ義及ビ最前琵琶湖京都間ノ工事ニ對シ差許サレ候如ク右水利ヲ京都市ノ共用トシ官有ノ川床堤敷付屬地等ハ無借地料貸渡サレ新水路床堤敷付屬地等ハ土地收用法ニ據リ買收シ且右買收地ハ國稅ヲ免除セラレ度旨京都市參事會ヨリ願出候ニ付取調候處其線路ニ於テモ適當ノ義ト存候依テ右願意御許可相成度又右遺地ノ義ハ實測ノ上爲申出

工事着手ニ際シ當府限リ民有地第二種ニ組替年報ヲ以テ報告候様致度計畫書并圖面相添此段相伺候也

明治廿三年二月十四日

京都府知事北垣國道

内務大臣伯爵山縣有朋殿

追テ本文起業ノ義第四區土木監督署へ及照會候處支障無之旨回答有之候間此段申添候也

琵琶湖疏水々路京都鴨川筋夷川通以南伏見間

施工經畫書

一京都鴨川筋夷川以南疏水々路同所ヨリ起リテ南下シ伏見市街ヲ中斷シ堀詰ノ上流ニ終ルモノニシテ長凡四千八百四十間トス其内夷川通以南七條通ニ到ルノ間其距離千六百四十間ハ鴨川ノ一部分ヲ利用スルモノニシテ七條通以南伏見堀詰ニ到ル残り三千二百間ハ新ニ田畑

ヲ堀鑿シ又ハ埋立ヲ施工スルモノナリ

一夷川通以南七條通ニ到ル迄ノ間ハ水面幅ヲ凡ソ二十尺但馬踏堤防敷ト合水深ヲ凡ソ四尺ト定ムントモ場所ノセテ七間ト見積ル都合ニ依リ廣隘ヲナサシムルノ已ムヲ得サル事アルヘシ現在鴨川ノ東岸ニハ夷川通以南七條通ニ至ル迄ノ内三條通以南ノ一部ト五條通以北ノ一部トヲ除クノ外ハ既ニ水車用水ノ爲メニ築レタル堰手アリテ殆ント相連續セサル數條ノ溝渠アルニ異ナラス而シテ此新水路ハ取モ直サス此數條ノ堰手ヲ少シク築改メテ其相互ヲ接續スルニ開門ヲ以テスルニ異ナラス此數條ノ堰手ノ中ニハ大洪水ノトキニハ少シク破ラル、ユトアルモノアリ故ニ新水路ノ東側ハ可成丈在來ノ鴨川石垣護岸ヲ其儘ニナシ西側即チ新水路ノ西土手ハ在來ノ堰手ノ位置

三位スルモノニシテ杭ト竹トナリテ柵ヲナシ川中ノ石ヲ以テ之ヲ助ケ水ノ流出ノ患アル處ハ粘土ヲ入レテ漏水ヲ防クモノナリ依テ此兩土手ノ部分ニ於テハ鴨川大洪水ノトキニハ或ハ水面以上トナル處モアルヘシト雖モ破潰ノ患少ナキハ其位置ハ高シシテ鴨川流向ニ並行スルノ故ニシテ在來ノ薄弱ナル堰手ノ維持スルニ依リテモ知ラルヘシ右ニ述タル如クナルカ故ニ新水路ハ鴨川ノ一部ヲ利用スルモノニシテ假令萬一大洪水ノトキニ破潰スルコトアルモ爲メニ延テ水害ヲ被リ或ハ水害ヲ醸ス患ハアラサルナリ

一 夷川以南七條ニ至ルノ間高低四十八尺アリテ此中ニ凡ソ五箇所ノ閘門ヲ必要トナス然レトモ實施ノトキニ臨ミ猶詳細取調測量ノ上水車ノ堰手ノ利用工合ニヨリテ

ハ此閘門ノ數ヲ増加シテ各閘門ノ水面高低ヲ減却スルノ利益ヲ認ムルコトアルヘシト信ス閘門ハ木製ニシテ各幅八尺閘室長四十二尺ニシテ舟一艘ツ、ヲ上下セシムルノ目的ナリ抑此新水路ハ上流ヨリ受ケル水量ヲ疏排スルヲ主トシ併セテ舟楫ヲ通セントスルヲ目的トシテ水力ヲ使用スルハ主トシテ目的トセサル死水ナレトモ後日閘門近傍ヲ少シク改ムレハ水力ヲモ併セ得ラルヘシ是故ニ當今ノ流水水量ハ唯通船ヲナスニ必要ナルモノト在來ノ水車ニ分水セサルヲ得サル場合トナリタルトキニ要スル少許ノ水量ヲ流過シ得ルニ止ルカ故ニ右ノ經畫ニシテ差支ナキナリ

一 右ノ經畫ノ如ク在來堰手ト相異ナキヲ目的トスルカ故ニ京都市中ニ於テ鴨川東岸ニ接スル家屋ノ飲料水ト惡

水トニ關係ヲ生スルコト割合ニ少ナキモノナリト信スルナリ

一七條以南ニ於テハ新水路ハ鳴川ヲ離レテ東ノ田地ニ入リ鐵道橋下ヲ通過シテ復田畑ヲ掘割埋立スルモノナリ新水路ハ七條以北ノ如ク幅凡二十尺但馬踏堤防敷等ヲ合セテ幅七間ト見積ル深凡ソ四尺ニシテ其兩岸ハ柵ヲ以テ護岸トナス七條以南伏見掘詰ニ至ル距離三千間餘ニシテ高低ノ差ハ淀川ノ平均水面迄凡ソ四十八尺アルカ故ニ水面高低各凡八尺乃至十二尺ノ閘門五箇所ヲ要ス閘門ノ構造ハ七條通以北ト同一ナリ線路ノ位置ハ伏見街道ト高瀬川トノ間ニ於テ尤モ高低平面共ニ都合ヨキヲ目的トシテ撰定スルノ目的ナリ其伏見掘詰ニ接スル所ノ閘門ハ宇治川ニ連接スルカ故ニ整水閘門ナリ掘詰トハ宇治川ニ連續シ

伏見ヲ南北ニ通過スル一個ノ掘割ナリ

一工事ノ全躰右ニ述ヘタルカ如クナルカ故ニ別段ニ困難ヲ感スルノ處ハアラサルヘク物料モ集ムルニ困却スルモノ少ナキカ故ニ着手以後凡ソ一箇年ヲ以テ落成セシムルヲ得ルモノナリ

一爰ニ添ル處ノ圖面ト實地トニ依リ可成工費ヲ節減シテ設計シタルモノニテ未タ充分ナル中心線ヲ打入レテ測定シタルモノニ非サルカ故ニ實施スル處ノモノハ爰ニ記載スルモノト幾分ノ差ナキ能ハサレトモ工事ノ大躰經費ノ大略ハ相異ヲ生スル事アラサルナリ
同月二十一日土木局長ヨリ左ノ照會及通牒アリ
甲第一一八號

今般庶第九三號ヲ以テ琵琶湖疏水運河新設ノ義御伺出

ノ所調査上要用ニ有之候條左ノ件々御取調御回報相成度

一無借地料貸渡ヲ要スル官有地種目

一處要ノ民有地種目及町村名

一工費ハ總テ市ノ負擔ナルカ又工費消却ノ爲船稅ヲ徵

收スル等ノ義ハ無之哉

一工費豫算書

右及御照會候也

明治二十三年三月二十一日

土木局長 中村孝禮

京都府知事 北垣國道殿

同年三月六日右書面ニ對シ左ノ通回答セラレタリ

庶第二三四號

琵琶湖疏水運河新設之義相伺候付テハ客月二十一日甲

第一一八號ヲ以テ御照會之趣致承知候則左ニ

一無借地料貸渡ヲ要スル官有地種目

是ハ官有地第三種川敷川縁地、堤防敷井路敷、道路

敷ニ候

一處要ノ民有地種目及町村名

是ハ民有地種目ハ第一種田畑、山林、藪、宅地ニシテ町

村名ハ紀伊郡伏原町、深艸村、伏見町ニ候

一工費ハ總テ市ノ負擔ナルカ又ハ工費消却ノ爲メ船稅

ヲ徵收スル等ノ義ハ無之哉

是ハ工費ハ市ノ負擔ニシテ此工費ヲ償却スルハ年々

ノ市稅ヨリ支出スル方法ニ有之尤モ通船ニハ應分ノ

通船料ヲ永年ニ徵收スル見込ニ候

一工費豫算書

是ハ別紙市會決議通之通ニ候
右及御答候也

明治二十三年三月六日

京都府知事北垣國道

土木局長中村孝禧殿

貴府夷川通ヨリ伏見迄運河新設ノ義庶第九三號御伺ニ
付テハ沖野技師實地檢査ノ筈ニ有之候條出張ノ上ハ書
類圖面等同技師へ御同致有之度此段及御通牒候也

明治二十三年二月廿一日

土木局長中村孝禧

京都府知事北垣國道殿

右通牒アリテ三月七日實地ヲ巡視セラレタリ

同年五月十九日土木局長ヨリ府知事ニ左ノ照會アリ

甲第二一〇號

琵琶湖疏水線路當初ノ目的ハ堀川ヨリ東高瀬川ニ通セ

シムヘキモノニ有之然ルニ一昨二十一年八月中御伺出
ノ上堀川ニ出ル方ヲ支線トシ更ニ宇治郡日岡以西ヨリ
南禪寺村等ヲ經テ加茂川ニ達スルノ線路ヲ設ケ之ヲ本
線トスルコトニ許可相成此變更タル畢竟小川ヨリスル
ハ迂回甚シク從テ舟楫ノ不便少カラサルニ由ルモノニ
シテ矢張高瀬川ニハ通水セシメラルヘキ儀ト存候處本
年二月庶第九三號御伺書ニ依レハ更ニ七條ヨリ新疏水
ヲ掘鑿セララル、モノニ有之其高瀬川ヲ止メ故ラニ費用
多少民有地買上等ノ繁アル新水路ノ計畫ヲ立テラレタ
ルハ如何ナル次第ニ候哉又支線ハ小川迄ヲ掘鑿シ其以
下ハ毫モ工事ヲ施行セラル、ノ箇所無之哉御見込至急
承知致度此段及照會候也

明治二十三年五月十九日

土木局長中村孝禧

京都府知事北垣國道殿

同月二十二日右照會ニ對シ府知事ヨリ左ノ通回答アリ

疏第五號

琵琶湖疏水流末水路計畫變換ノ義ニ付甲第二一〇號ヲ以テ御照會之趣了承致候右ハ最前高瀬川筋ヲ利用スルノ見込ニテ實地ニ就キ取調ヲ遂ケ候該川ハ水路屈曲多ク從テ其路程モ遠ク且伏見市街ヲ通過スルノ位置其宜シキヲ得ス運輸不便ノ憂アルカ爲新ニ好地位ヲ擇ミ直達ノ一水路舊川ニ比シ長凡ソ一ナ設クルハ疏水起工主要ノ目的タル運輸利害上必要ナルノミナラス元來高瀬川筋ニ於ケル營業者ハ京都ニ於テ薪炭肥料ノ類ヲ荷積シ伏見大阪ニ輸送スルヲ以テ專業トセルモノ多キモ新水路ハ所謂湖水ト淀川ノ舟運ヲ連絡セルモノナレハ既

ニ運輸上其目的ヲ異ニシ營業者モ彼是其事情ヲ等フセサルヲ以テ二線ニ分テ各自併行セシムルハ相互ノ利益ニ可有之存候且又當初計畫ノ如ク舊川ニ水路ヲ取ラントスルモ舊川ト疏水路トハ其屈曲勾配ヲ異ニシ且其舟脚等シカラサルカ爲舊川ヲ現在ノ儘利用スル事ハ到底爲シ能ハサルノ事ニシテ強テ此水路ヲ取ラントセハ舊川ヲ改築スルノ外無之然ルニ舊川ハ兩岸人家ニ密接シ橋梁ノ架換ヲ要スル等工事ノ困難ナルノミナラス屈曲ノ度ヲ緩フスルカ爲ニハ尙幾分ノ土地ヲ買上川路ノ付替ヲ要スヘク從テ該川ニ流出セシ用要水路ニ變化ヲ來タスヘク且工事中ハ運輸營業ヲ中止セシメサルヘカラサル等ノ困難有之加ツルニ舊川ニ達スルカ爲ト伏見ニ出ツルカ爲ト鴨川ヲ横斷スルコト二回ニ及ヒ之カ工事

ノ困難ナルヘキハ多言ヲ俟タサル義ニ有之假ニ此等幾多ノ困難ヲ忍ビ功ヲ竣ノルトスルモ起工者ハ水路ノ專用者タルヲ得サルヲ以テ舊營業者トノ間ニ於テ水路使用上或ハ紛議ヲ醸スナキヲ保スヘカラス況ンヤ高瀬川ハ從來市郡連帶ノ經濟ニ屬シ居候事情モ有之候如此舊計畫ヲ襲フニハ幾多ノ困難ナル情實アルノミナラス新川ヲ作ルモ爲メニ舊川ニ害ヲ與フルナリ新舊相待テ始メテ一般運輸上其振興ヲ見ルヲ得ヘキヲ以テ新水路ノ計畫ヲ立テタル義ニ有之候將又支線小川以下工事ノ義ハ將來施工ヲ要スヘキ義ト存候得共工事ノ計畫上現今市會ノ議決セルモノ無之候

右御了承相成度此段及御回答候也

明治二十三年五月二十二日

京都府知事北垣國道

土木局長中村孝禧殿

同年六月十四日左ノ指令及官報ヲ以テ公告セラレ全ク本工事ノ特許ヲ得タリ

内務省指令甲第四二號

京 都 府

本年二月十四日庶第九三號伺琵琶湖疏水線路開鑿ノ件聞届ク

明治二十三年六月十四日

内務大臣伯爵西郷從道

官報第二千八十六號

今般左ノ工事ニ要スル土地ハ内閣ニ於テ公共ノ利益ノ爲メ必要ト認定シタルニ付土地收用法ニ依リ之ヲ收用スルコトヲ許ス

起業者

京都府

工事ノ種類

水路開鑿

起業地

京都府下鴨川筋夷川ヨリ七條ヲ
經テ紀伊郡伏見町字堀詰ニ至ル
但收用スヘキ土地ノ細目ハ京
都府知事ニ於テ公告スヘシ

右公告ス

明治二十三年六月十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

水利事務所

水路事務所 附出張所

明治二十三年六月十四日琵琶湖疏水線路中鴨川新運河開
鑿ノ事業ハ既ニ政府ノ許可ヲ得タルヲ以テ是ヨリ先キ本
府第二部内ニ新運河事務取扱ノ名義ヲ置キタルニ二十四

年二月一旦工事ヲ中止セシヲ以テ自ラ消滅シ更ニ二十五
年八月再ヒ起工スルニ際シ同月十九日紀伊郡深艸村大字
福稻ニ水路事務所ヲ置キ工事ヲ監督セシニ二十七年九月
ニ至リ大體ノ工事落成ヲ告ケタルヲ以テ同月二十五日疏
通式ヲ舉行シ同年十月三十日之ヲ廢シ以來府廳内ニ於テ
殘務ヲ執レリ其施行順序及ヒ内規等ハ別項ニ掲ク

沿革 明治二十三年一月十八日第二部長尾越蕃輔ハ府
廳内ニ於テ豫算調製ノ爲メ施行順序ヲ定メ委員ニ工師
田邊朔郎測量技師島田道生庶務課長片山正中土木課長
多田郁夫會計課長貞廣太郎屬若松雅太郎測量主任ニ技
手森田玲彦細田信道森銃助工事主任ニ技手三原範治土
地收用ニ野村永保北川忠重會計主任ニ磯谷勝二郎久藤
爲本ヲ以テ之ニ充ツ同年二月十七日市參事會ハ高木將

記ヲ測量助手ニ雇入シ同年三月三日測量製圖ノ爲メ上
京區仁王門通新高倉東入寂光寺内明寺院ニ出張所ヲ設
ケ猶又同年七月九日矢部爲之竹追雲八ノ兩人ヲ測量助
手ニ雇入レ工事ハ專ラ市參事會ニ於テ主管シ特別市制
ニヨリ取扱フヘキノ處同年八月二十日一變シテ府廳ニ
於テ主管スルコト、ナリタルヲ以テ更ニ本府第二部ノ
主管トシ部長ニ於テ總轄シ新運河事務取扱ノ名義ヲ置
キ内規ヲ定メ同月三十日屬多田郁夫ヲ主管トシ同伴
資ト雇若松雅太郎ヲ庶務屬今立乘信北川忠重ヲ地理技
手森田玲彦細田信道ヲ測量技手三原範治ヲ工事ト各分
擔ヲ定メ同年九月十二日水路事務取扱ノ名義ヲ改メ水
路事務所取扱所トナス同年十月六日市參事會ハ德田菊
松ヲ雇入工事場所付トス又十一月十八日飯野元秀ヲ雇

入土地收用ニ從事セシム二十四年二月市會ノ意向ニヨ
リ工事ハ一旦中止スルコトトナリタルヲ以テ同月二十
六日之ヲ廢シ殘務ハ府廳内ニ於テ整理ス二十五年八月
六日再ヒ起工スルコトニ決シタルヲ以テ同月九日本府
知事ハ更ニ屬伴 資ヲ事務雇若松雅太郎庶務技手森田
玲彦細田信道測量技手三原範治山田忠三工事屬北川忠
重土地收用ト各分擔ヲ定ム同月十二日工事大體ノ設計
ヲ托スル爲メ博士田邊朔郎ヲ招聘ス同月十九日紀伊郡
深草村大字福稻ハ本線路ノ殆ント中央ニ當ルヲ以テ水
路事務所ヲ開設ス同月二十二日市參事會ハ矢部爲之測
量德田菊松工事飯野元秀林兼常土地大石貞固庶務補助
トシテ雇入同年十一月十日鳴川原仁王門ニ出張所ヲ設
ク同月十八日山田友則測量土岐七郎工事補助トシテ雇

入同年十二月十五日內藤朝義ヲ工事補助トシテ雇入二
 十六年二月十一日紀伊郡伏見町大字鎗屋ニ出張所ヲ設
 シ同年四月四日鴨川原仁王門ノ出張所ヲ同四條上ル所
 ニ移ス同月十五日技手古畑重三郎工事擔當トナリ同年
 六月一日四條上ル出張所ヲ同團栗上ル所ニ移ス同月九
 日高田辰吉ヲ工事補助トシテ雇入同年九月一日鴨川原
 團栗上ル出張所ヲ同松原上ル所ニ移ス同年十月三十日
 之ヲ廢ス

施行順序

二十三年一月十八日制定

一 豫算調製ノ事

測量

經費豫算

工事

工事豫算

七條以北	七條以南	橋	梁	水	管
要惡水	埋樋	掛樋	堀	割	
埋立	物料	閘門			
土地					
官有地	民有地	田	畑	家	屋
土取場	土棄場				
附帶工事					
鐵道關係	飲料水	水	車	道	路
伏見堀詰始末	鴨川土砂浚渫工事				
庶務					
政府請願一件	工事員詰所				
新運河事務取扱内規	二十三年八月二十日制定				
一新運河事務取扱ハ第二部ニ屬シ總テ第一部長ノ指揮					

ヲ受クルモノトス而シテ分擔ヲ定ムル左ノ如シ

主幹一人 土木課長ヲ以テ之ニ任ス
 部長ノ命令ヲ受ク事務取扱ノ責ニ任ス
 庶務若干名 屬ヲ以テ之ニ任ス
 庶務ニ從事ス
 地理若干名 屬ヲ以テ之ニ任ス
 土地買上ニ從事ス
 測量若干名 技手ヲ以テ之ニ任ス
 測量ニ從事ス
 工事若干名 技手ヲ以テ之ニ任ス
 工事ニ從事ス
 會計若干名 屬ヲ以テ之ニ任ス
 會計ニ從事ス
 出納ニ從事ス

二十三年第五回市會

市會 第五回

同年五月二十三日開會出席議員二十二名缺席議員十八名
 缺員二名 本年四月七日川島岸太郎死亡ノ外
 前會ト議員異動ナシ

議長中村榮助曰本日ハ制規ノ定數ニ充タサルモ再招集ノ
 故ヲ以テ市制第四十一條ノ末文ニヨリ開議スヘキ旨ヲ陳
 告シ左ノ議案ヲ議サシメタルニ一次會二次會及三次會ト
 モ異議ナク原案ノ通確定セリ

第十三號議案

本案中鴨川新運河ニ關スル經費及之ニ對ス
 ル歳入額ヲ算出シ此ニ掲ケ他ハ之ヲ畧ス

本年一月決議ニ關スル二十二年度歳入出追加豫算表歳
 入第四款市公債歳出臨時費第三款鴨川筋新運河工費ハ
 年度内未着手ニヨリ二十三年度ニ繰越シ二十三年度歳
 入出豫算表中別紙之通改正セントス

京都府京都市明治二十三年度歳入出豫算

歲入
 一金拾萬圓
 歲出
 一金拾萬圓
 歲入
 歲入豫算高
 臨時費豫算高

科	目	本年度豫算高	附	記
第四款	市公債	100,000,000	二十二年度ニ於テ議決ノ通	

歲出 臨時費

科	目	本年度豫算高	附	記
第三款	鴨川新運河工費	100,000,000	同上	
一	測量費	1,000,000		
二	土地買上費	10,960,000		
三	工事費	64,138,960		

四	雜費	4,000,000
五	準備費	19,910,000

同月同日議長ヨリ第十三號議案原案ノ通確定ノ旨報告アリ依テ市參事會ハ左ノ通公告セリ

京都市公告第三十三號

京都市明治二十二年度歲入出追加豫算表歲入第四款及歲出第三款ヲ二十三年度ニ繰越シ二十三年度歲入出豫算中改正追加ノ件市會ノ議決ヲ取り左ノ通相定ム

京都市參事會

明治二十三年五月二十七日

京都府知事北垣國道

歲入
 一金拾萬圓
 歲出

二十三年第六回市會

一金拾萬圓

臨時費

一金拾萬圓

市公債

一金拾萬圓

鴨川新運河工費

市會第六回

同年七月十一日開會出席議員二十八名缺席議員十二名缺員二名ニシテ制規ノ定數ニ充タサルモ再招集ノ故ヲ以テ開議シ第十八號議案長期市公債發行手續本案ハ必要ニモアラサレハ器モヲ議了セリ

二十三年第七回市會

市會第七回

同月十二日開會出席議員三十二名缺席議員八名缺員二名ニシテ第十七號議案臨時土木委員事務取扱規程本案ハ審議ノ末廢

乘トナリタルヲ議セシメタルニ二十一番雨森菊太郎ハ本工事ニ對シ特ニ臨時委員ヲ設置スルノ必要ヲ見サレハ廢案トスヘシ依テ之ニ換フルニ本工事ニ從事スル市參事會員ニハ實費辨償額ヲ増加スル見込ナリト論シタルニ四番西堀徳二郎五番野原新造ノ賛成アリテ議題トナリ議長之ヲ起立ニ問ヒタルニ過半數ニヨリ廢棄トナリタルハ更ニ二十一番雨森菊太郎ハ鴨川新運河事務所ニ出務スル市參事會員ニハ實費辨償ヲ増加スルユトヲ建議セシニ十二番西村義民二十四番下間庄右衛門ノ賛成アリテ議題トナリ議長之カ可否ヲ諮リタルニ過半數ニテ可決セリ右ニ付同日市參事會ハ直々ニ左ノ議案ヲ提出セシニ一次會ハ異議ナク原案ニ可決シ二次會ニ於テ一二修正説アリタルモ成立セス原案ニ決シ三次會ヲ省略シテ確定ス

第二十號議案

名譽職實費辨償額支給規則

鳴川筋新運河工事ニ從事スル參事會員ニハ各執務一日ニ付實費辨償トシテ金壹圓ヲ支給ス

二番大澤善助曰第十七號議案廢棄ニ就テハ自然歲入出ニ異動ヲ生スルヲ以テ經常費第一款第二款雜給壹千百八拾壹圓貳拾五錢トアルヲ五百四拾圓トシ即チ實費辨償額トシ其附記ニハ名譽職市參事會員鳴川新運河開鑿工事施行ノ爲メ出務スル日數五百四拾日分一日金壹圓ツ、トシ而シテ第二款報酬額ハ削除セント發議シ異議ナシ可決セシナリテ同月十四日議長ヨリ市參事會ヘ夫々報告アリシニヨリ市參事會ハ同月二十一日之レカ市公告ヲナセリ

同年九月五日市參事會ニ於テハ鳴川新運河工事ノ分擔者

三名ヲ互撰シタルニ大澤善助東枝吉兵衛坂本則義多數ニヨリ之ニ決ス

同年十一月八日市參事會ニ於テ彌々左ノ設計ニヨリ工事ニ着手スル事ニ決シタリ

京都伏見間水路開鑿設計概算

種類	金額	理由	由
開門	一五〇四六五二六	八箇所	
堤防	八七九七五五六	堤防延長九百九十八間五分	
川床堀	八三三三三五	川床堀延長千二百七十間	
同上	一六六九九五	宮川町裏東側長百間五條音羽川間船溜長百四十三間	
土抱	三六〇三三〇	松原五條間東側長七十九間	
堤防	三一八一九八〇	七條下新築長五十間	
石堤防	九三三七〇	延長百五十六間	
算	九三三七〇	同	六十四間

改築	八、八七〇、四〇〇	同	二百六十間
附屬工事	一、四六三、一九七	鴨川々中三條橋近傍其他工事	
開鑿工事	二、三二八、九五〇	七條下ヨリ鐵道下迄長三百七十間	
橋梁	一、三三九、九六六	八條通	
寬	八、一六七、〇	長三間	
同	二、五七二、七八	同十間	
橋梁	七、九九九、八〇	野通七橋三箇所	
土樋	一、四四〇、〇	養惡水路	
開鑿工事	三、九一三、六二六	鐵道下ヨリ字福稻迄長四百十間	
鐵道際始末	六、四九五、五七〇	船溜	
暗溝	三、九〇五、七〇	二ノ橋川	
道路橋梁	二、八五五、五六	同川際	
寬	四、一〇六、三三	三ノ橋川	
水堰	一、五七八、六二	鐵道ノ下	

以上第一區鴨川疏水落合ヨリ紀伊郡深艸村字福稻迄

土樋	八、八〇〇	養惡水路
寬	五、一三三、四	同
橋梁	一、三三九、〇〇	野通七橋五箇所
潰地	四、六六九、九七〇	田畑敷宅地等反別三町一反一畝九步九分收用代
建立家買上	二、一三八、四九一	田畑立毛收用代及ヒ損料并建家用代
計	五、五、一、二八、八二四	

種類	金額	理由
開鑿工事	八、八八七、一四〇	四箇所
開鑿工事	九、五〇一、六〇〇	字福稻ヨリ堀内村迄長千八百九十間
橋梁	三、一九〇、〇七	墨染通
船溜	六、八七三、五〇	稻荷前
橋梁	三、一九〇、〇七	撞木町通

以上第二區紀伊郡深州村字福稻ヨリ同郡堀内村小字眞齊迄

種	類	金	額	理	由
開	鑿工門	二,二二七,三九五	一箇所		
開	鑿工事	二,二二七,三九五	十間	紀伊郡堀内村ヨリ伏見堀詰迄長三百三	
橋	梁	一四一,〇三六	土橋	通	
同	上	一五七,〇二六	上板橋	通	
暗	溝	二二一,三三〇	養水	路	
井	路付換	一三三,六二〇	長百二十間		
橋	梁	五三,三二〇	野通	橋二箇所	
土	樋	五,八〇〇	養惡水	路	
潰	地	一,一八八,二五〇	田畑宅地等反別七反五畝二十六步五分	收用代	
建立	家毛買損上耗	三二六,八七五	田畑葦木立毛收用代並ニ捐料		
計		六,九七〇,〇三			

種	類	金	額	理	由
橋道	梁路	一,一五四,〇〇七	伏見街道		
橋	梁	一五七,三四六	陶器會社前通		
同	上	一三三,三六六	寶塔寺前ノ通二箇所		
水	堰	五五,五〇〇	寶塔寺川		
橋	梁	一四一,〇二六	下町通		
寛		三三,三二八	七瀬川		
橋	梁	八七九,七八〇	野通	橋三十三箇所	
寛		二二〇,八二六	養惡水	路	
橋	梁	一一一,六四六	藤ノ森前		
井	路付換	六三,三六〇	長七十間		
土	樋	一六七,四四〇	養惡水	路	
潰	地	五,七三〇,二九〇	田畑葦宅地等反別六町四反二十九步四分	收用代	
建立	家毛買損上耗	六四三,三九四	田畑葦木立毛收用代及ヒ捐料并建築家收用代		
計		三,五三三,八三三			

以上第三區紀伊郡堀内村小字眞齊ヨリ伏見堀詰迄

測量費	1,000,000
計	1,000,000
雜費	211,751
計	211,751
合計	1,000,000,000

同月十八日市參事會ニ於テハ右設計ニヨリ工事請負ヲ入札セシメンカ爲メ全線路ヲ四區域ニ分テ各區域ノ大小ニヨリ保證金額ヲ定メ十二月一日ヲ開札ノ期トシ日出新聞中外電報京都日報上下京區役所三條五條兩橋側及岡崎派出所へ廣告スルコトニ決シタリ

二十三年第八回市會

市會 第八回

同月二十四日開會出席議員二十七名缺席議員九名缺員六

名ニシテ制規ノ定數ニ充タサルモ再招集ノ故ヲ以テ開議ス

市會議員

熊谷市兵衛中村半兵衛死亡高木文平山田長左衛門失資格等アリシ外前會ト異動ナシ

議長中村榮助曰本日ハ四番議員西堀徳二郎ヨリ提出ニ係ル建議案アレハ會議スヘシト陳告ス其案左ノ如シ

建議

今般第四十四號ヲ以テ疏水々力使用費ノ追加議案ヲ發セラレタリ抑モ該費額タルヤ當初設計ノ粗漏ナリシニ因リ實施上大ナル差異ヲ生シ其著シキ部分ニ至リテハ豫算額ノ十倍ニモ超過シ本會之レヲ修正セント欲スレトモ既ニ該設計ニ基キ着手セラレタルヲ以テ今更之ヲ變更スルコト能ハス實ニ止ムヲ得サル費額ナリトス故ニ本會ハ工事上ノ都合ヲ圖リ理論ニ拘泥セスシテ平穩

ニ之ヲ議了スヘシト雖モ本會ノ議決ヲ經スシテ當初ノ設計ヲ變更シ豫算外ノ工費ヲ支出シタルカ如キハ理事者ノ越權ニシテ本會ヲ蔑視シタルモノト謂ハサルヘカラス然レトモ其過失處分ニ至リテハ本會ノ容喙シ得ヘカラサルヲ以テ之ヲ監督者ニ一任スヘシト雖モ設計ノ粗漏ハ本會モ亦其責ニ任セサルヘカラス果シテ然ラハ之ト同時ニ議決シタル新運河工費ノ如キモ必スシモ誤リナキ能ハサランカ殊ニ該工事ハ議決後沿道郡村ノ望ミヲ容レ線路ヲ變更セラレタルニ於テナヤ故ニ本會ハ前轍ニ鑑ミ調査委員ヲ撰ミ設計ノ當否及其他ノ利害ヲ討究セラレシトナ最モ調査委員ハ本會ニ於テ公選シ其調査中ハ該工事ヲ中止シ更ニ本會ノ議決ヲ經テ起工セラレシトナ全會ノ意見ヲ以テ此段建議仕度候也

一次會二次會共多數ヲ以テ建議採用スルコトニ決シ直チニ三次會ニ移リ四番西堀徳二郎ノ修正說アリテ末文ノ度ノ字ヲ除キ其他ハ建議案ノ通確定シ三十五番古川吉兵衛ノ意見ニテ七名ノ調査委員ヲ投票ヲ以テ選出スルコト、ナリ開票ノ結果西堀徳二郎中安信三郎下間庄右衛門古川吉兵衛穴戸龜三郎西村義民河村清七當選セリ
同月二十五日右決議書ハ議長ヨリ市參事會へ報告セシニヨリ同月二十七日市參事會ハ市會ノ意見ヲ容レ調査完了ニ至ル迄工事ノ着手ヲ延期スルニ決セリ

市會 第九回

明治二十四年二月十六日開會出席議員三十四名缺席議員八名缺員七名
市會議員

二十四年第九回市會

- 一 番 上京區姉小路通神泉苑町東入姉西町 矢野長兵衛
- 二 番 同 區寺町通竹屋町上ル下御鹽町 大澤善助
- 三 番 下京區三條通室町西入衣棚町 西村治兵衛
- 四 番 上京區小川通一條下ル小川町 西堀徳二郎
- 五 番 同 區元誓願寺通油小路西入中之町 野原新造
- 六 番 同 區油小路通中立賣下ル甲斐守町 西村七三郎
- 七 番 同 區日暮通上立賣上ル西入分銅町 鈴鹿辨三郎
- 八 番 同 區新町通榎木町下ル春帶町 濱岡光哲
- 九 番 下京區松原通東洞院東入本燈籠町 松下新助
- 十 番 上京區大宮通寺ノ内下ル西入伊佐町 富田半兵衛
- 十一 番 同 區五辻通千本東入西五辻東町 田中善右衛門
- 十二 番 下京區新門前通大和大路東入二丁目 西村義民
- 十三 番 同 區御光寺通鳥丸東入上柳町 東枝吉兵衛

- 十四 番 同 區三條通高倉東入榎屋町 河村清七
- 十五 番 同 區油小路通花屋町上ル西若松町 高橋正意
- 十六 番 同 區室町通六角下ル鯉山町 荒木重兵衛
- 十七 番 上京區堺町通二條上ル龜屋町 中安信三郎
- 十八 番 同 區室町通御池下ル圓福寺町 野橋作兵衛
- 十九 番 同 區中筋通大宮西入横大宮町 岡本治助
- 二十 番 同 區御車道通清和院口上ル梶井町 畑道名
- 二十一 番 下京區鳥丸通四條下ル水銀屋町 雨森菊太郎
- 二十二 番 上京區元誓願寺通智恵光院西入元中之町 渡邊伊之助
- 二十三 番 同 區笹屋町通淨福寺西入笹屋町二丁目 河北武兵衛
- 二十四 番 下京區土手町正面下ル紺屋町 下間庄右衛門
- 二十五 番 上京區元誓願寺通大宮西入元妙蓮寺町 中孫三郎
- 二十六 番 下京區御前通西洞院西入植松町 中村平右衛門

二十七番	同	區岩上通藥師下ル宮本町	林長次郎
二十八番	同	區烏丸通三條下ル饅頭屋町	上野守八
二十九番	同	區魚棚通新町東入魚屋町	膳平兵衛
三十番	同	區烏丸通六角下ル觀音町	山田定兵衛
三十一番	上京區聖護院町		辻重行
三十二番	下京區西高瀬松原下ル難波町		清水吉右衛門
三十三番	上京區姉小路通堀川西入樽屋町		中川長平
三十四番	同	區押小路通柳馬場東入橋町	内貴甚三郎
三十五番	下京區三條通河原町西入石橋町		古川吉兵衛
三十六番	同	區大宮通八條上ル大黒町	堤彌兵衛
三十七番	同	區五條通五條橋東二丁目	中村榮助
三十八番	同	區本町通本町十六丁目	穴戸龜三郎
三十九番	上京區室町通中立賣下ル華立町		朝尾春直

四十番 下京區不明門通五條下ル上平野町 辻 信次郎
 四十一番 上京區中立賣通堀川西入役人町 岸田九兵衛
 四十二番 下京區富小路通四條上ル大文字町 直木 榮助

議長西村七三郎曰昨年調査委員ニ托セシ鴨川筋新運河工事ノ報告アレハ疑惑ノ廉ハ委員ニ就テ質問アレト陳告ス即チ其報告書ハ左ノ如シ

調査報告書

本會ニ於テ鴨川運河開鑿工費ヲ議決シタル當時ノ狀況ヲ追懷スルニ議論興廢ノ兩極ニ分レ敢テ設計ノ當否ニ論及シタルコトナシ僅カニ一名ノ多數ヲ以テ通過シ原案ニ可決シタルニアリ然レトモ之ト同時ニ議定シタル水力使用費ノ如キ實際着手ノ後當初設計ノ粗漏ナリシコトヲ發現シ議論沸々トシテ大ニ顧ミル所アラシメ運

河開鑿ニ對シテモ亦必ス設計ノ粗漏ナキ能ハストノ觀念ヲ起シ忠實ナル議員諸君ハ前轍ニ鑒ミ着手以前ニ於テ設計ノ當否將來ノ利害等ヲ審究セント欲シ委員ヲ撰ミ以テ之ヲ調査セシメラル、ニ至ル不肖余等其撰ニ當リ孜々怠ラス調査攻究シタリト雖モ其細費目能ク其功ヲ奏スルコト能ハサリシニ依リ茲ニ其大要ヲ報告セントス

抑モ本會ニ於ケル當初議定ノ線路ハ北夷川口ヨリ南鐵道マテ鴨川東岸ニ沿ヒ其間五箇所ノ閘門ヲ設ケ鐵道橋以南ハ深艸村ヲ經テ伏見堀詰マテ漸次低地ニ就キ專ラ水運ノ利便ヲ圖リ大津大阪間ヲ貫通シ通船線路ノ首尾全カラシメント欲シタルニアリ然ルニ現今ノ設計ハ當初ノ目的ニ反シ專ラ水力使用ノ收利ニ傾向シ鴨川々中

ニ八箇所ノ閘門ヲ設ケ鐵道橋以南ノ線路ヲ變更シテ稻荷停車場畔ヨリ墨染ヲ經堀内村ニ至リ茲ニ閘門四箇所ヲ造リ其レヨリ西南下シテ伏見堀詰ニ止ム而シテ其閘門ハ僅カニ百三十間ノ距離ニシテ四十尺ノ高低ヲ生スルニヨリ爲メニ落差十尺ノ閘門四箇所ヲ設置スルノ割合ナレハ閘門トノ間僅々三十間餘ニ過キス斯ノ如ク數多ノ閘門ヲ設ケ通船ノ便否果シテ如何ソヤ縱ヒ學理上支障無シトスルモ事實不利不便ナル事ハ炳然トシテ火ヲ觀ルヨリ明カナリトス

然リ而シテ實際工事主任者ニ就キ或ハ實地ニ就キ測量スル處ヲ觀察スルニ設計書トハ大ニ其目的ヲ異ニシ閘門ニ代フルニ「インクライン」ヲ設置シ以テ水力ヲ利用セントスルモノ、如シ若シ果シテ之レヲ然リトシ其利ヲ

收メント欲セハ勢ヒ「インクライン」ヲ設置セサルヘカラ
ス然ルニ事茲ニ出テス反ツテ設計上之レヲ排除スルカ
如キハ抑モ何ソヤ凡ソ豫等ヲ調整セント欲セハ豫メ起
工スヘキ事業ノ方向ヲ定メ然ル後其費額ヲ算出セサル
ヘカラス故ニ水運ノ便ヲ得ントスルニ於テハ通船ニ最
モ不便ナル閘門ヲ減シ「インクライン」ヲ設置スルニ非サ
レハ其利益少ナルヘシ然ルニ未タ其方針ヲ定メスシ
テ調整シタル設計ハ縱ヒ其費額ハ議決金額ニ該當スル
モ以テ確實ナリト信スル能ハス今假リニ既定ノ線路ヲ
可トシ當初工事主任者ノ目論見タル設計豫算ト參事會
ニ於テ修正シタル設計トヲ對比シ物料ノ價格及ヒ職工
費ノ如キハ當局者ノ設計ニ從ヒ委員ニ於テ修正加除ス
ルトキハ其要領左ノ如シ

一修正目論見中土抱挽板ヲ木皮板ニ變更シ閘門費額ヲ
一箇所毎ニ目論見其他尠少ノ部分ト雖モ減削シ得ヘ
キ費目ヲ減殺シタル等ノ如キハ之ヲ贊成セリ
一土抱杭木ハ檜材トシ上部法リ高三尺ノ張り石ヲ設ケ
堤防ノ天端ハ幅六尺トシ鴨川々中ニ蛇籠ヲ伏スル等
ハ舊設計ニ復サントス
一水車買上費及ヒ之ニ付屬スヘキ費用ハ府知事ニ於テ
現在水車營業者ノ使用權ヲ剝奪シ京都市法人ニ專有
セシメラルヘシ故ニ此費用ヲ要セスト果シテ斯ノ如
キ處置ハ府知事ニ於テ決行シ得ヘキヤ否使用許可ノ
當時ニ於ケル契約モ之レアルヘシト雖モ中ニハ習慣
上使用スル者モ之レアルナラン然レトモ本件ハ京都
市ノ權外ニ屬スヘキニ依リ漫リニ斷定ナ下サス暫ク

其辨明ニ從ヒ之ヲ賛成セリ

一開鑿中沿道井泉ノ涸渴スヘキ箇所アリ必ス供給水ノ設ケナカルヘカラス然ルニ本案設計書ニ之ヲ載セサルハ全ク脱漏シタル者ナリト信ス故ニ之ヲ加ヘタリ

一開門番所及開鑿中ノ假リ道假リ橋等ヲ要スヘキ箇所アリ某參事會員ハ該開門番所費ノ如キハ運河開鑿費以外ノ費目ニシテ更ニ水力使用費ヲ徴シ支辨スヘキ性質ノ費額ナリト果シテ然ルヤ否其性質如何ニ拘ラス他ニ支出スヘキ途ナシ故ニ此費用トシテ雜費ヲ増加シタリ

以上ハ設計書ニ對スル調査委員ノ意見ナリ而シテ其總額ヲ對照セハ則チ左ノ如シ

一金拾四萬九千貳百參拾壹圓七拾四錢 工事主任者目論見高

一金拾萬圓 市參事會目論見高

一金拾參萬五千八百八拾七圓八拾四錢九厘 調査委員目論見高

右ノ外堀内村開門四箇所ヲインクラインニ變更スルトキハ八千餘圓ヲ要ス

右意見報告候也

京都伏見間水路開鑿設計概表

種	目	金	類	理	由
開	門	一五、〇六、六、五、一、六	仁王門	孫橋	三條下
堤	防	一一、二六、四、三、五	川床堀共	五條上	四條上
同	東側	八、九、六、四、四、五	宮川町裏及音羽川上舟溜	正面上	七條下
土	抱	二、二八、八、九、〇	松原五條ノ間		
堤	防	三、〇、二、五、〇	七條下新築		
石	堤防	三、六、八、一、五、〇、〇			

水	堰	五五,750
寛		三三,三二八
同		三三,〇二六
土	樋	一六,七〇〇
井路	付換	六,二二〇
計		五三,三九九,七三一

以上第二區紀伊郡深州村字福稻ヨリ同郡堀内村小字眞齋迄

開	關門一箇所	二,三三,一七五
橋	梁	五,一六,六六〇
同		五三,三三〇
水	拔	二八,〇五二
土	樋	二一,三三〇
潰	地	五,八〇〇
		一五,六八,九七〇

野通ヒ橋
土橋上板橋

建立	毛損上毛	四〇五,八三二
井路	付換	一三,六二〇
計		八,九九六,三九四

以上第三區紀伊郡堀内村小字眞齋ヨリ伏見堀詰迄

測	量	費	一,〇〇〇,〇〇〇
雜	費		三,五〇〇,〇〇〇
井泉	手常		三,六〇〇,〇〇〇
計			七,一〇〇,〇〇〇
合	計		一三,五,一八七,八四九

番外一番北垣府知事曰此調査報告ニ對シ各員御質問ニ先
 乎此番外ハ市長ノ本分ヲ以テ各員ニ一言陳へ置キ度ユト
 アリ元來此起リハ客年十一月二十五日付議長ヨリ建議ニ
 ヨリテ成レリ其趣旨ハ鴨川運河ノ設計ハ疎漏ノ廉アルヤ

モ知レス殊ニ重要ノ工事ナレハ尙更緻密ノ上ニモ緻密ヲ要スル故ニ本會ニ於テモ其調査中ハ工事ヲ見合セ委員ノ調査報告ヲ待テ起工セヨトノコトナリシ依テ考フルニ此工事ハ本會ニ於テモ大切ニ思ハレ委員諸君ハ數十日ノ日子ヲ費シテ細密ノ調査ヲセラレタルユトナレハ素ヨリ不都合ノアルヘキ筈ナシ併シ此報告書ニハ拾四萬幾千圓ト拾萬圓ト拾參萬何千圓トノ三ツヲ對照セラレタルヲ以テ各員ニ於テ或ハ惑ヲ生セラレンモ測ラレサレハ其惑ノナカラシムトヲ欲シテ一言辯シ置サルヘカラス此報告ニヨリテ觀察ヲ下セハ拾萬圓ニテハ此工事ハ出來ストノ御感シモアラント雖モ決シテ拾萬圓ニテ此工事ヲ落成スルニ不安心ナルユトハナキナリ而シテ拾四萬幾千圓ナルモノヲ客ニ取リテ掲ケラレシモ之ハ取ニ足ラサルモノナリ

抑モ彼ノ疏水ノ出來シタル以上ハ鴨川運河ヲ通スルノ工事ヲ早ク起サ、ルヘカラサルコトハ此市長ハ素ヨリ議員諸君ニ於テモ疾クヨリ御承知ノコトニテ其當時既ニ同意セラレシナリ故ニ疏水成功シテ其水カ鴨川ニ來ルノ曉ニハ直ニ其水ヲ利用シテ運輸ノ便ヲ計リ度精神ナリシ然ルニ二十二年以來市制ヲ施行セラレ種々ノ變遷ニ遇シテ此工事漸クニ手間取ルコト、ナリ二十一年ニ取掛ル手筈ナリシモ其運ヒニ至ラス其後市ノ專業ト成スコト、ナリ市ニ引繼ケリ然ルニ此拾萬圓ノ設計タル田邊技師ノ目論見ニ掛リ之ヲ以テ市參事會ニ引繼キ市參事會ハ此拾萬圓ノ目論見ハ決シテ此工事ヲ起スニ不満足ナルモノニアラストシテ市會ニ附議セシニ市會モ之ヲ認メテ決議スルコト、ナレリ是レ即チ一昨年十二月ノ本會ニ於テ決議ナリ

シモノナリ而シテ委員ノ目論見拾參萬圓餘ハ此設計ノ上ニ尙十分ニセヨトノ考ヨリ出シモノナラン成程工事ハ手堅クスルヨリ上へ起スユトハナシト雖モ市長カ拾萬圓ヲ容レテ起工セントスルノ意ハ京都市モ近來ハ非常ノ物入リニテ困難ノ場合ナレハ此工事タル水ヲ利用スルノ趣旨ヲ失ハサレハ可ナリトノ見込ヨリ拾萬圓ヲ以テ附議セシナリ併シ之ヲ十分ニセントナレハ三萬圓ハ愚カ五萬圓モ六萬圓モ増サ、ルヘカラサルヘシ然レトモ拾萬圓ハ京都市ノ力一杯ト思ヘハナリ

又此工事中鴨川ニ蛇籠ヲ伏セントノ御見込モアル趣ナルカ是ヲ爲セハ大丈夫ニテ結構ナレトモ御承知ノ如ク木製工事ノ堅牢ナルユトハ世上ノ許ス所ニテ彼ノ北海道ノ札幌ニ初メテ明治十六年ニ此木製工事ヲ行ヒシニ思フタユ

リ一層堅固ナリシナリ專ニヨレハ石垣ヨリハ却テ丈夫ナルモノナリ併シ委員ノ側ニテハ二割ヤ三割ハ構ハス一層堅牢ノモノニセントノ意見ナランモ市長ノ設計モ右ノ次第ニテ決シテ不完全ノモノニハアラサルナリ

假令ハ一軒ノ家ノ構造ヲ以テ云ヘハ飾リハ一切頓着セスト云フニ在リテ研石ヲ使用スル所ハ荒石ヲ以テシ總テ堅固一式トスル等ト一般ナリ又一ツハ客ニ引キアル拾四萬何千圓ト云フモノハ是又市長カ設計シタルモノト思ハル、カモ知レサレトモ之ハ決シテ去ルモノニアラス之ハ市ニ引繼ノ際主任ノ者ノ見込ヲ立テサセシニ充分ノ見積ヲ立テ、拾四萬何千圓トセリ去ナカラ之ハ市長カ採用シタルモノニアラス市長ハ則チ田邊技師ノ設計セシモノヲ採用セリ故ニ拾四萬何千圓ハ謂ハ、幽靈ノ如キモノナリ併

シ茲ニ掲ケアリテモ差支ハアルコトナシ蓋シ充分ニセハ何程ニテモ入ルヘケレハナリ依テ市長カ最初ヨリシテ出シタルハ拾萬圓ノ外ノモノハナシト見テ貰ヘハ可ナリ此事ハ其以來議員ノ交代モアリテ御承知ナキ方モアラント思ヘハ無用ノ言ノ如シト雖モ一言述ヘンナリ又調査委員ノ側一テハ昨年十二月ノ會ニハ興廢ノ兩極ニ涉リシ如ク報告セラレタレトモ十二月ノ會議ノ有様ハ興廢ノ譯ニアラス彼ノ夷川ヲ横斷セント云フノ論者ト議案ノ通リトノ二様ナリシナリ而シテ此議論ハ餘程喧シク一次會ニテハ原案ニ決シ二次會ニテ夷川ノ方トナリ三次會ニ於テ一次會ノ通ト確定セリ此段ハ御承知置アリタシ

次ニ高瀬川ニ議論モアル様子ナルカ運河ト高瀬川トノ關係ハ市長ノ考ニテハ此度運河出來ノ上ハ高瀬川ハ頼ミト

ナル立派ナル益友ヲ得タル如シ大層度量ノ廣キ身代ノ大ナル親戚ヲ得タルカ如シ蓋シ何故ナレハ此高瀬川ハ京都ノ日用物品ヲ運フモノニシテ特ニ輸入多ク輸出スルモノハ僅々タルモノニシテ荒キモノナリ即チ肥料杯カ多シ此物品ハ概シテ云ヘハ京都ノ營業發達スレハ隨テ人口ヲ増シ人口増セハ隨テ此等ノ物品ハ増加スルノ勘定ナリ故ニ高瀬川ニ關係スル荷物ノ増減ハ人口ノ如何ト伴フモノト見テ可ナリ然ルニ此度ノ運河ハ之ト反シテ右ノ物品ヲ運送スルノ目的ニハ非サルナリ此目的タルヤ今日マテ運漕ノ便ノ開ケサル較阜愛知三重等ノ物品ヲ引寄セ且北海道山陰北陸ノモノヲ取寄ルノ考ナリ是迄北海ヲ通行スル物品ハ長州下ノ關ヲ大廻リシテ大阪ヲ經テ來レリ其物カ直ニ越前ノ敦賀ニ着シ敦賀ヨリ鐵道ニテ大津ニ來リ大津ヨ

百二
リ京都ニハ疏水ニテ引キ其物品ニシテ京都ニ止ムモノハ
京都ニ止メ大阪ニ直行スルモノハ直行セシメ伏見ニ送ル
モノハ送ルト云フノ目的ニシテ高瀬川ヲ運搬スルモノト
ハ大ニ其趣ヲ異ニセリ謂ハ、陸地ニ大ナル港ヲ築キタル
有様トナリテ之ヲ以テ我京都ハ益々隆盛ニ趣クヤ必セリ
之カ爲ニ北海北陸山陰ノ品物ハ早ク直行スルコトヲ得テ
三十日間ヲ費サ、レハ到着セサル物モ十日位ニテ取寄ス
ルコトカ出來其功能ノアルコト大ナリ左スレハ京都ノ繁
榮ヲ増シ發達ヲ進ルニハ相違ナシ故ニ新運河ハ高瀬川ノ
益友已レノ爲ニナル親戚ヲ得タルト云フモ敢テ不可ナカ
ラン其關係ヤ斯ノ如シ次ニ此事ハ申迄モナキコトナカラ
此新運河ノ一日モ急ニ之カ功ヲ奏シ一日モ早ク京都ニ利
益ヲ受ルコトヲ計ルハ相互ノ責任ナレハ僅ノ日子モ之ヲ

争フテ速ニ施行セサルヘカラサルナリ
茲ニ一ノ参考ニ迄申上度コトハ山陰道ノ島根鳥取ノ如キ
ハ凡テノ物品ヲ伯州ノ境湊ヨリ大阪ニ廻セリ此品物ノ到
着スルハ非常ニ早キハ一週間ナリ併シ之ハ稀ナリ遅キハ
一ヶ月通常早キモ十五日間ハ經過スルナリ況シテ北陸北
海ノ物品ハ推シテ知ルヘシ然ルニ此工事落成ノ上ハ境ヨ
リ直ニ敦賀ニ來ル此日數ハ僅ニ二日間ニシテ荷物ノ京都
ニ着スルハ其翌日人杯ハ其晚ニ着スルコトヲ得ルナリ
右ノ如ク運輸ノ不便ナルカ爲ニ米價ハ一石ニ付壹圓ノ差
アリ而シテ何程位米ヲ積出スヤト云フニ少クモ十一萬石
ハ年々輸出セリ依テ此工事落成シテ敦賀ヨリ引寄セルコ
ト、ナレハ其差壹圓ハ減スルヲ得サルモ五拾錢位ハ必定
減スルコトヲ得ヘシ且北陸北海愛知滋賀岐阜三重等ノ物

品幅濶スルコト、ナレハ京都ノ公益ヲ計ルハ是レ相互ニ
 盡スヘキ所ナラン
 又一ツハ拾參萬五千何圓ノ金ニテ充分ノ仕事ヲナスコト
 ハ市長モ望サルニアラスト雖モ聊カ懸念スル所アルナリ
 蓋シ此京都ハ不景氣打續キタル後ナレハ減スルコトハ容
 易ナレトモ増スコトハ今日ノ場合困難ナラント信ス且議
 決以來ノ手續モ充分運ヒ居ルコトナレハ旁々拾參萬幾千
 圓ハ百事困難ナラン去レハトテ拾萬圓カ不安心ナレハ已
 ムコトヲ得サレトモ決シテ不安心ナルコトナシ故ニ水力
 ナ利用スルニハ差支アルコトナシト信シテ市參事會ニ諮
 問シ遂ニ議會ニ附議スルコト、ナリ其決議ヲモ經タル後
 ナレハ各員ニ於テモ今日迄ノ順序等ヲ篤ト御考ニナリ又
 決シテ拾參萬圓ヲ不都合ト云フニハ非ラスト雖モ拾萬圓

ニテモ不都合ニアラサルコトヲ御諒察ノ上一日モ早ク工
 事ニ着手スルノ手順ニセラレンコト希望ニ堪ヘスト演說
 セリ

十三番東枝吉兵衛曰此報告ノミニテハ簡單ニシテ委員ノ
 意見ヲ詳ニスルコトヲ得サレハ委員諸君ヨリ委シク御報
 告アレト望メリ

四番西堀徳二郎曰只今十三番ハ委員ヨリ報告スヘシト望
 マレシモ其ハ既ニ印刷ニ付シテ各員ニ配布シアレハ右ニ
 テ了解アレ併シ調査ノ手續ニ於テ聊カ御斷致度コトアレ
 ハ述フヘシ我々委員カ七十餘日間ヲ此調査ニ費シタレハ
 定メテ行届タル如クナルモ然ラス其故ハ報告ノ趣意書ニ
 モ其大要ヲ報告ストアルニテ察知セラレタシ其細目ニ至
 リ土功材料ノ代價等ハ凡テ市參事會ノ目論見ニ從ヒタレ

ハ實際適スルヤ否ハ知ラス然ラハ何故此長日月ヲ費消シタルヤノ御疑モアラシカナレトモ看ヨ主任者ハ二十一年以來此事ニノミ着手セラレテサハ猶缺点アリ況ンヤ委員ハ僅々七十餘日間中年末ノ公私共多忙ノ時モ籠レルニ於テチヤ猶又學理上ノコトニ就テ主任者ニ問ヘハ各其答チ異ニスルカ如キ土木課ト市參事會モ亦然リ斯ノ如キ有様ナレハ調査上大ニ困難セリ依テ委員ハ其最モ理ニ近キモノヲ取り報告スルコトトセリ又市長ハ拾四萬圓ハ幽靈ノ如キモノナリト云ヘルモ爾カ云ヘハ或ハ然ラシ併シ元ハ拾四萬圓ニテ二回三回ト設計ヲ重テ拾萬圓トナレルコトハ疑ヒナキ事實ナリ就テハ委員ノ見込ノ相違セル所ハ如何ナル点ニアルヤト云ヘハ河中ニ堤防ト土抱杭木ト天端トナリ天端ノ如キハ三尺位ニテハ野道ノ如キモノニテ

不都合ナラント思ヒ六尺ニセリ然ルトキハ土石モ潰レ地モ違フコト、ナル之レ其異ナル点ナリ其他多クハ拾萬圓ノ設計ニヨレリ而シテ此工事ヲ施行スルト否トハ別問題トシテ今拾萬圓ナレハ充分完全ナリト云フト雖モ委員等カ見ル所ニテハ完全ト認メス又昨年以來此京都ハ困瘦セリト雖モ僅々參萬圓位ヲ負擔ニ堪ヘスト云フトキハ拾萬圓ハ尙更堪ヘサルヘシ然レハ寧ロ止メル方可ナラシ折角起工シテ不完全ナルコトチナスチ好マス況ンヤ他ノ工事ト異ナリ水ヲ流スコトニテ且傍ラニハ鴨川ト云フ大川アリテ一朝非常ノ洪水ニ際會セハ或ハ堤防ノ崩潰センモ測ラレヌ其時ニハ參萬圓ハ愚カ五萬圓モ費スコトモ出來セシ此時ニ至リ民力ニ堪ヘストテ打捨置ルヘキヤ決シテ然ル能ハサレハ是レ却テ不經濟ナリ故ニ起工セントセハ參

萬圓ヲ増シ工事ヲ手堅クスルハ適當ノユトナリト信スル
ナリト報告ス

二十四番下間庄右衛門曰唯今四番ヨリノ報告ニ就テハ少
シク語ノ足ラサルコトモアレハ補ハン彼ノ拾萬圓ヲ新聞
ヲ以テ公告セシハ四回目ノ設計ナリ此設計ハ如何シテナ
セシヤト云フニ先ニ市長カ幽靈ノ設計ナリト云ハレシ其
幽靈ノ設計ヨリ起リ之ヲ取捨シテ拾萬圓トナセシナリ依
テ委員ノ見込ハ元ノ通ニ復シタルト云フテ可ナリ又先刻
市長ハ委員ノ調査ハ運河ニ飾ナナスカ如クアリシモ然ラ
ス唯堅牢ヲ主トセシナリ拾萬圓ニテハ堅牢トハ云フヘカ
ラス今之ヲ比較セハ此分ハ現在ノ高瀬川ノ河岸ト見テ可
ナリ彼ノ如キハ一時ハ安ク出來得ルモ其修繕ハ非常ニ費
サ、ルヲ得サレハ斯ノ如ク委員ハ修正セリト補ヘリ

三十二番清水吉右衛門曰市長ハ先刻拾萬圓ニテ充分ナリ
ト云ハレタレトモ疏水ノ例モアレハ迂濶ニテ賛成スルコ
ト能ハス就テハ此運河ヲ起工セシ後ハ鴨川ハ自然潰レル
ノ憂ハナキヤ又新運河ニハ閘門澤山アリトノユトナルカ
今日ノ高瀬川ト船ノ通行ハ何レカ早キヤ又高瀬川ト新運
河トハ其川床何レカ低キヤ又高瀬川ハ其儘ニ存置スルヤ
否ヤヲ聞カント述フ

番外一番北垣府知事曰高瀬ノ繼續ハ千年モ萬年モ分ラサ
ルナリ況ンヤ新運河落成スレハ高瀬ハ之ニ就テ大ナル利
益ヲ受クルノ考ナルヤ且疏水ノ水ハ分線ニ取り新運河
ニ引クモ尙餘ル故ニ其餘水ハ分配スルコトヲ得テ大ニ便
利ナラント思フ次ニ新運河ノ方ハ水ノ速力ノ急ナラント
トテ恐レテ閘門ヲ造ルヲ以テ水位ハ高クナルナリ是一方

ニハ堤防ノ安全ナラシムコトヲ欲シ一方ニハ水力ヲ利用セ
テト欲スルカ爲ニ速力ヲ減殺セルナリ次ニ船ノ通行ノ遲
速ハ其時間ノ比較ヲ取ラサリシ故分明ナラス併シ水位カ
高クナルヲモツテ挽船ニハ便利ナルコト論ヲ俟タスト答
ヘリ
十三番東枝吉兵衛曰今日調査委員ノ報告ヲ受タレハ其勞
決謝スヘシ就テハ猶委員ノ意見ヲ深ク承リテ參考ニ致シ
タシ第一鐵道橋以南ハ沿道人民ノ希望ヲ容レテ變更セリ
然ルニ報告書ノ文中云ハ水力使用ノ爲メ變更セリトアル
ハ恐クハ間違ナラント信ス果シテ然ルヤ否ヤト詰問ス
議長西村三郎ハ休憩ヲ命シ午後一時五分前議ヲ繼續セ
シム出席議員午前ニ同シ
四番西堀徳三郎曰午前ノ十三番ノ質問ニ答ヘン此運河ハ

運輸ノ便ヲ計ルルノ目的ナルニ此設計ニヨルトキハ船ノ通
行ノ便ヲ計ルルヨリハ水力使用ノ方主トナリ居レリ其故ハ
開門ヲ各所ニ連續スレハ船ノ通行ニ不便ナルコトハ申迄
モナキコトナリ然ルニ之ヲ多ク築クハ則チ鴨川筋ノ水車
ノ便ヲ計ルモノナレハ其水力使用ヲ目的トスルヤ明カナ
リ且主任者ト委員トノ往復書簡ニ徵スルモ之ヲ證スルコ
トヲ得ルナリト答辯ス
番外一 番北垣府知事曰先刻來各員ノ應答アリタルニ就テ
ハ少シ述ヘ置カン委員ハ天端ヲ六尺ニスルトセラレタリ
成程六尺ニスレハ廣クナリテ便利ナランモ之カ車道トカ
云ヘハ兎モ角モ唯挽船ノ爲ニ設ケシモノナレハ三尺ニテ
差支ナシ他ノ者ニハ通行セシメサルノ積ナリ併シ鴨川ノ
分丈即チ七條迄ハ六尺ナリ夫ヨリ以南ヲ三尺ニスルノ目

論見ナリシト考フ尙其事ハ主任者ニ於テ委シク陳述致サ
 スヘシ又二十四番ハ杉ヲ檜ニセハ堅牢ナリトノコトヲ述
 ヘラレタレトモ之ハ格別大ナル差ハアラサルヘシ其ハ水
 上ノモノトハ異ナリ水位以下ニアルモノナレハナリ運河
 線路ヲ變更シタルコトニ就テハ種々ノ御論究アレトモ水
 力使用ノ爲ニ變シタルモノニアラス從前ノ通ニセハ田面
 ナ費スコト多キヲ以テ沿道人民ニ苦情アリタルニヨリ本
 府ニ於テモ能ク研究シタルニ此沿道各村ハ人口ノ割合ニ
 ハ田面少シ然ルニ其田地ヲ潰セハ大ニ困難ノ場合ナリト
 ハ尤ノコトナリトテ其情ヲ察シテ之ヲ變セリ而シテ其序
 ニ水力ヲ使用スルコトカ出來得レハ雙方ノ便利ナラント
 斯クハ閘門ヲ設クルノ目論見トナセリ又閘門ハ其レノミ
 ナラス堤防ノ爲ヲ計リ速力ヲ減スルノ仕掛ナリ次ニ二十

四番ハ堤防ノ崩潰スルコト西高瀬ト同様ニテ年々多額ノ
 修繕費ヲ要スル如ク云ハレシモ現今西高瀬ニ要スル毎年
 ノ修繕費ハ貳百圓乃至參百圓位ナリ僅カ此位ノ修繕費ハ
 決シテ恐ル、ニ足ラサルナリ併シ猶此心配ヲ塞ク爲ニ閘
 門ヲ以テ水勢ヲ緩ニシ堤防ヲ破壞セサル趣向トナセリ是
 等ハ各員御承知ヲ願ヒタシ其餘委シキコトハ主任者ニ就
 テ質サレタシト陳述ス

三十五番古川吉兵衛日委員カ京都大津間ノ荷物運漕ノ數
 ナ取調ヘタルニ二十一年以來年々減スルノ結果トナレリ
 トテ荷物ノ駄數代價等委シク比例シテ陳述スル所アリ
 三十八番穴戸龜三郎日本員モ委員ノ一人ニシテ井水ノ取
 調ヲナシタレハ聊カ其事ニ付報告セン井水手當トシテ參
 千六百圓ヲ置シハ此運河ノ下流ハ人家ニ接近セルヲ以テ

幾分カ影響ヲ被ラサルニアラスヤトノ懸念ヨリ取調タル
カ最モ井水ニハ各深淺アリテ一定セサレトモ餘程關係ス
ルモノト認メタリ併シ幸ニシテ關係ヲ及サ、レハ儲ナレ
トモ豫メ之ニ應スルノ手當ヲ豫算ニ組込置クハ至當ナリ
ト信ス而シテ其人家ハ本町通御前通以南ニシテ其内關係
セサルト認ムル分ヲ除テモ猶四百軒程アレハ一日一軒ニ
四荷宛ノ水ヲ與フルトシテ費額ヲ算出セリト報告ス
十三番東枝吉兵衛曰本員カ不審ニ堪ヘサルハ鐵道以南ノ
線路ヲ變更シタルコト是ナリ此事ニ就テハ先刻市長ヨリ
陳述セラレタル通ナルニ報告書ニハ水力使用ノ爲ニセリ
ト云フ本員等ハ是ヲ變更シタルカ爲ニ工費モ減シ大ニ利
益アリト思ヘリ委員ノ御見込ニテハ何カ之ヲ變更シタル
カ爲ニ井水ニ關係シ手當ヲ給セサルヘカラサルコトアリ

テ先ノ線路ナレハ之ヲ要セサルトカ云フ利害ヲ御取調ニ
ナリタルコトナルヤヲ説明アラシメテ乞フ
十七番中安信三郎曰本員モ委員ナレハ聊カ報道センカ之
ニ先キ一言述べ度コトアリ此報告ハ委員全体ノ意見ニシ
テ過半數等ニテ取極メタルモノト異レリ其ハ委員各意見
ヲ持寄タルニ奇妙ニモ皆同一ノ意見ナリシナリ此段ハ各
員ニ於テ餘程信用ヲ置カレタシ扱先般市會ニ於テ議決セ
シ鴨川新運河開鑿ノ事ハ疏水工事ニ次テノ大土工ナリ故
ニ之ヲ調査セントセハ非常ノ注意ヲ用ヒサルヘカラス何
トナレハ彼ノ疏水工事ノ如キ既ニ疏通式ハナシタルモ未
タ其成功ノ運ニ至ラス且水力換電氣ト申シ我國未曾有ノ
仕事ヲ始メタルモ是トテ又出來上リタル譯ニモアラサレ
ハ愈々實地活用シテ收益ノ見ハル、ト思フハ蓋シ數歲ノ

後ニアレハナリ斯ノ如キ不定ノ土工ニシテ再演セラル、
ニ於テハ市會議員タル者殊更注意ヲ怠ルヘカラス已ニ疏
水工事ハ斯ノ如シ然ルニ今又新ニ運河ヲ開鑿セントス而
シテ起工ノ要領ハ疏水ノ流レヲ故ナク鴨川ニ放流スルハ
如何ニモ不經濟ニシテ且残念ナレハ之ヲ運輸ニ利用シ疏
水換電氣ヨリ得ルノ外猶幾多ノ收利アルヲ以テ新ニ運河
ヲ設ケ運輸ノ發達ヲ計リ全ク廢水ヲ化シテ黄金水ニナス
モノナリト然レトモ將來貨物運輸ノ見込無キニ猥リニ土
工ヲ起スハ却テ不經濟ナリ本員過日來新運河ノ設計其他
利害等ヲ調査シタルニ左ノ結果ヲ表出セリ
第一新運河設計ノ專ハ頗ル至難ノ業ニシテ專門ノ技師ニ
アラサレハ容易ニ知り難シ彼ノ三回共設計ノ相異リタル
ヲ見テモ其六ヶ敷コトヲ知ルニ足レリ然ルニ大体ニ就テ

調査セシニ斯ク困難ナルニモ拘ラス此工事ノ不便ナルコ
トヲ認メタリ抑モ新運河起工ノ趣旨タル貨物ノ運輸ヲ主
トシタルモノニシテ市會ノ議決トテモ亦然リ而シテ京都
以繁昌ヲ希圖シテ此工事ヲ施行セントスルニ在リ然ルニ
今實地ニ就テ線路ヲ檢スルハ設計ノ目的方法ハ當初市會
ガ決議セシ所ニ相違スルアリ即チ線路ヲ大ニ迂回セシメ
其間十五尺乃至三十尺ノ堀割ヲ要スル個所少カラズ遂ニ
ハ伏見舊桃山城ノ傍ニ達シ四十尺ノ高所ニ上セリ之ノ如
キ高地ニ導キタルハ必定「インクライン」設置ノ爲ナルヘシ
然ラム起工ノ趣旨ニ齟齬シ市會ノ決議ニ違反スルヤ明ナ
リ若シ「インクライン」ヲ用ヒス市會ノ決議通ニシ當初ノ趣
旨ノ如クセンカ水路ハ右ノ如キ高所ニ導クノ設計ナルヲ
以テ豫定通線路中十箇所ノ閘門ヲ設置スルモ猶今日ノ儘

ニテハ水流急ナル爲メ通船ニ難カルヘケレハ勢ヒ今二三ノ閘門ヲ設ケサルヲ得ス二三ノ閘門ニシテ増加センカ費額從テ増加シ豫算爲ニ超過セン加之閘門ノ距離僅少ナルヲ以テ通船ノ際繁雜明狀スヘカラサルニ至ラン是起工ノ設立不充分ナリト認メタル第一ナリ

第二既ニ決議シタル費額ニ於テ彼ノ堤防ノ如キモ設計者委員ノ説明ニヨルモ堅牢ニアラスト云ヘリ設計者ニシテ既ニ之ノ如シ以テ其ノ堅牢ニアラサルヲ證スルヲ得ン然ラハ之ヲ完全ニセンカ決議ハ已ニ定レリ故ニ堤防費ヲ増加セントセハ再議ナサ、ルヲ得ス去トテ決議ノ額ニテハ時々修繕ヲ要スルノミナラス一朝大水ノ時ニ到ラハ堤防ハ潰裂ノ憂アレハ遂ニハ拾萬圓ノ金モ空シク水泡ニ歸スルニ至ラン此ノ如キハ是レ設計上不都合ノ第二ナリ

第三新運河起工ノ趣旨タル既ニ述ヘタル如ク京都伏見間ノ運輸ノ便ヲ開ントスルニ在リ然ルニ該運河タル十箇所ノ閘門ヲ設置スルノ豫定ナレハ此閘門間ノ通過ニハ少カラサル時間ヲ徒費スルヲ以テ運輸ノ目的タル快速ノ点ニ於テ缺クル所アリ加之定限アル船ニアラサレハ通行シ能ハサレハ到底通船ノ増加ハ見込ナカルヘシ之ノ如ク一方ニアリテハ時間ヲ徒費シ又一方ニハ其通船ニ限リアルヲ以テ充分貨物ヲ搬運スル能ハサルニモ拘ラス此運河ニ依リテ通船輸貨ノ便ヲ發達セシメントスルニハ蓋シ無理ナル注文ニアラスヤ是レ設計ノ不用ナル所以ノ第三ナリ猶新運河ノ利害上ヨリ調査スルモ當初疏水ヲ計畫スルヤ大津町今日ノ衰頽ヲ豫知セサリシナルヘシ大津町ニシテ其繁榮前日ノ如クハ疏水運河ハ猶新運河ノ運搬上ニ關

係アリト雖モ一昨年湖東鐵道連絡以來ハ大津町頭ニ衰頽
ナ來タシ往時京都ニ出入セシ所ノ貨物ハ今日減少シタル
コト其幾層ナルヲ知ラス因テ現時大津京都間運輸ノ見込
立タス況シヤ京都ト伏見間ニ於テハ猶更將來トモ見込ナ
キニ於テチヤ已ニ之ノ如キ見込ナキ此工事ニ對シ市債ヲ
募集シ徒ラニ大金ヲ費シテ迄之ヲ遂ントスルハ如何ナル
理由ナルヤ其意ノアル所ヲ解釋スルニ苦シムナリ且ツ古
來東高瀬川ナルモノアリテ京都伏見間ノ水運上貨物輸送
ノ便アルニアラスヤ曾テ京阪鐵道ノ布設ナシ今日ノ如ク
貨物運輸ノ利便ナカリシ時スラ猶淀川ノ水利ノミニテ充
分事足りシニアラスヤ然ルニ今日ニ於テハ鐵道既ニ開ケ
其運搬ハ迅速ニ其賃錢ハ低廉ニ出來得ルニモ拘ラス更ニ
新運河ヲ設計セントス愚モ亦甚シト云フヘシ思フニ水運

ニ於テ高瀬川アル以上ハ別ニ新運河開鑿ノ必要ヲ認メス
宜シ一步ヲ讓リ仮ニ其必要アリトスルモ高瀬ノ運輸ニ劣
クナル開鑿ヲナサ、ルニ於テハ拾萬圓ノ工事遂ニ贅費タ
ルヲ免レサルヘシ且京都ハ疏水起工以來既ニ十年ニ近ク
殊ニ十七八年以來ハ商工業不振ニシテ加フルニ市税ノ賦
課多ク市民其負擔ニ堪ヘサルヨリ勢ヒ市債ヲ募集セサル
ヲ得サル有様トナリタリ而シテ之ノ如ク數年以來非常ニ
巨額ノ金ヲ投シテ起シタル大工事ハ如何ト云フニ未タ其
成功ノ運ヒニ至ラス其得失利害等モ判然セサル今日ニ當
リ特ニ前ニ述ヘタル如ク運輸ノ發達ニ見込ナキ新運河ヲ
全ク市債ヲ以テ起工スルト云フコトハ市ノ爲ニ甚タ取ラ
サル所ナリ何トナレハ是レ全ク不急ノ土工ナレハナリ假
ニ百歩ヲ讓リ此新運河ハ見込アリトスルモ第一疏水々力

係アリト雖モ一昨年湖東鐵道連絡以來ハ、大津町頭ニ衰頽
ヲ來タシ往時京都ニ出入セシ所ノ貨物ハ今日減少シタル
ユト其幾層ナルヲ知ラス因テ現時大津京都間運輸ノ見込
立タス況ンヤ京都ト伏見間ニ於テハ猶更將來トモ見込ナ
キニ於テナヤ已ニ之ノ如キ見込ナキ此工事ニ對シ市債ヲ
募集シ徒ラニ大金ヲ費シテ迄之ヲ遂ントスルハ如何ナル
理由ナルヤ其意ノアル所ヲ解釋スルニ苦シムナリ且ツ古
來東高瀬川ナルモノアリテ京都伏見間ノ水運上貨物輸送
ノ便アルニアラスヤ曾テ京阪鐵道ノ布設ナシ今日ノ如ク
貨物運輸ノ利便ナカリシ時スラ猶淀川ノ水利ノミニテ充
分事足りシニアラスヤ然ルニ今日ニ於テハ鐵道既ニ開ケ
其運搬ハ迅速ニ其賃錢ハ低廉ニ出來得ルニモ拘ラス更ニ
新運河ヲ設計セントス愚モ亦甚シト云フヘン思フニ水運

ニ於テ高瀬川アル以上ハ別ニ新運河開鑿ノ必要ヲ認メス
宜シ一步ヲ讓リ仮ニ其必要アリトスルモ高瀬ノ運輸ニ劣
ヲサル開鑿ヲナサ、ルニ於テハ拾萬圓ノ工事遂ニ贅費タ
ルヲ免レサルヘシ且京都ハ疏水起工以來既ニ十年ニ近ク
殊ニ十七八年以來ハ商工業不振ニシテ加フルニ市税ノ賦
課多ク市民其負擔ニ堪ヘサルヨリ勢ヒ市債ヲ募集セサル
ヲ得サル有様トナリタリ而シテ之ノ如ク數年以來非常ニ
巨額ノ金ヲ投シテ起シタル大工事ハ如何ト云フニ未タ其
成功ノ運ヒニ至ラス其得失利害等モ判然セサル今日ニ當
リ特ニ前ニ述ヘタル如ク運輸ノ發達ニ見込ナキ新運河ヲ
全ク市債ヲ以テ起工スルト云フコトハ市ノ爲ニ甚タ取ラ
サル所ナリ何トナンハ是レ全ク不急ノ土工ナレハナリ假
ニ百歩ヲ讓リ此新運河ハ見込アリトスルモ第一疏水カ力

換電氣ノ結果及其收利ノ得失未タ少シモ知り得サル今日ニ於テ粗忽ニモ第二ノ工事ヲ起スト云フハ甚タ其意ヲ得サルナリ因テ考フルニ前工事ノ成功ヲ告ク既ニ費シタル市債ヲ償還スルノ目的ヲ立テ充分市民ノ安心ヲ得而シテ後起工スルモ未タ決シテ遲キニアラサルナリ以上調査ノ趣旨ナルヲ以テ鴨川新運河開鑿ノ大工事ハ須ラク二三年間中止スルノ得策ナルヲ信スルナリト結論セリ

二十四番下間庄右衛門曰十三番ヨリ御尋子ノ線路變更ニ付テハ如何ナル調査ヲナセシヤトノコトハ十三番モ能ク御承知ノコト、信ス蓋シ此委員カ修正セシ拾參萬幾千圓ハ如何ナル仕事ヲナスヤト云フコトヲ御考ニナラハ一時ニ分明スヘシ其要領ヲ摘ンテ云ヘハ同シ費額ニテ仕事ヲ

更クスルト云フニ止マル線路ハ何レカ適當ナルヤハ此度ノモノカ適當ナルコトハ云フ迄モナシト答ヘリ

十三番東枝吉兵衛曰唯今二十四番ノ辯明ニテ線路變更ハ水力利用ノ爲ニアラサルコトハ分明セリ然ルニ報告書ニヨルトキハ前段ニハ水力利用ニ傾クヲ不可ナリト有リ後段ニハ「インクライン」ヲ設置スルヲ宜シト云フハ少シク齟齬スルニアラスヤト再問ス

四番西堀徳二郎曰線路ハ何レニヨルモ同様ナリ其高低モ等シ又水力利用モ水運モ同様ニテ異ナルナシ併シ主任者ハ之ヲ以テ水力ヲ利用セハ計ラスモ此ノ如キノ利益アリ故ニ餘金アレハ「インクライン」ヲ施工セント云ヘリ然ルニ設計書ニハ閘門ノ設計ヲナセリ是實際ト目論見ト相違スルハ取リモ直サス方針ヲ定メサル儀式的ノ設計ナリト責

メサルヲ得ス後段ハ委員ノ意見ヲ述ヘシノミ而シテ前段
 ハ其主任者ノ間違ヲ掲ケシナレハ決シテ前後撞着スルコ
 トハナキナリト答辯ス
 番外二番多田屬曰午前以來主任者ノ答辯區々ナリシトテ
 委員ヨリ度々御責言ナルカ成程其人毎ニ就テハ聊ツ、ノ
 相違ハアリシナラン然レトモ大休ニ於テハ間違ハサル積
 ナリ蓋シ此運河ハ水力使用ノ爲ニ開鑿スルニアラスシテ
 水運ノ爲ニスルコトハ無論ノコトナリ併シ其上ニ水力ヲ
 利用セハ斯ノ如キ利益アリトノコトヲ申述ヘシヲ却テ主
 客ヲ混同セシモノナラン主任者ニ於テハ水運ノコトハ云
 ハストモ之ハ是非動カヌモノナレハ之ニ就テハ多言ヲ費
 サス却テ客タル水力ノ方ヲ述シテ委員ハ之ヲ以テ主仕者
 ハ水力一方ニ傾ケリト成程御聞取様ニヨリテハ或ハ然リ

シナラン次ニ「インクライン」ノ便利ヲ知リナカラ何故其設
 計セサルヤトノコトナレトモ元ヨリ主任者ハ「インクライ
 ン」ノ宜シキコトハ承知シ居ルモ拾萬圓ニ本會カ議決ナリ
 シヲ以テ之ヲ増額シテ迄モ「インクライン」ニセントハナサ
 サリシナリ又元來ハ拾四萬圓ノ設計ナリシヲ段々減シテ
 拾萬圓ニナセリト是又決シテ然ラス市長ノ述ヘラレタル
 如ク彼ハ眞ニ幽靈ノ如キモノナリ最モ此幽靈ノ如キモノ
 ナ拵タルハ誰ナルヤト云ヘハ其ハ主任者ニハ相違ナキモ
 唯今着席セル中ノ二人ノ者ノ調ヘタルモノナリ左レトモ
 主任全体ノ者ノナシタルモノニアラス依テ拾萬圓ハ決シ
 テ之ニ依リタルモノニアラサルナリ故ニ實際ハ拾萬圓カ
 完全ナルモノナリ彼ノ拾四萬圓云々ヲ委員ニ示シタルハ
 全ク私共ノ誤リナリ事實既ニ之ノ如キ譯ナレハ間違アリ

百廿六

テハ相互ニ感觸ヲ損フカ故ニ是丈ハ辯シ置カン次ニ井水ニ關係アルヤ否ヤハ委員ニ於テハ關係アリト認メラレルハ成程アルカモ知レス然レトモ其主任者ニ於テハ然ラスト信スル譯ハ先年鐵道ノ堀割ヲナセシ時此堀割ハ其近邊ノ井戸ノ水位ヨリ餘程深ク堀下ケシモ之ニ對シテ手當ヲ給シタルユトヲ聽カサレハ手當ヲ置カサリシナリ又水力ノユトニ就テ閘門四箇所ノモノヲ八箇所ニ増シタルハ水力利用ニ傾向セリト併シ主任者ノ方ニテハ水運ハ何レニシテモ動カヌモノト見テ其上ノユトヲナセシナリ一口ニ云ヘハ八ツノ閘門ニスレハ閘門ハ低クナル道理ナリ四ツニスレハ閘門ハ高クナルカ故ニ其レ之レヲ築クノ費用ニ於テハ大差アルユトナシ而シテ四ツニスルトキハ當時水車ノアル場所ヲ離レテ置ガサルヘカラス然ルトキハ其營

業者ヲ廢セシメサルヘカラサルノ不便アリ且之ヲ廢セシメルトキハ之ヲ買上サルヘカラス左スレハ此買上費用ノミニテモ貳萬圓位ハ要スルナリ又之ニ反シテ八ツヲ置クトキハ水運ニ不便ヲ與フルヤト云フニ更ニ關係セサルナリ且水車營業者ニモ便利ヲ與フルユトヲ得テ一舉兩得ノ策トナル故ニ右ノ如クセシナリト説明セリ

四番西堀徳二郎日只今番外ノ説明ノ如クナレハ或ハ委員ノ間違ナルヤモ知ルヘカラス併シ是ニハ慥ニ往復ノ書面ニテ明ナル證據アルニモ拘ラス説明度毎ニ間違フ故委員ハ大ニ困難セリ又「インクライン」ハ利益ナリト知りツ、之レヲナサ、ルハ不親切ト云ハサルヲ得ス若シ工事ニ取掛リテ貳萬圓ノ金カ不足スルトテ中止スルコト出來ルヤ否ヤ恐ラハ出來サルヘシ依テ起工スルナレハ是位ハ増サ、

ル可ラストテ委員ハ増額セシナリト辯セリ
 二十番畑道名曰委員諸君ト各員トノ應答ニテ本員モ略了解セリ併シ猶質疑シ度ユトモアリト雖モ何分新議員ニテ從來ノ成行モ委シカラス依テ質疑スルノ場合ニモ至ラサレハ熟考ノ時間ヲ與ヘラレンカ爲メ本日ハ之ニテ會ヲ閉テ明日ニ延ハサシタシト望メリ
 議長西村七三郎曰唯今二十番ヨリノ御求メモアレハ本日ハ散會スヘシト告ク午時午後二時五十分ナリシ

市會 第十四

十四年第十回市會

同月十七日開會出席議員三十一名缺席議員十一名議長西村七三郎ハ昨日ノ議事ヲ繼續スヘキニ付報告書ニ就キ御質問アレト陳告ス
 三十八番穴戸龜三郎ハ市參事會ノ調査書ヲ二番ヨリ借覽

セシカ主任者ニ於テハ井水ノ調査ノ方ハ如何ヲ問ヒ番外三番細田技手ハ運河ト井水トノ水位ノ高低ヲ測リテナセリト答辯ス

三十八番穴戸龜三郎曰高低ヲ測ルユトハ能ク承知セリ併シ距離ト云フモノモ關係スルナランカ此距離ノ取調方ニ不思議ナルハ本町通ニハ東側ト西側トアリテ距離ニ相違アルニ主任者ハ之ヲ同一ノ距離ト見テ取調ラレシカ如シ而シテ井水ニ關係ナシトハ不安心モ亦極レリ又昨日番外ハ鐵道線路ト井水トノ關係ニ就テ井水ノ方高シト云ヘルカ去ル箇所ハ一箇所モ無シ萬事之ノ如キ取調方ナルカ故ニ信用ヲ措キ難ク委員ハ殆ント困リシト難ス
 番外三番細田技手曰本町通ノ東側ト西側トハ距離違ヘリト云ハルレトモ此番外カ取調テ掲ケタル東側ニアルモノ

ハ西側ト異ナラス又鐵道ノ近邊ハ悉ク然リト云フニアラサルモ伴與助ト云フ者ノ井戸ノ如キハ鐵道線路ヲ距ルコト一間ニシテ線路ト井戸トハ水位三尺高シ然レトモ未タ水ノ減シタルヲ聽カス之ヲ以テモ證スルヲ得ヘシト答辯セリ

三十八番穴戸龜三郎曰是等ノコトハ何程應答スルモ水掛論ニテ駄目ナレハ本員ハ最早云ハサレトモ二十四番ト共ニ取調タルニ去ル箇所ニハ更ニ無シト固辭ス

番外一番北垣府知事曰昨日ヨリ段々ト御質疑モアリ就テハ市長ニ於テハ其職分ノ上ヨリ餘程心配スルナリ何分此工事ハ疏水ト聯絡シテ重大ノ事業ナレハナリ然ルニ主任ノ答ニ少々行違ノ廉アリテ甚不都合ナリシハ幾重ニモ御斷申置クヘシ併シ又主任ノ者ニ就テ聞クハ主任モ餘程骨

ヲ折リシ様子ナリ而シテ主任ノ答ニハ一己ノ答ト一同協議シテ答ヘシトアリテ一同協議シテ答ヘタルヲ以テ信ヲ置カレタシト云ヘリ其ハ兎モ角顧フニ議員諸君ニシテモ市長ニシテモ何レモ責任ノアル間柄ナレハ些々タルコトニ拘泥セス何トカ纏ルコトニ願ヒタシ市長ニ於テハ此事ニ就テハ餘程心配スルナリ又決シテ委員ノ報告ヲ疎漏ナリト辯駁シタルモノニアラス尤モ參萬圓ヲ増セハ充分ナルコトハ出來ルナリ併シ拾萬圓ニテモ決シテ不都合ナルコトハ無キナリ且本會ノ決議ニヨリシモノナリ又委員報告モ拾萬圓ニテハ出來スト云フ報告ニモアラス又拾參萬圓ニテ起工セヨトノコトニモアラス依テ之ヲ増加スルト否トハ暫ク措キ此拾萬圓ハ議決シテ市公債モ既ニ順序立タレハ決シテ市ノ力ニ差支アルコト無シ此拾萬圓ハ毫モ

無理ナルコトナキヤ必セリ此工事ニ就テハ今ハ好時機ナ
リ拾萬圓ノ市公債ハ細カニ手續ヲ經テ既ニ貳萬圓ハ募集
濟トナリ當時株券ノ下落スルニモ拘ラス其價ハ騰貴セリ
故ニ此際ニ八萬圓ヲ募集スルハ其勞ヲ見サルヘシ又現今
五萬圓程償還スヘキ公債アリ依テ此際ニ乘シテ募集セハ
悦ンテ之ニ應スルコト疑ナシ然レハ新ニ募集セサル可ラ
サルハ僅ニ貳參萬圓ニ過キス是一ツノ好機會ナリ又一方
ニハ之カ工事ヲ請負ント望ムモノ多シ去レハ之ニ依テモ
幾分カ工費ヲ減スルコトヲ得シ是又一ツノ好機會ナリ右
ノ如ク萬事好都合ナルコトハ委員ニ於テモ御承知ノコト
ト思料ス故ニ成ル可ク速ニ着手スル様決議アラシムコトヲ
希望ス次ニ昨日清水君ヨリ御尋子ノ船ノ速力ハ大津京都
間ハ三時間京都伏見間ハ三時四十分間ナリ依テ晝夜ニハ

百艘位ハ氣樂ニ往復スルコトヲ得ルナリ高瀬川ノ方ハ市
長ヨリハ清水君ノ方精シクレハ御勘定ヲ乞フ水車ノコト
ハ昔藩閥ノ時代ニハ常ニ營業ヲ中止スルコトアリシカ此
工事落成スルトキハ更ニ其憂ナク頗ル幸福ヲ得ルナリ故
ニ水車營業者ヨリハ小言ヲ聽ク筈ナク却テ御禮ヲ云フテ
貰ハサルヘカラサルナリ道幅モ鴨川七條迄ハ六尺ナリ郡
部ノ分ハ三尺ニセリ委員ハ三尺ニテハ堤防ニ憂アリト云
ハシモ其障害ノナキ爲ニ水ノ速力ヲ減シタルナレハ決
シテ危キコト無シ郡部ヲ何故ニ三尺ニセシヤト云フニ之
ハ船挽ノ外ハ通行セシメサル積ナレハナリ若シ之ヲシテ
車ヲモ通行セシムルナレハ一間ニシテモ猶不足ナリ去レ
ハ矢張車道ニ準セサル可ラサルヘシ而シテ市長ハ眼大ナ
ル故ニ之ノ如キコト圖ルト云ハル、人モアレトモ決シテ

然ルニアラス何故ナレハ彼ノ疏水ノ大工事ノ如キモ京都市民ノ眼ノ大ナレハコソ出来シタルナレ市長ノ如キハ却テ眼ノ小ナルヲ耻ツル程ナリ抑モ官業ニアラスシテ市民ノ力ヲ以テ成功ナシタルモノニシテ歐米各國ヨリ賞賛セラレタルハ彼ノ工事ヲ除テ他ニ之アラサルヘシ開闢以來未タ督テ之アルヲ聽カス之レ即チ市民カ眼ヲ遠大ニ注キシカ爲メノミ就テハ此度ノ鴨川新運河ハ其瞳子ヲ入ルノ工事ナリ彼ノ疏水ノミニテ鴨川ヲ疏通セサルハ眼アレトモ瞳子ナキカ如シ故ニ一日モ早ク運河ヲ開鑿シテ瞳子ヲ入レラレシムトナ切ニ望ンテ止マサルナリト辯セリ十三番東枝吉兵衛曰此工事ヲ拾萬圓ニテ成スカ或ハ委員ノ如ク拾參萬圓ニアラサレハ出来サルカヲ研究スルハ我我議員ノ本分ナレハ先ツ委員ノ見込ヲ承ラント述フ

四番西堀徳二郎曰此工事ハ報告書ニアル通ニテ其内譯ノ細目ニ至リテハ主任者ニ就テ御質問ナル方適當ナリ是ハ昨日申述ヘシ通委員ハ些々タルコトハ取調ヘス先ノ主任者ノ成セシモノト市參事會ノ目論見トヲ比較シテ判断ヲ下シタルモノナレハナリ假令ハ杉ト檜トハ何レカ堅固ナルヤハ檜ノ勝レルニ如カサルコトハ當然ノコトナリ故ニ檜ヲ取ントス其他皆然リ畢竟委員モ運河ノ利ナルコトハ疾クヨリ承知セリ故ニ施工スルナレハ寧日完全ナルモノヲ造ラントノ考ナリト答フ

十三番東枝吉兵衛曰委員ノ舊設計ニヨルヲ得策トセラレルコト今少シ理由判然セス唯一口ニ拾萬圓ヨリハ拾五萬圓ノ方宜シト云フ位ニテハ其可ナルヲ知ル能ハス本員ノ如キモ七條以北ハ堅牢ニセサルヘカラサルコトハ承知セ

リ然レトモ七條以南モ同シク以北同様ニセサル可ラサル理由ヲ承リタシト述フ

二十四番下間庄右衛門曰十三番ニ答フルニ先令市長ヘ一言御禮ヲ述ヘン此京都市ナル人形ニ眼孔ヲ入レ歐米各國ニ迄賞譽ヲ受クルニ至リシハ北垣市長尤モ與リテ力アリ故ニ其恩ヲ謝セサル可ラス次ニ昨日來工事ノ模様ニ就テ聊カ行違ノ廉アルモ些々タルコトハ工事主任ニ委テヨト其ハ尤ノ事ナリ併シ大堤ノ崩潰モ蟻ノ一穴ノ語ニ洩レズ大ナル間違モ初メ少シノ間違ヨリ起シモノナレハ其當初ニ正シ置クハ肝要ノコトナリ此「インクライン」ト開門トノコトニ就テハ市參事會ト主任者トハ行違ヘリ是等ノ行違ヲ聽テハ聞流シニスルコトハ出來ス能ク公會ニ於テ正シ置クヲ宜シトス是ヨリ十三番ニ答ヘン御尋ハ少シ可笑ナ

リ此事ハ別ニ辯明セサルモ十三番ハ長ク疏水工事ニ從事セラレタルヲ以テ如何ナル關係タルコトハ疾ク御承知ノ筈ナリ彼ノ疏水ノ堤防ハ築立ニアラスシテ切下ケナリ故ニ其土抱臺木皮板ニテモ餘リ差支ナシト雖モ之ニ反シ今回ノ新運河ハ築立ノミニシテ之ヲ容易ク三尺位ノ堤防ニテ木皮板ノ如キモノヲ以テセハ如何トノ心配モアリ然ルニ主任者ハ堅固ナリト云ヘトモ本員等ハ保証スル能ハス委員ハ將來ノ爲ヲ思ヒ成ル可ク堅固ニシタシトノ考ナリ併シ拾參萬圓テ是非施工セヨトハ云ハス施工スルナレハ此位ヲ以テセサレハ不可ナラントノ意見ニ外ナラスト答辯ス

三十六番堤 彌兵衛曰此報告書ノ質問ハ畧終レリ依テ大体ニ就テ委員ノ御答ヲ願ヒタシ委員ノ側ニテハ鴨川ニ蛇

籠ヲ伏セルト木皮板ヲ檜ノ挽板ニスルト堤防芝張ヲ張石
ニスルト天端三尺ヲ六尺ニスル等重ナルカ如シ成程斯ク
スレハ可ナルハ必定ナルカ委員ノ御見込ニテハ此著シキ
コトヲ訂正セサレハ拾萬圓ニテモ出來ルヤ否ヤ又市參事
會ノ目論見ニテハ鳴川浚疏ニ四千圓ヲ置キシニ委員ハ之
ヲ省キシハ如何等ヲ質問ス

四番西堀徳二郎曰唯今三十六番ヨリ御尋ノ完全ニセサレ
ハ拾萬圓ニテモ出來ルヤ否ヤト其ハ御尋ノ通ナリ將來ノ
事ニ頓着セサレハ隨分土抱ナシニテモ河ヲ造ルコトモ出
來ルナリ其代リニ今日造リテ明日崩ルヤモ知ル可ラサル
ナリ鳴川浚疏ノコトハ聞合セタルニ是ハ無理ニセサルモ
差支ナシトノコトナルヲ以テ止メルコトトセリト答フ
番外一番北垣府知事曰唯今二十四番ヨリ御尋ニ預リシモ

否々決シテ當ラス堤防ニ就テハ市長ノ設計ノモノニテハ
不完全ニシテ常ニ修覆ヲ要スト云ヘルモ運河ノ堤防ト云
ノモノハ大底芝付ノモノナリ運河ノ堤防ニシテ張石ヲ以
テセシハ此市長カ見ル所ヲ以テセハ加藤清正カ築キシ綠
川ノ堤防ヲ除テハ他ニ之アルヲ知ラス蓋シ餘程速力ノ急
ナルモノニ非サレハ此必要ナキナリ彼ノ有名ナル安積ノ
疏水十一里ノ堤防ニテモ矢張芝付ナリ琵琶湖疏水ノ南禪
寺ヨリ大津迄ノ如キ立派ナルモノハ日本國中稀ナルモノ
ナリ之レ市長カ拾萬圓ニテ成功ニ不充分ナルコトナシト
云フ所以ナリ尙ホ況ンヤ今度ノ運河ハ水ノ速力ニ應シテ
設計セシモノニシテ決シテ不安心ナルコトナシ然レトモ
鳴川ノ分ハ六尺ニシテ水當リノ處ハ石ニテ抱ヘリ左様御
承知アリタシト陳辯ス

十二番西村義民日本員ハ之レヨリ工事ノ大体ニ就テ委員ノ意見ヲ述ヘン其意見ハ兎モ角延期セント云フニアリ蓋シ無暗ニ議事ノ多數ヲ以テ快ヲ買フカ如キ延期ニアラスシテ社會ノ形勢市民ノ希望等ニ照シテ延期セントスルナリ主任者ハ拾萬圓ナレハ大丈夫出來ルト云ヘハ出來ルナラン併シ之ニテハ不完全ノ處アリテ謂ハ、安物ヲ買フト同一ニシテ將來ノ利害ニハ頓着セサルモノナリ故ニ委員ハ彼是ヲ考ヘ施工スルナレハ拾參萬圓位ハ要ストセリ併シナカラ此工事タルヤ行政上ノ如キモノニアラスシテ營利的ノモノナレハ收益ヲ目的トスル隨意事業ナリ而シテ其利害ハ如何ト云フニ現時高瀬川ノ如キモ衰運ニ傾キ以前ニ比シテ餘程荷物ヲ減セリ故ニ現今高瀬川ノ上リ高ハ上下ヲ合シテ五千圓程ニテ其内最モ多キ荷物ハ薪炭醬油

ナリ是等ノ品物ハ假令新運河カ通スルモ是非高瀬ニ着スルモノナリ左スレハ高瀬ノ荷物ヲ悉皆引寄スルモ其幾分ハ減スルモノトナル今日拾參萬圓ニテ起工セハ其利子ハ千餘圓ナリ加之其他ノ雜費ニ一箇年貳參千圓宛ヲ要ストスレハ年々壹萬餘圓ハ支出セサルヘカラス而シテ之カ收入ハ前陳ノ如シトセハ到底收支相償フヘキモノニアラス故ニ斯ノ如キ仕事ハ今日ノ不景氣ノ際ニセサルモ他日景氣挽回ノ日ヲ俟テセントスルハ市民ニ對シテノ親切ナラン願ミテ蹴上ノ工事ハ如何ニト云フニ是又未タ出來ノ場合ニ至ラス之レモ八千圓ノ金額ヲ要ス而ルモ收入ノ見込立タサルナリ其上ニ又右ノ如キ損失ノ判然タル仕事ナスルハ不利ナレハ延期セント云フハ立派ナル理由ナリ依テ今日ノ場合ハ仕掛リノ疏水ニ熱心盡力シテ收支相償フ様

ニ務メ幾分カ收入ノ超過スルノ日ヲ待テスヘシ又退テ社
 會ノ景況ヲ觀察スルニ諸會社ノ如キハ何レモ衰運ニ赴キ
 漸次解散スルノ模様アレハ挽回ノ時ヲ待テナサントスル
 ニ外ナラサレハ決シテ何時迄モ施工セスト云フニハアラ
 サルナリト辯ス
 番外一番北垣府知事日唯今十二番ハ此工事ハ營利的ナル
 カ故ニ眼前ノ利ヲ見ルニアラサレハ不可ナリトノ理由ニ
 テ延期セント雖モ是ハ容易ナラヌナリ併シ之レモ市民ヲ
 思フノ餘リ洩レシ言ナラン左レハ市長モ亦市民ヲ愛スル
 カ爲ニ聊カ御話セン此工事タル今日收支ノ勘定ヲ爲スヘ
 キモノニアラスト考フ疏水工事ヲ起スノ始ニ當ツテ市ノ
 名望家財産家五十餘名ニ相談セリ而シテ之レハ此會議ノ
 如ク多數決ト云フ譯ニアラス一名々々ニ就テ諮リシニ悉

ク賛成セリ此時ヨリ市民ノ眼識ノ遠大ナルニ感服セリ其
 時ヨリ眼前ノ利益ニハ眼ヲ付ケス世ノ發達ヲ待テ之レト
 共ニ漸ク以テ京都市ノ繁榮ヲ計ルノ目的ニ外ナラス決シ
 テ收支ノ勘定ヲ目前ニ見ントスルニハアラサリシナリ依
 テ知事ハ一方ヨリハ市ノ賛成ヲ得一方ニハ許可ノ命令ヲ
 得テ着手セリ夫レヨリ制度ノ改革ニヨリ市ニ移スコト、
 ナレリ然レトモ其精神目的ハ一朝ニ變スルモノニアラス
 併シ唯今十二番ノ言辭ニテハ少シ之ヲ變シタルニハアラ
 サルヤノ疑アリ又一ツニハ不景氣ナリトノユトナ理由ト
 セリ是ハ何レモ其見込立難キモノナリ併シ市長ニ於テハ
 此工事ニ對シテハ不景氣ナシト證シ得ルナリ何故ナレハ
 既ニ決議ヲ經テ市公債ヲ募集スルノ運ヒニ至リシモノナ
 レハナリ右ノ如ク概畧今日迄ノ沿革ヲ述ヘテ此工事ノ一

日モ早ク着手スル様市長ハ切望ニ堪ヘサルナリト陳ス
 議長西村七三郎ハ正午ナルヲ以テ休憩ヲ命シ午後更ニ前
 議ヲ繼續セシム出席議員午前ニ同シ
 十二番西村義民曰本員ノ午前ニ述ヘシ意見ハ少シ行違
 ルヲ以テ訂正スヘシ延期ハ委員ノ意見ニシテ其理由トシ
 テ陳述セシハ本員一己ノ意見ナレハ左様御承知アリタシ
 ト辯解ス
 十番富田半兵衛曰委員ヨリ延期ノコトヲ報告アルモ之ノ
 如キコトハ委托外ナレハ大方間違ナラン故ニ十二番ノ陳
 述ハ別問題ナレハ報告會終了ノ後更ニ提出セラレテ可ナ
 リト辯難セリ
 十七番中安信三郎曰十番ノ陳述通ナリ尤モ昨日來御尋ニ
 對シ委員ヨリ答ヘシハ何レモ報告ト見做サレテハ困ルナ

リ調査ノ報告ハ全ク其報告書通ヨリ外ナシト辯解ス
 議長西村七三郎ハ十二番ノ陳述ハ委員全体ノ意見ナルヤ
 否ヤヲ明ニセラレヨト照會シ十二番西村義民ハ建議書ニ
 ハ設計ナリ金額ナリノ上ニ就テ運河ニ對スル利害ヲ調査
 スルトアリ然レハ興廢ノコト迄モ論及セサルヘカラス故
 ニ本員ノ見ル所ニテハ無論中止ノ事迄モ托サレタルモノ
 ト信セリ十七番ハ報告書外ノコトハナシト云ヘトモ延期
 ト云フコトハ委員全体ノ意見ナリト回答シ議長西村七三
 郎ハ更ニ然レハ十二番ノ陳述セラル、延期ノコトハ委員
 全体ノ意見ト認メテ可ナルヤヲ問ヒタルニ三十五番古川
 吉兵衛ハ十二番ハ少々誤レリ委員ハ調査ノコトハ托サレ
 タルカ其結果止ムヲ得ス中止セサルヲ得ストノ話ハアリ
 タルモ之ヲ委員ノ意見トシテ提出スヘシトハ決セサリシ

ト辯シ二十一番雨森菊太郎ハ之ノ如キハ議事ヲ混雜スヘケレハ成ルヘク調査委員長ヨリ報告セラレ之レヲ以テ信ヲ措クコトハシタシト望ミタルニ十七番中安信三郎ハ委員長ハ市會ノ決議ニヨリ設ケシモノニアラス唯便宜上設クルモノナレハ市會ノ上ニ於テハ之レヲ答ヘタルニ議長西村七三郎ハ之ノ如クナリテハ何レヲ信シテ可ナルヤ大ニ整理上ニ苦シム依テ委員長ノ有無ニ拘ラス委員長ヲシキ人ヨリ報告セラレタシト希望シ二十四番下間庄右衛門ハ委員長ハ公然定メタルモノニアラス畢竟集會ノ手續等ヲナスニ過キサレハ謂ハ、取締ノ如キモノナリ併シ報道ノ區々ナルハ議員ニ對シテ相濟サレハ聊カ御話セン先刻十二番ノ報道ハ萬更無キモノニモアラサレトモ滿場ヨリ問ノ起ルトキニ於テセントノコトナリシカ少シノ行

違ヨリ生シタルナレハ報告會ヲ終リテ後ニセハ宜カリシニ少シ早カリシ迄ナレハ三十五番ノ如ク答辯スルハ宜シカラス左様御承知アリタシト辯解シ十二番西村義民ハ又本員ノ意見ヲ委員ノ意見ナリトシテ報告セシハ誤リナルモ三十六番ヨリ問ニ對シ答ヘタリト辯シタルニ三十六番堤彌兵衛ハ十二番ハ本員ノ問ニヨリ答ヘタリト然レトモ本員ノ問ハ左ニアラス大体ニ就テ拾萬圓ニテモ出來ルヤ否ヤヲ問ヒシニ四番ヨリ答アリタリト辯駁ス
二番大澤善助曰此件ニ就テハ間違ノコト澤山アレトモ何分設計上ノコトナルヲ以テ少々ノ行違ハ黙シテ云ハサリシカ唯今四番ヨリ報道スル所ニヨレハ此設計ハ儀式ノ設計ナリト云ハレシカ其ハ工事ヲ起スノ前ニハ是非設計ヲ拵ルトノコトヲ儀式ト云ハレシヤ否ハ知ラサレトモ參事

會ニ於モ無暗ニ目的ナシニ設計シタルモノニハアラス又
番外カ拾萬圓ニ當テ箱メタルモノニアラスト云ヘト元來
此拾萬圓ハ本會カ決議セシ額ナレハ其拾萬圓ノ額ニ箱メ
テ設計シタルニハ相違ナシト辯ス
四番西堀徳二郎日本員ノ辯論中或ハ語氣ノ不穩當ナルコ
トアリテ各員ノ御感觸ヲ損シタルコトアレハ幾重ニモ謝
スヘシ併シ本員等ノ考ニテハ主任者タル者ハ工事ノ目的
ヲ先ニ立テ、而シテ後ニ金額ヲ定ムルハ至當ノ順序ナラ
ン然ルニ今回ノ工事ハ金カ餘レハ「インクライン」トナシ不
足スレハ開門ニスルト云フニ在レハ則チ目論見ニ反シテ
起工スルノ目的ナレハ斯ク云ヒシナリト辯ス
番外一番北垣府知事曰唯今二番ト四番ノ問答ハ失敬ナカ
ラ辭尻咎メノ如シ斯ノ如キ些々タルコトハ措テ成ルヘク

重大ノコトナレハ親切ニ議セラレタシト望ム
九番松下新助ハ報告終結ナリトノ動議ヲ提出セシニ議長
西村七三郎ハ唯今九番ヨリノ御求メモアレハ報告ハ既ニ
終リタルモノト見テ可ナルヤヲ議場ニ諮ヒタルニ十三番
東枝吉兵衛ハ最早終結セリト思ヘハ更ニ意見ヲ述ヘテモ
差支ナキヤト反問シ議長ハ最早終結セリト認ムレハ御意
見アラハ陳述セラルヘシト答ヘリ
三十二番清水吉右衛門曰先刻市長ヨリ勸業諮問會云々ノ
コトヲ御述ヘニナリシカ成程其節ハ本員等モ大賛成ナリ
シナリ然レトモ其節ノ模様ト今日トハ餘程變シタルナリ
依テ本員ハ此思案ノ定マル迄延期セラレニコトヲ望ムト
論ス
十三番東枝吉兵衛曰本員ハ速ニ工事ニ着手セラレニコト

ヲ望ム何ントナレハ元來此調査ヲナスニ至リシハ設計上
 不完全ノ廉アラントノ疑ヨリ起リタルカ今回ノ報告ニヨ
 リ考フレハ決シテ不完全ナラサルコトヲ信スレハナリ且
 二十四番ノ御答中ニアリシ七條以南ノ天端ハ六尺ニスル
 ノ必要ナシ必竟委員ノ拾參萬圓ト云フモノハ杞憂ニ止レ
 ハ一日モ早ク此工事ノ落成セシムコトヲ望ムト建議シ十一
 番田中善右衛門ノ賛成アリテ議題トナル
 議長西村七三郎ハ三十二番ノ建議ハ賛成者ナクレハ自ラ
 消滅シタルモノトスヘシト陳告セシヨリ十七番中安信三
 郎ハ其陳告ヲ取消スヘシト迫リタレトモ議長ハ之レヲ取
 消サスト答ヘリ
 四番西堀徳二郎曰本員ハ自惚ノ如クナレトモ委員ノ調査
 ニ信ヲ措クモノナリ猶此上ニモ「インクライン」ヲ設置シ度

精神ナリ然ルニ唯今十三番ノ御求メニヨレハ先ノ拾萬圓
 ニテ起工セヨトノ意ノ如シ依テ此建議ハ採用スヘカラス
 ト反對セシニ三十八番穴戸龜三郎ノ賛成アリテ是又議題
 トナル
 二十番畑 道名ハ十三番ヨリ建議出テ、採用トカ不採用
 トカ云ヘルモ是ハ少シ議事ノ順序ヲ違ヘリト思フカ如何
 ト議長ニ尋問シ議長西村七三郎ハ十三番ノ建議ノ採否ヲ
 諮ルニアレハ工事ニハ一切關係ナシト答ヘタルニ又二十
 番ハ委員ヲ置テ調査スルコトハ全ク市會ノ決議ニヨル而
 シテ其趣旨タル調査中ハ工事ヲ中止シ調査報告ヲ待テ更
 ニ決議スヘキニアラスヤト再問シ議長ハ其事トハ全ク違
 フト答ヘタルニ又二十番ハ十三番モ間違ヘ居ラル、カ如
 シ此報告終レハ更ニ決議ヲ經ルト云フニ立戻リテ議事ヲ

開ク筈ナリ故ニ報告ヲ了スレハ拾參萬圓ニテ起工スルカ
或ハ拾萬圓ニテ起工スルカ又ハ全ク起工セサルカヲ議ス
ルナラント信セリト述ヘタルニ議長ハ御尤ナレトモ十三
番ノ建議カ成立セハ其トキニ於テ何レトカ決スルヨリ外
ナシト辯セリ

二十番畑 道名十四番河村清七ハ四番ヲ賛成ス

二十一番雨森菊太郎日十三番ニ賛成ス是カ初テ市參事會
ヨリ議案ヲ出シタルナレハ種々ノ議論ノ出ルモ至當ノコ
ト、信スレトモ既ニ收支ノ豫算モ決定シテ其範圍内ニ於
テ議スヘキモノニテ今ハ既ニ決議ノ後ナルコトヲ知ルヘ
シ元來之ヲ調査スルノ場合ニ至リシハ水力利用ニ豫算金
ヨリ貳萬圓ノ不足ヲ生シ之ヲ市會ニ附議シタルニ原因シ
テ議會ノ感觸ヲ損シ今回ノ新運河ニモ或ハ斯ノ如キコト

アラシモ計リ難シトノ疑ヲ起セシニ此時ハ未タ工事ニ着
手シ居ラサリシヲ僥倖ニ議會モ調査ノコトハ至極結構ナ
レハ之ヲナサシムルコトニ賛成セシナリ若シ彼ノ水力利
用ノ不足ノコトナカリセハ此ノ如キ疑ノ起ルコトモ無ク
シテ既ニ工事モ央ニ達シ居リシナラン而シテ此報告ノ結
果ニヨレハ拾萬圓ニテハ完全トハ云フヲ得サルモ設計カ
不充分ニシテ水力通セヌト云フ程ノコトモナシ況ンヤ拾
萬圓ニテハ雜トシタルモノヨリ出來サルコトハ當初之ヲ
決議スルトキヨリ既ニ承知シテ認メタルニ於テチヤ然ラ
ハ別ニ決議ニ背反シタル程ノコトモ非サレハ此場合ハ十
三番ノ御述ヘノ如ク考レハ之ニ賛成セサルヲ得ス次ニ延
期ノコトハ立消トナリタルカ如シト雖モ此十三番ノ建議
ニシテ成立セハ其時ニ出ルコト、信ス委員會ニテモ多數

ノ意見ニテ延期ト極リシトコトナレハ定メテ此説ハ議
場ニ勢力アルナラン併シナカラ唯今十二番ハ拾萬圓ノ金
ヲ費シテ僅カ貳千圓ノ利益ヨリ上ラスト成程或ハ然ラン
然レトモ事已ニ茲ニ至リテ此度ノ委員中ニハ先ニ疏水ニ
熱心ニシテ其レカ爲ニ東京迄モ至リシ人モアルナリ尤モ
時勢ノ變遷ハ計ラレサレトモ此疏水ヲ通スルノ初ヨリ鐵
道カ短クナルノ見込ニハアラサリシナラン是非トモ鐵道
ハ長クナルコトハ御承知ノコト、信ス又氣車カ盛ンニナ
レハ疏水ハ維持カ出來ストノ考モナカリシナラン左レハ
私共ハ此工事ハ經濟上ヨリ論スルコトハ出來ス疏水ニ金
ヲ入レタル後ハ之ニ連絡ヲ付ルハ至當ノコトナラン故ニ
此工事ハ市公債ヲ募集シテ着手スルナリ又此募集ハ斯ノ
如キコトニ必要ニシテ世ノ不景氣トハ伴ハサル爲ナリ又

水運ノコトハ漕草價ノ下落スルニ付テハ或ハ荷物ノ減ス
ルコトハアルヤモ知レズ併シ又更ニ運河ヲ造レハ來ルノ
荷物モアルナリ不景氣ノ時節柄成ルヘク金ヲ入レヌト云
フ説ハ議場ニ賣レ易キハ論ヲ俟タス併シ此工事ニ對シテ
市民カ先ノ議決ヲ翻シテ中止セヨト云フ程ノ苦情アルコ
トモ餘リ聞カス尤モ或幾部分ノ反對者ハアルニモセヨ是
等ハ僅々ノモノニシテ輿論ト云フ程ノモノニアラス故ニ
公債ヲ募集センカ之レニ應スル者ハ随分アルナリ成程現
今不景氣ハ不景氣ナレトモ一時ノ盛衰ニ伴ハサルカ爲ニ
市公債ヲ募集シテ數年ノ見込ヲ立テ、スルモノナレハ先
刻來ノ延期説ノ理由ニ就テハ感服セサルナリ唯利益ノナ
キ工事ハ見合ス方宜シト云フハ尤モナレトモ是レトテモ
一旦決議セシモノナレハ之ヲ翻スカ如キコトハ好マシカ

ラス斯ノ如キ例ヲ遺シテ後議場ニ度々起ラハ議會ノ信用ニ關係シ終ニハ市民カ議會ノ決議ヲ信スル者ナキニ至ラシ且ツ先ニハ賛成シテ後ニハ反對スルト云フ如キユトアリテハ大ニ困ルナリ此邊ハ能ク各員御考ヘアラシユト又此工事ヲ施工セハ甚敷害アリヤト云フニ決シテ左ル事アルニアラス併シ利益ノ無キユトハ或ハ然ラン然レトモ此事ハ先ノ決議ノ時ニ論究モ出來タルナランニ其トキニハ通過シテ今ニ至リテ彼是云フハ甚タ其意ヲ得ス金額ノ増減ニ至リテハ起工スルコト、定ル以上ハ實施上ニ就テ止ムコトヲ得サレハ多少ノ増減ハ之ヲ爲スモ差支ナカルヘシ本員ハ此理由ナルヲ以テ十三番ニ賛成セシナリト縷々演説ス

三十五番古川吉兵衛曰四番ヲ賛成ス二十一番ハ長々ノ演

説ニテ十三番ヲ賛成セシモ二十一番ハ卓子上ノ議論ニハ巧ニシテ實際ノユトニハ疎シ拾萬圓ノ設計ニヨルトキハ彼ノ井水ノ如キ不都合アリ此井水ノユトニ就テハ委員ヨリ主任者ニ報告シタレハ是ハ手落ナリシト云ヘリ而シテ唯今ニ至リ矢張拾萬圓ニテ維持セントス其意ノアル所ヲ知ラス又僅ノ費用ナレトモ土抱ヲ杉ニテモ差支ナシト云フト雖モ之ハ船ノ權ニテ障レハ直チニ折レルナリ故ニ起工スルナレハ堅牢ニセントノ意見ナリト反駁ス

四番西堀徳二郎曰二十一番ノ論駁ハ少シ不當ナリ假令ハ一家ノ經濟ヲ以テ云フトキハ土瓶ト鐵瓶ト何レカ價安キヤト云ハ、土瓶ノ安キユトハ言ヲ俟タスシテ明ナリ依テ安キモノハ經濟ナリトテ之ヲ使用シ毎日之ヲ破リテ後其不經濟ナルユトヲ悟リテ初テ鐵瓶ヲ使用スルト一般ニシ

テ不經濟モ亦甚シト云フヘシ二十一番ハ拾參萬圓又ハ拾萬圓ノ何レニテモ起工シタシトノ意ヨリ順序ノ間違タル十三番説ニ賛成セシハ其人ニモ似サル誤ナリト論駁ス十三番東枝吉兵衛曰先刻三十五番ヨリ井水ノユトニ付大津ノ例ヲ引カレシカ大津ハ井水少クシテ其水源ハ三井寺ニ在リテ其湧水ヲ竄ニテ取レリ然ルニ此水源ノ山下十丈以下ヲ堀下タルカ故ニ涸渴シタルナリ然レトモ今回ノ工事は是トハ大ニ其趣ヲ異ニセリト辯セリ三十五番古川吉兵衛曰本員モ大津ノユトハ能ク承知セリ併シ主任者ニ就テ此話ヲセシニ是ハ誤レリト云ヘリト辯ス二十四番下間庄右衛門曰賛否ヲ表スルニ就テ一言セン本員ハ延期スルニアリ併シ是ハ後段ノユトナレハ深ク言ハ

サルカ少シク決議ノ拾萬圓ト委員ノ調査セシ拾參萬圓トノ手續上ニ就テ述フヘシ成程順序上ヨリ言フトキハ唯今二十一番ノ御述ノ通カ至當ナラシ併シナカラ其時ノ形勢ト今日ノ有様トヲ對照セハ其困難ナルユトハ各員ニ於テモ能ク御承知ノユト、信ス然ルニ行掛リ上ヨリ施工セサルヘカラストハ早計モ亦甚シト云フヘシ且二十一番ハ各員ノ論旨ノ行違ヨリ辯論ノ誤ヲ咎メ心ニモ無キ反對セラ、ハ其人ノ爲ニ惜ムナリ又「インクライン」ニスルユトハ誰レ一人反對スルモノナシ然ルニ開門ニセントスルハ百年ノ長計ヲ成スト云ヒナカラ其語ニ反セリ依テ拾萬圓ノ豫算金額ニテハ不可ナリ故ニ詰リ四番ノ如クセハ可ナラ、ン素ヨリ議員ニシテモ又委員ト雖モ京都市ヲ思ハサル者ナシ故ニ此場合ハ四番ヲ賛成スト述フ

議長西村七三郎ハ論旨既ニ盡キタリト認メ十三番ノ建議ニ反對セル四番ノ不可採用説ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ十六名ノ過半数ニテ十三番ノ建議ハ否決セリ

二十番畑 道名曰此場合順序ヲ踏シテ拾萬圓ヲ以テ再議セシコトヲ建議セシニ四番西堀徳二郎三十八番穴戸龜三郎ノ賛成アリテ議題トナル

二十一番雨森菊太郎曰此議論ノ趣旨ニ拘ラス再議ト云フコトハ順序間違ヘルノミナラス出來サルコトナリト難論セシニ二十四番下間庄右衛門モ同感ヲ表ス

二十番畑 道名曰二十一番及二十四番ヨリ再議ハ出來スト云フト雖モ先ニ議決セシ拾萬圓ヲ取消サ、レハ如何トモスルコト能ハス故ニ再議シテ増減スルハ正當ノ順序ナラント辯ス

二番大澤善助曰本日午後ハ全ク議事順序ノ御論究ナリシカ是等ノコトハ御相談ノ上ニテ如何共爲シ得ラルヘシ依テ本日ハ散會シテ相談シタル上ニテ議スヘシト陳述ス

議長西村七三郎ハ論旨盡キタリト認メ二十番ノ建議ニ反對シテ不可採用トセル二十一番説ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ九名ノ少数ニテ消滅シタルヲ以テ更ニ二十番ノ建議拾萬圓ヲ以テ再議セントスル説ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ十六名ノ過半数ニヨリ可決ス

二十番畑 道名曰本會ノ決議ヲ再議セシコトヲ議長ヨリ市參事會ヘ要求アリタシト述ヘタリ

二十四番下間庄右衛門曰如何ナルコトヲ請求スルヤ拾萬圓ハ既ニ決議シタルモノナリ然ルニ之ヲ翻スコトハ恐ラク出來サルヘシ一向其趣旨ノアル所ヲ知ラスト難ス

三十五番古川吉兵衛曰二十四番ノ説モ御尤モナリ併シ要求スルト決定セシ以上ハ兎モ角市參事會へ要求セハ可ナリ其上ノ出來事ハ其後ニ處セント論ス

四番西堀徳二郎曰調査ノ報告ヲ了シタルヲ以テ先ニ議決セシ拾萬圓ヲ再議センコトヲ要求セハ可ナリト辯ス

二十一番雨森菊太郎曰確定シタル豫算ヲ再議スルコトカ出來ルトハ一向分ラサルナリト難ス

四番西堀徳二郎曰是カ經常費ナレハ致方ナクレトモ隨意事業ナルヲ以テ再議スルモ可ナリト論シ二十番畑道名モ決シテ再議ノ出來サルコトナシト辯ス

十七番中安信三郎曰既ニ決議セシ以上ハ致方ナクレハ要求スヘシト云ヒ十四番河村清七ハ再議スルハ前例アレハ可ナリト論セリ

議長西村七三郎曰然ラハ議長ヨリ要求スルコトニセン依テ市參事會ヨリ其報告ノアル迄ハ暫ク休會スヘシト告ケ散會ス其請求書ハ左ノ如シ

議案下附請求書

本會ハ曩ニ明治二十三年度歳入出追加豫算歳出臨時費第三款鴨川筋新運河工費ニ對シ委員ヲ選ヒ之レニ委託スルニ該設計ノ當否ヲ調査シ及其他ノ利害ヲ討究スルコトヲ以テセリ依テ今回同委員ヨリ調査ノ顛末ヲ報告セラレ種々質疑ヲ遂ケ報告ノ終了ヲ告グルニ至レリ就テハ同工費ニ對シ今一應審議致度候ニ付先ニ議決報告セシ同工費ヲ以テ更ニ本會ニ附議セラレンコトヲ全會ノ意見ヲ以テ此段請求仕候也

明治二十四年二月十八日

市會議長 西村七三郎

京都市參事會

京都府知事北垣國道殿

市會 第十一回

同月二十三日開會出席議員三十二名缺席議員十名議長西村七三郎ハ前會ニ決議セシ議案下付請求書ニ對シ號外議案トシ市參事會ヨリ發附セラレタレハ開議スル旨ヲ告ク其案ハ左ノ如シ

號外議案

鳴川筋新運河工費ニ對シ客年十一月本會ノ建議ニ依リ設計ノ當否及其他ノ利害ニ就テ調査委員ノ報告ヲ了スルマテ工事ヲ見合セシモ既ニ報告終結セルニヨリ當初決議ノ通ヲ以テ施行スルモノトス

四番西堀徳二郎日此議案ハ當初決議ノ通ヲ以テ執行セン

ト云フ諮問ノ如キモノナルカ本會ヨリ請求セシモノハ今一應審議セント望ミタルユトニテ其節議事ノ模様ハ參事會員モ出席シテ能ク御承知ノユト、信ス然ルニ當時十三番ヨリ提出シテ否決ナリシ如キ議案ヲ發シテ本會ノ請求ニ反對セルハ如何ト難詰ス

番外一番北垣府知事日唯今ノ御尋子ハ或ハ市長ニ於テ順序ヲ失シタル事柄アルヤモ知レズ併シナカラ彼ノ請求ニ應シテ此號外議案ヲ出セシ理由ハ當初建議ノ模様夫ヨリ今日迄ノ成行等ニ照シテ市長ノ見込ニテハ適當ノモノナリト思ヒ出セシナリ尤モ市參事會ト市會トハ相待テ此京都市ナル一ノ法人ヲナスモノナリ然ラハ其精神ハ健康體ヲ以テ安全ナル仕事ヲナスカ當然ナリ依テ市會ト市參事會トハ各其本分ヲ重ニスルト共ニ其權利ヲ重ンセサルヘ

カラス然レトモ己レノ權利ヲ保タンカ爲メ彼ノ權利ヲ犯
 ストトナ得ス故ニ相互ニ權利ヲ重ンシテ初メテ完全ヲ保
 ツヘケレハ相互ノ權利ヲ侵サス市長モ其職ヲ冒サス市會
 ナ重ンシテ出シタルモノナレハ四番ニ於テモ其邊ニテ御
 了解ヲ乞フト辯明ス

十二番西村義民曰四番ト番外トノ應答ニテ略了解セリ本
 員ハ調査委員ノ一人ナルヲ以テ先日ノ會ニ報告セシニ少
 シ行違フタレハ一旦取消シ其後議事ノ終ラサル前ニ退場
 セシカハ其後ノユトハ知ラサレトモ此議案ノ出タルヲ以
 テ考レハ委員ノ報告ハ終了セルモノ、如シ併シ本員ハ未
 タ委員ノ調査報告ハ終了セスト思フ其ハ建議ニヨリテ委
 員ニ托サレタル利害ノユトハ未タ報告セサリシ去ルニモ
 拘ラス既ニ終了セリトスルハ如何ナル譯ナルヤ其ハ兎モ

角此事ハ頗ル重大ナル事件ナルヲ以テ議事細則二十三條
 ニヨリ全會委員會ヲ開テ充分研究シタシト建議セシニ三
 十八番穴戸龜三郎ハ此事ニ就テハ過日來十分討議ナリシ
 モ滿場諸君ノ内ニハ目的其物ノ利害ヲ顧ミスシテ單ニ情
 實ノ爲ニ制セラル、モノアリテハ京都市ノ爲ニ賀スヘキ
 ヲトナリヤ否本員ハ實ニ涙ヲ流シテ歎セサルヲ得ス先ニ
 斷行說ヲ維持スル人々ハ種々ノ感情的ヨリ此頃ハ妙ナコ
 トヲ風説セリ是等ハ全ク我々カ斷行ニ反スル意見ヲ充分
 御承知ナキコト、信ス故ニ談話的ニテ研究ヲ遂ク其後議
 事ニ掛レハ可ナラント賛成ノ意ヲ陳述シ議題トナル
 四番西堀徳二郎曰十二番ノ建議採用スヘカラス此兩三日
 以來ハ此事ニ付有志者等カ議員ノ家ヲ尋ルトカ云々ヲ耳
 ニセルカ斯ノ如キ卑劣手段ヲ以テ一時ノ勝ヲ制セントス

ルモノハ取ルニ足ラサレハ其スルカ儘ニ任スヘシ本員等
 ハ決シテ斯ルコトヲ意トセス唯京都市ノ利害ノ外ハ見ル
 コトナシ故ニ縦ロ敗ヲ取ルトモ輿論ニ訴ヘテ正邪ヲ辨ス
 ヘケレハ此儘ニテ決議スヘシト主張シタルニ三十五番古
 川吉兵衛ハ唯今ノ場合ハ十二番ノ如クスルモ其功ナカル
 ヘシ何トナレハ今日迄病氣ト披露セシ人モ今朝ハ忽チ出
 席セリ其他推シテ知ルヘシトテ賛成シ又議題トナル
 十四番河村清七日種々ノ僻言出テシモ此議場ニハ必要ナ
 シ併シ議事ハ本會ニ於テ正々堂々ト議スヘシト論斷ス
 十二番西村義民曰四番ノ反對モ御尤モナリ然レトモ先刻
 三十八番モ述ヘシ如ク議場ノ内外ヲ顧ミルニ種々ノ出來
 事アリテ若シ一名ヤ二名ノ多數ヲ以テ決スルトキハ大ニ
 議員ノ感情ヲ損ス獨リ此工事ノミニ止ラス將來ニ奇妙ナ

ル弊害ヲ貽サン依テ此際ハ能ク熟議シテ大多數ヲ以テ可
 決シタシ他ナシ之レ本員カ將來ノ事ヲ慮リテ彼ノ名古屋
 ノ如キ横濱ノ如キ惡弊ナカラシムトテ希望スト自説ヲ維
 持セリ

二十四番下間庄右衛門曰四番ノ如キハ少々立腹シタルモ
 ノ、如シ尤モ反對者モ此頃ハ餘程務メタル様子ナリ是レ
 ハ前決議ノ際ヨリ之ノ如キコトアリテハ京都市ニ疵ヲ付
 シルナリ各員京都市ノ爲ヲ思ハル、ナレハ感情ニ制セラ
 レス虚心平氣ニ議決アラシムトテ望ム唯今十二番ノ建議
 ノ如キハ充分賛成ナリ先刻四番ニ對シ市長ノ説明ニ市會
 ト市參事會ハ相待テ京都市ナル法人ヲナストハ御尤モナ
 リ併シナカラ市會ハ決シテ市參事會ヲ攻撃シタルニアラ
 ス又權利云々ノコトヲ謂ハレシモ畢竟前決議ヲ取消スコ

トハ出來スト云フニ止ルヘシ是等ハ六ヶ敷云ハスト平々
 シ云フトキハ能ク分ルナリ而シテ市長ハ之ヲ斷行スルノ
 主眼タルヤ北海道ノ荷物ヲ引寄ルヲ以テ主トセルモノ、
 如シ本員モ之ニ就テハ取調タルコトモアルナリ依テ何レ
 ニ決スルモ此事丈チ市長ヨリ辯明アリタシト望ミタルニ
 十番富田半兵衛ハ御求メハ議事錯雜スルヲ以テ十二番ノ
 建議ヲ採決シタル後ニスヘシト云ヒ三十二番清水吉右衛
 門ハ十二番及四番説ハ何レモ御尤モナレ共速カニ賛否ヲ
 表スルハ困難ナレハ暫時休憩シテ熟考ノ時間ヲ與ヘラレ
 シコトヲト望メリ

五番野原新造曰十二番ノ建議ハ不可ナリ何トナレハ此事
 タル今初リタルニアラス長クト議セシ後ナレハ俄ニ委員
 會ヲ開クモ其功ヲ見ルコト難カルヘシト反對ス

二十一 番雨森菊太郎曰此事ニ就テハ種々ノ議論アリテ隨
 分不穩當ノ言モ出タリ是等ハ議場ノ失體ヲ顯スモノナレ
 ハ成ルヘク慎シムヲ可トス又感情ニ制セラレテハ不可ナ
 リトノコトモアリシカ凡テ物事ハ熱心ノ餘リ感情ニ支配
 セラル、コトハ免レサレトモ之ニ制セラレサル様ニナレ
 ハ誠ニ結構ナリ併シ今日ノ人間ニシテハ到底免カル、能
 ハサルナリ依テ十二番説ノ功ノ有無ハ兎モ角其趣旨ニハ
 大賛成ナリト述フ

番外一 番北垣府知事曰二十四番ヨリノ御尋ニ付一々此處
 ニ於テ答フルトキハ餘程時間ヲ費スヘケレハ一層談話ニ
 シテハ如何ト照會セシニ二十四番下間庄右衛門ハ夫レニ
 テ可ナリト答フ

議長西村七三郎ハ論旨盡キタリト認メ此號外議案ノ一次

會ニ就テハ全會委員會ヲ開クヘシトスル十二番ノ建議ニ
反對スル四番説ヲ可トスル者ニ起立セシメタルニ十二名
ノ少數ニテ消滅セシヲ以テ次ニ十二番ノ建議ヲ可トスル
者ニ起立セセメタルニ二十二名ノ過半数ニヨリ全會委員
會ヲ開クニ決ス

全會委員會ハ傍聽ヲ禁シタルヲ以テ記事ヲ省ク

市會四十二
第十二回

市會 第十二回

同月二十四日開會出席議員三十四名缺席議員八名議長西
村七三郎ハ號外議案ノ一次會ヲ繼續スル旨ヲ陳告ス
三十五番古川吉兵衛ハ一次會ニ於テハ質問スルコトナク
レハ直ニ二次會ニ移ランコトヲ望ミ他ニ異議ナキヲ以テ
一次會ハ原案ニ決シ二次會ヲ開キ十番ヨリ提出ニ係ル修
正案ヲ朗讀セシム其案左ノ如シ

鴨川筋新運河工費ニ對シ客年十一月本會ノ建議ニ依リ
設計ノ當否及其他ノ利害ニ就キ調査委員ノ報告終結セ
リ該工事ハ來ル二十五年度ニ於テ起工スルモノトス
十番富田半兵衛曰此修正ノ理由ヲ簡單ニ述ヘン疏水事業
モ略落成シテ一段落ヲ告クタレントモ未タ水力換電機「イン
クライン」ノ利用ヲ見ルノ日ニ至ラサレハ此成功ヲ見テ工
事ニ着手セントノ意ナレハ延期スルニアリト述ヘタルニ
十七番中安信三郎二十四番下間庄右衛門ノ賛成アリテ議
題トナリ三十八番穴戸龜三郎及四番西堀徳二郎ヨリ文章
ノ修正説出タルモ賛成者ナク自然ニ消滅ス
議長西村七三郎ハ論旨盡キタリト認メ十番ノ修正説ニ同
意者ヲ起立セシメタルニ三十一名ノ多數ニヨリ可決セシ
ニ二十三番河北武兵衛及三十二番清水吉右衛門ハ二次會

ヲ以シ確定センコトヲ希望シ他ニ異議ナキヲ以テ三次會
ヲ省略シテ確定シ左ノ通報告セリ

報 告

一 號外議案

右別紙^{修正案}ノ通^ノ議定候條此段及報告候也

明治二十四年二月二十四日

市會議長 西村七三郎

京都市參事會

京都府知事北垣國道殿

同月二十七日市參事會ニ於テハ右報告ヲ領シテ工事ヲ中
止スルコト、定メ左ノ通府知事へ上申セリ

市庶第五號

鳴川筋新運河工事ノ儀ハ市會ニ於テ別紙^{報告}ノ通^ハ號外
議案ノ通り來ル二十五年度ニ於テ起工スル事ニ議決致

候ニ付施行ノ儀ハ右議決ニ基キ御取扱相成度候様致度
此段上申致候也

京都市參事會

明治二十四年二月二十七日

京都府知事北垣國道

京都府知事北垣國道殿

市 會 第十三回

二十四年
第十三回市會

同年三月十二日開會出席議員三十名缺席議員十二名議長
西村七三郎ハ左ノ議案ニ付一次會ヲ開ク異議ナク原案ニ
決シ三次會ヲ省略シテ二次會ヲ以テ原案ノ通確定ス

第四十九號議案

二十三年度鳴川筋新運河工費豫算ハ測量及其他施行セ
シ費金ヲ除キ二十五年度ニ於テ起工スルニ付二十三年
度新運河豫算ニ係ル收支拾萬圓ヲ更正シ收入ノ部八萬

圓ノ市公債募集ヲ工事ト共ニ二十五年年度ニ譲リ而シテ
支出ノ部ヲ金貳千八百六拾九圓貳拾錢四厘トシ算出上
餘剩ニ屬スル壹萬七千百參拾圓七拾九錢六厘ヲ以テ公
債証書ヲ購入シ追テ該年度ノ都合ニ依リ公賣ノ上收入
ニ充ルモノトス

參 考 書

一金貳千八百六拾九圓貳拾錢四厘

內

金七百九拾六圓參拾壹錢八厘 測 量 費

金參百八拾六圓四拾八錢六厘 雜 費

金千六百貳拾六圓四拾錢 石 代

金 六 拾 圓 官 林 山 代

同月二十三日市會議長ハ右原案ノ通可決セシヲ以テ左ノ

通市參事會へ報告セリ

報 告

一第四十九號議案

右別紙前掲ノ通ノ通議定候條此段及報告候也

明治二十四年三月二十三日

市會議長 西村七三郎

京都市參事會

京都府知事北垣國道殿

同月二十五日市參事會ハ右報告ヲ領シ市公告第七號ヲ以
テ鴨川筋新運河起工延期ノ件ヲ公告ス

同年四月十三日府知事ハ又内務大臣へ左ノ通上申ス

官市第一號

京都市有ニ屬スル琵琶湖線路疏水内京都市夷川ヨリ紀
伊郡伏見町ニ至ル開鑿工事ノ儀ハ市經濟ノ都合ニ依リ

明年度ニ於テ起工候事ニ市會ニ於テ決議致候ニ付此段
上申致置候也

明治二十四年四月十三日

京都府知事北垣國道

内務大臣伯爵西郷從道殿

工事中止

右ニテ本工事ハ一旦中止トナリタレハ二十三年度ニ支出
セシ臨時費ノ決算ヲ示ス左ノ如シ

明治二十三年度京都市歳出臨時費決算

科	目	豫算額		決算額	差
		入	出		
鴨川筋運河工費		二、八六九、二〇四	二、七六六、五二四	七二、六八〇	〇

明治二十三年度京都市歳入出實額比較表

科	目	歳入		歳出		差引
		實額	預算額	實額	預算額	
鴨川筋運河工費		二、七六六、五二四	二、八六九、二〇四	二、七六六、五二四	二、七六六、五二四	〇

建議

同年八月十九日當時東京滯在中ナル原籍京都市上京區柳馬場御池南へ入柳八幡町第三番戸止宿吉田耕雲ナル者及原籍京都市下京區四條通烏丸西へ入函谷鉾町第十四番戸止宿加來啓次郎ナル者等請願書ヲ市會議員へ提出ス其概要ハ本年二月二十二日京都市會ニ於テ疏水ノ末流ヲ引用シ東山ヨリ伏見桃山迄運河開通起工ノ義將ニ議決セントスル際有志者其舉ヲ非トシタルニ市會モ之ヲ容レ遂ニ一箇年ノ延期トナリタルハ市民ノ幸福ナリ耕雲ハ夙ニ琵琶湖ノ流口勢田川ヲ掘鑿シテ現形ヨリ六尺乃至十二尺ヲ切下シカ湖岸幾萬町歩ノ田地ヲ新開スルノ意見ヲ抱キ百方計畫スル所アルモ時運未タ至ラス其後東奔西走有志ノ贊成ヲ得タレハ素志ヲ果スモ亦遠キニアラサルヘシト信ス然ルニ十六年以來琵琶湖疏水工事起リテ大ニ落膽セルハ

其工成ルト同時ニ湖水ハ涸レテ水量幾尺ヲ減スレハ京都ニ向ツテハ一滴ノ流水モ來ラサルヤ明ナリ市會議員諸君ハ賢明達識ナレハ東山運河開通工事ノ不急不用ナルコトヲ知了セラルレハ壹厘半錢タリトモ投セラレサルヘシ況ンヤ先キニ疏水工費支出ノ爲メ瘦弊困難セル京都市ニ猶之レヲ重キシムル道理ナルノミナラス疏水路ノ如キハ他日道路ニ變更利用スル途アルモ東山運河ノ如キハ更ニ利用スルノ途ナキニ於テチャト云フニ在リテ廢止ヲ希望セリ

二十五年建議

明治二十五年三月八日京都市實業協會員京都市新町通丸太町北へ入春帶町能勢儀兵衛同市上京區兩替町二條下ル金吹町吉野久和同市上京區上長者町通室町西へ入元淨華院町片桐正雄同市下京區六角通室町東へ入骨屋町荒川宗

助同市上京區西洞院通樵木町北へ入堀五郎兵衛等ヨリ市會ニ建議セル概要ハ曩ニ琵琶湖疏水工事起工ノ當時世ノ論者ハ此工事ヲ以テ京都ノ經濟上得策ニアラサルコトヲ論評シタルニ果セル哉其結果論評ノ如クナリシハ既ニ確知セラル、所然ルニ今又鴨川ニ新運河ヲ開鑿セントノ發案アルモ我等ノ觀察ニヨレハ當市ノ繁榮上直接間接共ニ便益ヲ與フルコト僅少ナルノミナラス目下急要ト認ムル能ハス況ンヤ繁榮ヲ圖ルニハ此他ニ急要ノ事業少シトセサルニ於テチヤ加之諸營業者ハ諸稅負擔ニ困苦スル折柄此不急工事ヲ起スカ爲ニ藝娼妓遊藝稼人ニ迄多ク賦稅セントスルハ益々不可ナリ是獨リ我等ノ考察ノミニアラスシテ市民多數ノ所見ナラン故ニ事理ヲ觀ルニ明敏ナル議員諸君ハ該事業カ當市ニ與フル便益ノ多少及其他事業ト

緩急ノ得失如何等ヲ洞察セラレ該案ヲ廢棄セラレシムト
ヲ希望スト云フニ在リシ

二十五年第
十四回市會

市會 第十四回

明治二十五年三月八日開會出席議員三十四名缺席議員七
名缺員一名議長中村榮助ハ市會議員中安信三郎畑道名清
水吉右衛門松下新助西村義民上野宇八古川吉兵衛西村七
三郎林長次郎矢野長兵衛中川長平中孫三郎岡本治助河北
武兵衛岸田九兵衛中村平右衛門高橋正意田中善右衛門野
原新造荒木重兵衛等ヨリ連署ノ建議ヲ提出サレタレハ會
議スヘキ旨ヲ陳告ス全文ハ左ノ如シ

鳴川新運河開鑿工事ニ關スル建議

新運河開鑿ノ事ハ昨年ノ市會ニ於テ一年ノ後ヲ期シ起
工スヘキノ決議アリタリト雖モ此事ヤ京都市ニ關スル

重大問題ニシテ必スシモ一時ノ議決ニ拘泥シテ起工ス
ヘキモノニアラス本員等深思熟考スルニ疏水工事ニ對
スル善後ノ策ハ惟リ新運河ノ開鑿ニ止マラス他ニ講究
スヘキモノアルカ如シ而シテ其調査講究未タ周到ナラ
ス隨テ其方針確立セサル今日ニ於テ俄ニ新運河ノ開鑿
ニ着手スルハ早計ニ失スルノ嫌ハアルノミナラス目下
市ノ經濟ハ未タ整濟ノ場合ニ至ラサルヲ以テ此時ニ當
リ新稅源ヲ求メテ新事業ヲ起スカ如キハ事ノ宜シキヲ
得タルモノニアラサルナリ他日府縣制ハ實施セラレ特
別市制ハ撤去セラレ地方經濟ノ基礎確立スルヲ待テ徐
ロニ着手スルモ敢テ晚キニ非サルヘシ依テ一ト先昨年
ノ議決ヲ取消サントス此段建議候也

十七番中安信三郎曰建議ノ趣旨ヲ陳述セン此鳴川新運河

開鑿工事ハ二三年以前ヨリ我市ノ大問題ニシテ深思熟考
ヲ要スル勿論ナリ然ルニ昨二十四年度ノ本會ニ於テハ其
設計ヲ調査ノ末本年度ヨリ起工スルコト、ナリシモ其際
ハ議場外ノ運動非常ニシテ漸ク通過セシ譯ナリ併シ今回
ハ然ラス議會ノ大勢既ニ定リ議場外ノ輿論ハ既ニ成リ又
動スヘカラス本員等過日來調査委員ノ席ヲ汚シ全體ニ注
意スルニ漸ク此新運河開鑿工事ヲ廢スルハ得策ト確信シ
テ寸毫モ疑ヲ其間ニ挾マス元來京都市ハ疏水工事ニ精神
ヲ奪ハレ一定ノ政策アルコトナシ隨テ新事業ニ對シ取ル
所ノ方針確立セス而シテ又疏水ノ水路ヲ視ルニ運送頻繁
ナラサレハ今敢テ新運河ヲ開鑿スルノ要ナシ強テ必要ト
云ハンカ惟リ此鴨川新運河開鑿ノミナラス堀川改修ノ如
キ疏水分線路改良ノ如キモ亦講究スヘキノ問題ナラン殊

ニ府制ヲ實施シ特別市制ヲ撤去セララル、ニモ格別ノ長日
月ヲ要セサルヘシト思ヘハ其上ニテ充分ノ考ヲ廻ラシ是
等事業ニ向ツテ着々歩ヲ進ムモ決シテ晚キニアラサルヘ
シ是此建議ヲ提出セシ所以ナレハ喋々ノ議論ヲ須ヒス通
過セラレヨト望メリ
十三番東枝吉兵衛曰此建議ニ對シテ言ヲ費スハ殆ント無
用ニ似タレトモ苟クモ議員ノ職ニ在ル限リハ止ムナク一
言セサルヲ得ス建議者ハ此工事ヲ目シテ新事業ナリト云
フモ決シテ然ルニアラス謂ハ、疏水事業ニ附帶セル繼續
工事ナリ若シ此工事ヲ延サントスルトキハ疏水ノ結末ヲ
付サルコト、ナラン畢竟疏水工事ノ成功セサルニ斯ル建
議ノ顯ハル、ハ全ク前議會ノ講究足ラサルカ爲メナリト
ハ云ヘ今日ニ於テ此事ヲ述フルハ時期後レ居ルナリ再言

百八十六
スレハ疏水工事ヲ起スノ際ニ於テ述ヘサル可ラサルノコトナリ故ニ今日廢棄スルハ不利益ナレハ進ンテ尻ヲ結ヒ結果ヲ付ルハ至當ノ策ナラント思フ尤モ新稅ノ事ヲ援引シテ廢セントスルノ議論アレトモ之レヲ譬フレハ我愛兒ニ甘キ食物ヲ與ヘスシテ苦キモノヲ與フルカ如シ甘キ物ヲ與フレハ愛兒ハ爲メニ一時ノ笑顔ヲ造ルモ身體ノ爲メニハ害アリ之ニ反シ苦キ物ヲ與フレハ愛兒ハ喜ハサルモ身體ニ益アリ運河ノ設ハ則チ市民ニ苦味ヲ與フルカ如シ又或人ハ工費ヲ投スル丈ノ利益アルニアラサレハ廢スヲ可ナリト云フモ此説タル將來全体ノ利害ヲ講究セシモトモ思ハレヌ又之レカ講究ノ結果ナルカモ知レサレトモ數年來巨額ノ金ヲ投シナカラ其結末モ付クス此儘ニ打捨置ク方京都市ノ利益ナリト云フコトヲ見出スニ苦シムナ

百八十七
リ今之レヲ評センカ恰モ東京ニ行クニ箱根ノ嶮ヲ越ヘ引還サントスルニ等シクレハ今日中止セントスルカ如キハ最早時期ヲ失シタルモノナレハ速ニ此結末ヲ付クルコトヲ將來ニ親切ヲ盡スモノト云フヘシト建議案ニ反對ス番外一番尾越書記官曰市長代理者カ言フニハ及ハサレトモ此事ハ容易ナラサルコトナレハ一應建議者ニ御尋セン此建議ニハ既ニ多數ノ賛成者モアルコトナルカ其主旨ハ昨年ノ決議ヲ取消ト云ヘル如シ之レヲ取消セハ如何ナルコトニナルヤヲ聽タシト望ム
十七番中安信三郎曰重大事件ノ問題ヲ提出スルトキハ兎角參事會ヨリ難問ヲ出タシテ本會ヲ迷ハスコトアリ番外ニ於テ唯今ノ如キ問アレハ本場外ニテ御尋アレハ飽迄答辯スル都合ナリシニ此場ニ於テ質問ヲ發セラルカ如キ

ハ自治體ノ圓滑ヲ缺クノ恐レアリ併シ御尋ナル故答ヘン
二十四年度ノ議會ニ於テ二十五年度ヨリ起工スルニ決議
シ置ナカラ前年度ニ遡リテ取消ハ如何トノ疑ナランカ昨
年度ニ於テ本年度ヨリ起工スルトノ決議ハ其手續ヲ誤リ
シモノナレハ本年度ニ於テ取消ント云フニ在リテ其手續
ノ如キハ執行ノ責アル參事會ニ於テ之レヲナセハ可ナリ
ト答フ

番外一番尾越書記官曰十七番ハ六ヶ敷御難問ナリシカ番
外ハ今始テ拜承セシユトニテ此ノ如キ建議アルヘシトハ
夢ニタモ知ラサレハ議場外ニ於テ問フ由モナク承ル筋モ
ナシ況ンヤ此新運河工事ノユトハ昨年ノ議會ニ於テ調査
モ結了シテ起工スルユトニナリシヲ以テ上司ノ許可ヲ得
且收用法ノユトニ關シテハ既ニ内閣ヨリ告示ヲ發シ居ラ

ル、ナリ左スレハ今年度ノ議決ヲ取消ト云フ上ハ前ノ
工事設計則チ二十二年度ノ拾萬圓ノユトヲモ取消ト云フ
ユトナルヤ是ヲ尋ヌルナリ番外ノ考ハ市會ニテ決議ヲ取
消ハ隨意ナルカ如キモ一旦再調査迄ナシテ決議セシモノ
ヲ取消ハ甚タ六ヶ敷ユトニ思フト陳述ス
十七番中安信三郎曰建議書ニモアル通取消ナリ尤モ之レ
ヲ取消セハ當局者ノ困難ナルユトハ承知スレトモ京都市
ノ輿論ナレハ是ニ對スル相當ノ處置アラシユトヲ併テ希
望スルナリト答フ
三番大澤善助ハ此建議案ニ反對セル十三番ヲ賛成シ議題
トナリ十四番河村清七ハ建議案ニ賛成ス
三十一番雨森菊太郎曰本案ハ餘程講究ヲ要スルユトナレ
トモ此場合議論ヲ試ムルモ益ナシト思フカ前案ノトキニ

モ述ヘシ如ク將來此ノ如ク過半数ノ同意ヲ以テ建議スル
ナキヲ欲スルナリ萬一斯様ノコトノ出來ルハ市會ノ組織
ニモ反對セリ併シ斯クナルハ事情ノアルアリテナレハ爰
ニ立テ至ラシムルモノモ亦罪アリ將來ニ於テハ市ノ公益
ヲ計リ會議ノ体裁ヲ保ツ上ニ於テ互ニ反省シ斯ルコトナ
カラシムトナ望ムト述フ

三十五番古川吉兵衛日本員モ建議者ノ一人ナルカ此事ハ
數年喧シカリシ末昨年ハ折合付キテ一年延スト云フコト
ニナリシモ元來本年ヨリ起工スルト決議セシハ無理ナル
事ニテアリシヨリ續々賛成者加ハリ終ニ二十名以上ニ及
シナレハ不都合ニハアラスト辯ス

二十七番林長次郎曰二十一番ノ説ハ御尤ニテ惡慣例ヲ
作ルハ宜シカラス併シ猶之レヨリ甚敷弊アリテ昨年成立

セシハ不都合モアリシト辯ス

二十一番雨森菊太郎曰一方ノ不都合ト云ヘルハ當議場ニ
現ハレスシテ一方ハ現ハレタレハ述ヘシナリト辯駁ス
番外一番尾越書記官曰結末ニ及ヒ市長代理ノ資格ヲ以テ
一言ナシ置クヘシ市會ノ決議ヤ重ク且關スル所大ナリ然
ルニ一旦決定シタルコトヲ取消ハ京都市ノ德義ニ反スル
コト、ハナラサルカト詰論ス

十番富田半兵衛曰德義ノ事ハ腦髓ニ訴テ判斷スルヨリ外
ナキナリ併シ本案ハ此儘延シ置キテ新議員ニ議サシムル
ヲ可トス何トナレハ新任議員ハ六箇年ノ長日月ナル任期
ナルノミナラス重大問題ヲ今退任セントスル議員ニ於テ
議スルハ法律上差支ナキモ德義上不可ナリト思ヘハナリ
又斯クスル方却テ圓滑ニ治ルヤモ知レスト論ス